

甲號ハ之ヲ官署ニ保存スルモノトス
 乙號ニハ送達者ニ於テ署名捺印ノ上受送達者ニ交付シ甲號ニ
 ハ送達者受送達者共ニ署名捺印スルヲ要ス
 備考欄ニハ受送達者ニ於テ送達書ノ受領ヲ拒ミタル等其ノ他
 送達ニ關スル事項ヲ記入スルモノトス
 受送達者ノ氏名ハ本人ヲシテ自署セシムヘシ若シ能ハサルト
 キハ送達者代テ之ヲ記シ受送達者ヲシテ捺印又ハ拇印セシメ
 其ノ旨備考欄ニ附記スヘシ

○國有未墾地利用法

光武十一年七月四日 改正 大正三年三月十六日
 法律第四號 附 令第三號

- 第一條 國有未墾地トハ民有ニ非サル原野、荒蕪地、草地、沼澤地及干潟ヲ謂フ
- 第二條 國有未墾地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ貸付スルコトヲ得
- 第三條 貸付期間ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第四條 貸付ヲ受ケタル者ハ「農商工部大臣」ニ出願シ許可ヲ受ケヘシ
- 第五條 貸付ヲ受ケタル者ハ「農商工部大臣」ノ定ムル所ニ依リ貸付料ヲ納付スヘシ

- 「農商工部大臣」ハ公益其ノ他ノ事由ニ依リ必要ト認ムルトキハ貸付料ヲ減免スルコトヲ得
- 第六條 貸付ヲ受ケタル者ハ「農商工部大臣」ノ許可ヲ受ケルニ非サルハ其ノ權利ヲ賣買、讓與シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス
- 第七條 國有未墾地利用ノ方法公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ「農商工部大臣」ハ其ノ改良又ハ停止ヲ命スヘシ
- 第八條 「農商工部大臣」ハ左ノ場合ニ於テ貸付ノ許可ヲ取消スコトヲ得
 - 一 詐偽又ハ錯誤ニ依リテ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ
 - 二 貸付ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ
 - 三 前條ノ命令ニ從ハサルトキ
 - 四 貸付ノ許可ノ條件ニ違背シタルトキ
 - 五 法定又ハ指定ノ期間内ニ貸付料又ハ罰金ヲ納付セサルトキ
- 第九條 削除
- 第十條 自己ノ便宜ニ依リ貸付ヲ受ケタル土地ヲ返還シタル場合又ハ第八條ノ規定ニ依リ貸付ノ許可ヲ取消シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル構築物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ「農商工部大臣」ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ期間内ニ除去セサルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十一條 本法ノ規定ニ依ラスシテ國有未墾地ヲ利用シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處分ハ「農商工部大臣」之ヲ行フ

第十二條 本法ヲ施行スルニ必要ナル命令ハ「農商工部大臣」之ヲ定ム

第十三條 本法及施行細則ノ規定ニ依ル處分ハ「統監」ノ同意ヲ經ルヲ要ス

第十四條 三町步(九千坪)ヲ超エサル國有未墾地ノ利用ニ付テハ當分ノ間舊慣ニ依リ本法ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

附 則

第十五條 本法發布前ニ國有未墾地ノ利用ノ許可ヲ受ケ其ノ效力尙存續スルモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ「農商工部大臣」ノ認證ヲ請フヘシ其ノ認證ヲ受ケタルトキハ第四條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 本法ニ抵觸スル法令ハ之ヲ廢止ス

第十七條 本法ハ光武十一年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前國有未墾地利用法ニ依リ賣下又ハ付與シタル土地ノ稅率ニ付テハ其ノ賣下又ハ付與ノ翌年ヨリ五年ノ期間滿了スルニ至

ル迄仍從前ノ例ニ依リ(大正三年三月附令第三號ニテ追加)

○國有未墾地利用法施行規則

十九日 號

- 第一條 本法ノ施行ニ關シテ「農商工部大臣」ハ其ノ土地ヲ之ニ付與ス
- 第二條 前條ニ規定スル場合ヲ除ク外國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ヲ之ニ拂下ク
- 第三條 貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功セサル場合ト雖モ土地ノ整理上支障ナシト認ムルトキハ其ノ成功シタル部分ニ限り付與又ハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ
- 第四條 貸付地中道路、溝渠、物揚場等公共ノ用ニ供スヘキ部分ハ貸付ノ際豫メ之ヲ指定シ事業成功ノ後無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ
- 第五條 貸付ニ依リ從來其ノ土地ニ關シ利害關係ヲ有スル者ニ損害アリト認ムルトキハ貸付ヲ受ケル者ニ對シ其ノ損害補償ノ條件ヲ附スルコトアルヘシ

甲號ハ之ヲ官署ニ保存スルモノトス
 乙號ニハ送達者ニ於テ署名捺印ノ上受達者ニ交付シ甲號ニ
 ハ送達者受達者共ニ署名捺印スルヲ要ス
 備考欄ニハ送達者ニ於テ送達書ノ受領ヲ拒ミタル等其ノ他
 送達ニ關スル事項ヲ記入スルモノトス
 受達者ノ氏名ハ本人ヲシテ自署セシムヘシ若シ能ハサルト
 キハ送達者代テ之ヲ記シ受達者ヲシテ捺印又ハ押印セシメ
 其ノ旨備考欄ニ附記スヘシ

○國有未墾地利用法

光武十一年七月四日 改正 大正三年三月十六日
 法律 第四四號 附 令 第三號

第一條 國有未墾地トハ民有ニ非サル原野、荒蕪地、草地、沼澤地及干潟ヲ謂フ
 第二條 國有未墾地ハ本法ノ規定ニ依リ之ヲ貸付スルコトヲ得
 貸付期間ハ十箇年ヲ超ユルコトヲ得ス
 第三條 貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ「農商工部大臣」ハ其ノ貸付ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ土地ヲ拂下又ハ付與スルコトヲ得
 第四條 貸付ヲ受ケムトスル者ハ「農商工部大臣」ニ出願シ許可ヲ受ケヘシ
 第五條 貸付ヲ受ケタル者ハ「農商工部大臣」ノ定ムル所ニ依リ貸付料ヲ納付スヘシ

「農商工部大臣」ハ公益其ノ他ノ事由ニ依リ必要ト認ムルトキハ貸付料ヲ減免スルコトヲ得
 第六條 貸付ヲ受ケタル者ハ「農商工部大臣」ノ許可ヲ受ケルニ非サルハ其ノ權利ヲ賣買、讓與シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス
 貸付ヲ受ケタル者ノ權利ハ之ヲ相續スルコトヲ得
 第七條 國有未墾地利用ノ方法公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ「農商工部大臣」ハ其ノ改良又ハ停止ヲ命スヘシ
 第八條 「農商工部大臣」ハ左ノ場合ニ於テ貸付ノ許可ヲ取消スコトヲ得
 一 詐偽又ハ錯誤ニ依リテ許可ヲ與ヘタルコトヲ發見シタルトキ
 二 貸付ヲ受ケタル日ヨリ一箇年以内ニ事業ニ著手セサルトキ又ハ著手後相當ノ事由ナク豫定ノ進行ヲ爲ササルトキ
 三 前條ノ命令ニ從ハサルトキ
 四 貸付ノ許可ノ條件ニ違背シタルトキ
 五 法定又ハ指定ノ期間内ニ貸付料又ハ罰金ヲ納付セサルトキ
 第九條 削除
 第十條 自己ノ便宜ニ依リ貸付ヲ受ケタル土地ヲ返還シタル場合又ハ第八條ノ規定ニ依リ貸付ノ許可ヲ取消シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ存在スル構築物其ノ他ノ物件アルトキハ所有者ハ「農商工部大臣」ノ指定スル期間内ニ之ヲ除去スヘシ其ノ期間内ニ除去セサルトキハ其ノ物件ハ國ノ所有ニ歸ス

第十一條 本法ノ規定ニ依ラスシテ國有未墾地ヲ利用シタル者ハ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ處分ハ「農商工部大臣」之ヲ行フ

第十二條 本

定ム

第十三條 本

ルヲ要ス

第十四條 三

當分ノ間置

附

第十五條 本法發布前ニ國有未墾地ノ利用ノ許可ヲ受ケ其ノ效力尙存續スルモノニ付テハ本法施行ノ日ヨリ三箇月以内ニ「農商工部大臣」ノ認證ヲ請フヘシ其ノ認證ヲ受ケタルトキハ第四條ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第十六條 本法ニ牴觸スル法令ハ之ヲ廢止ス
 其ノ認證ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ土地ヲ拂下又ハ付與ス

第十七條 本法ハ光武十一年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前國有未墾地利用法ニ依リ賣下又ハ付與シタル土地ノ稅率ニ付テハ其ノ賣下又ハ付與ノ翌年ヨリ五年ノ期間滿了スルニ至

ル迄仍從前ノ例ニ依 (大正三年三月訓令第三號ニテ追加)

○國有未墾地利用法施行規則

明治四十四年六月二十九日
 附 令 第八號

第一條 開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ヲ之ニ付與ス但シ土地ノ狀況其ノ他特別ノ事由ニ依リ拂下ノ必要アリト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラス
 公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ノ爲貸付ヲ受ケタル者又ハ農民若ハ漁民ノ居住ノ爲貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ヲ之ニ付與ス
 第二條 前條ニ規定スル場合ヲ除ク外國有未墾地ノ貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功シタルトキハ其ノ土地ヲ之ニ拂下ク
 第三條 貸付ヲ受ケタル者豫定ノ事業ヲ成功セサル場合ト雖モ土地ノ整理上支障ナシト認ムルトキハ其ノ成功シタル部分ニ限り付與又ハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ
 第四條 貸付地中道路、溝渠、物揚場等公共ノ用ニ供スヘキ部分ハ貸付ノ際豫メ之ヲ指定シ事業成功ノ後無償ニテ返還セシムルコトアルヘシ
 第五條 貸付ニ依リ從來其ノ土地ニ關シ利害關係ヲ有スル者ニ損害アリト認ムルトキハ貸付ヲ受ケル者ニ對シ其ノ損害補償ノ條件ヲ附スルコトアルヘシ

第六條 公用又ハ公共ノ利益トナルヘキ事業ニ供スル爲必要アリト認ムルトキハ貸付地ノ一部若ハ全部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ返還地ヲ使用スル者ハ貸付ヲ受ケタル者ニ其ノ直接ニ受ケヘキ損害ヲ補償スヘシ

返還地ニ工作物其ノ他ノ物件存在スルトキハ其ノ移轉料ヲ補償シ又ハ之ヲ買收スヘシ

第七條 前二條ノ補償又ハ買收ノ金額ニ付當事者間ニ協議調ハサルトキハ朝鮮總督之ヲ裁定ス

第八條 國有未墾地ノ貸付ハ一出願ニ付百町步ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 貸付ヲ受ケムトスル者ハ願書ニ左ノ書類及圖面ヲ添附シ朝鮮總督ニ願出ツヘシ

- 一 出願地及隣接地ノ現形圖
- 二 事業計畫書
- 三 事業豫定圖
- 四 面積百町步以上ノ貸付ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由書
- 五 成功ノ後拂下ヲ受ケムトスル土地ニ付テハ拂下價格並代金納付ノ方法

第十條 出願地及隣接地ノ現形圖ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 出願地ノ境界
- 二 出願地ノ種類、各種類ノ形狀

- 三 出願地及隣接地ノ狀況(耕地、人家、道路、河川、池沼、堤塘、橋梁等)
- 四 道、府、郡、廳、面、洞、里ノ境界及其ノ名稱
- 五 水流ノ方向
- 六 方位

第十一條 事業計畫書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 利用ノ目的
- 二 事業ノ設計
- 三 事業ノ收支豫算
- 四 貸付ヲ受ケムトスル期間
- 五 毎年事業ヲ成功スヘキ土地ノ種類及其ノ面積
- 六 開墾ノ爲貸付ヲ受ケムトスル者ニ付テハ自作開墾又ハ小作開墾ノ別及小作開墾ナルトキハ小作開墾者トノ主タル權利義務

第十二條 事業豫定圖ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- 一 第十條第一號及第三號乃至六號ノ事項
- 二 計畫ニ基ケ土地ノ種類及形狀
- 三 土地ノ一部カ小作開墾ナル場合ニ於テハ其ノ部分

第十三條 二人以上共同シテ貸付ヲ受ケムトスル者又ハ貸付ヲ受ケタル者ハ代表者一人ヲ定メ朝鮮總督ニ願出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條 貸付ヲ受ケムトスル者又ハ貸付ヲ受ケタル者朝鮮ニ住

所ヲ有セザルトキハ假住所ヲ定メ朝鮮總督ニ願出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

二人以上共同シテ貸付ヲ願出テ又ハ貸付ヲ受ケタル場合ニハ前項ノ規定ハ其ノ代表者ニ限リ之ヲ適用ス

第十五條 貸付ニ關シ必要アルトキハ期間ヲ指定シ出願者ヲシテ出願地ノ實測圖ヲ提出セシムルコトヲアルヘシ

實測圖ニハ第十條各號ノ事項ヲ詳細ニ示スヘシ

第十六條 貸付ヲ許可シタルトキハ許可書ヲ下附ス

許可書ニハ貸付地ノ付與又ハ拂下ヲ爲スコト、拂下價格及第四條ニ依リ返還セシムヘキ土地其他必要ナル事項ヲ明記ス

第十七條 貸付ヲ受ケタル者ハ許可ヲ受ケタル日ヨリ二月以内ニ其ノ土地ノ境界ニ標識ヲ建設スヘシ

標識ニハ貸付許可ノ年月日及其ノ許可ヲ受ケタル者ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

第十八條 貸付料ハ一町步ニ付一年五十錢トス、一町步ニ滿タサル端數ハ之ヲ一町步トシテ計算ス但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ貸付料ヲ増減スルコトアルヘシ

貸付料ハ毎年十二月中心整年分ヲ前納スヘシ但シ許可ノ年ニ係ル貸付料ハ月割ヲ以テ即納スヘシ

既納ノ貸付料ハ之ヲ還付セス

第十九條 貸付料ノ減免ヲ受ケムトスル者ハ減免ヲ受ケムトスル土地ノ所在、金額、期間、及理由ヲ記載シタル願書ヲ朝鮮總督

ニ差出スヘシ

第二十條 貸付ヲ受ケタル者其ノ權利ヲ賣買讓與シ又ハ擔保ニ供セムトスルトキハ願書ニ買受人、讓受人、又ハ債權者ノ連署ヲ以テ許可書、其ノ年度ニ於ケル貸付料納付證及事業成績報告書ヲ添ヘ朝鮮總督ニ願出ツヘシ

相續ヲ爲シタル者ハ相續後三月以内ニ相續ヲ證スル書類及許可書ヲ添ヘ朝鮮總督ニ願出ツヘシ

第二十一條 貸付ヲ受ケタル者事業ノ計畫ヲ變更セムトスルトキハ事由ヲ具シ之ニ關スル事業計畫書及事業預定圖ヲ添附シ朝鮮總督ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

第二十二條 貸付ヲ受ケタル者ハ毎年三月末日迄ニ其ノ前年ニ於ケル事業ノ成績ヲ朝鮮總督ニ願出ツヘシ

第二十三條 貸付ヲ受ケタル者其ノ土地ノ付與又ハ拂下ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、面積及事業成功ノ狀況ヲ具シ實測圖ヲ添ヘ朝鮮總督ニ申請スヘシ

前項ノ實測圖ニハ第十條各號ノ事項ヲ示スヘシ

第二十四條 貸付ヲ受ケタル者許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ依リ其ノ權利ヲ喪失シタルトキハ直ニ許可書ヲ返納スヘシ

第二十五條 國有未墾地利用法第一條乃至第十一條ノ規定及本令ハ三町步ヲ超エサル國有未墾地ニ亦之ヲ適用ス

第二十六條 第十三條、第十四條、第十七條、第二十條第二項、第二十二條、第二十四條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第五條ノ條

件ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
附 則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
國有未墾地利用法施行細則ハ之ヲ廢止ス

○十町歩ヲ超エサル國有未墾地ノ取扱

二 關スル件

大正九年四月二十六日
官廳條例第三十五號

各道知事宛

政務 總 監

大正九年四月一日內訓第五號ヲ以テ十町歩ヲ超エサル國有未墾地ノ處分ニ關スル件貴官ニ委任相成候處右取扱方ニ付テハ左記各項ニ依リ處理相成度此段依命及通牒候也
追テ國有未墾地ニ關スル從來ノ通牒ニシテ三町歩トアルハ十町歩ニ改正セラレタル儀ト御了知相成度候

記

- 一 左ノ處分ハ總督ノ名ニ於テスルコト
- 一 貸付許可、不許可並許可ノ取消
- 一 付與及拂下
- 一 公共ノ用ニ供スヘキ土地又ハ公用若ハ公共ノ利益ト爲ルヘキ事業ニ供スル爲必要ナル土地ノ反還
- 一 貸付料ノ減免
- 一 國有未墾地利用法第七條ニ規定セル利用方法ノ改良、停止

- 一 國有未墾地利用法第十條ニ規定セル構築物其ノ他ノ物件ノ除去期間ノ指定
- 一 利用權讓渡及擔保ノ許否
- 一 事業計畫變更ノ許否
- 一 損害補償又ハ買收額ノ裁定
- 一 罰金ノ言渡
- 二 前項ノ處分ニ使用スヘキ用紙ハ別ニ送付スルモノヲ使用シ其ノ收支ヲ明ニスルコト
- 三 貸付許可並付與又ハ拂下ノ場合ハ實測圖ニ通テ徴シ一通ハ貸付許可書、付與證又ハ拂下證ニ添付シ一通ハ留メ置クコト
- 四 貸付臺帳、付與臺帳及拂下臺帳ヲ備ヘ付クルコト
- 五 國有未墾地利用法施行規則第二十二條ニ依ル事業成績屆書ハ毎年四月中ニ取纏メテ之ヲ報告スルコト
- 六 約十五度以下ノ傾斜地ハ原野トシテ取扱フコト
- 七 國有未墾地ハ成ルヘク地元民ニ利用セシムルコト若從來利害關係ヲ有スル者アルトキハ其ノ者ニ利用セシムルコト
- 八 面積十町歩ヲ超エサル貸付出願ト雖殘地ノ利用ニ支障ヲ及ボス虞アルカ若ハ其ノ殘地ヲ併セ一團地トシテ利用スルヲ適當ト認ムル場合ニハ總督ニ經何ノ上處理スルコト但シ其ノ一團地ノ總面積十町歩ヲ超エサル場合ハ此ノ限ニアラス
- 九 干潟ノ貸付ニ關シ左ノ各號ニ該當スルモノハ總督ニ經何ノ上處理スルコト

○國有未墾地貸付出願ニ對スル調査ノ件

大正四年十一月二日
官廳條例第三〇一號

政務 總 監

各道長官宛

國有未墾地ノ貸付出願ニ對スル調査事項ニ付テハ去ル明治四十二年十月二十九日殖農發第七二號及四十五年二月十六日農第二三四號ヲ以テ及通牒置候處右未墾地中草地及干潟ノ利用ハ地元民ニ重大ナル影響ヲ及ボスヘキ場合有之候ニ付是等未墾地ノ出願ニ對シテハ特ニ左記事項慎重ニ調査ノ上願書進達ノ際詳細具申可相成及通牒候也
追テ前記以外ノ未墾地ト雖地元民ノ利害關係密接ナルモノニ在リテハ本文同様慎重ノ調査可相成爲念申添候

記

- 一 草地ニ在リテハ地元民ノ燃料、肥料、飼料等ノ採取並放牧上ニ及ボス影響
- 一 干潟ニ在リテハ地元民ノ漁業及製鹽業ニ及ボス影響

○國有未墾地利用法ノ取扱ニ關スル件

大正五年六月六日
官廳條例第八一號

農商工部 長 官

各道長官宛

- 一 官營鹽田築造豫定地
- 一 海軍省ノ所管地又ハ建造物ニ關係アルカ或ハ重大ナル工事ニシテ海面、海岸ニ永久ノ變化ヲ生スルモノ
- 十 左記各號ノ場所ニ該當スルモノハ貸付後直ニ其ノ要領ヲ報告スルコト

- 一 咸鏡北道豆滿江口右岸突角ノ花端トノ結合線以內ノ海岸、海面
(海軍海圖第三〇一號參照)
- 二 咸鏡南道白安端ト鴨龍端トノ結合線以內ノ海岸、海面但シ永興要港境域內ヲ除ク
(海軍海圖第三〇一號參照)
- 三 慶尙南道繩頭末ヨリ絶影島南端、如島南端、巨濟島南端及蛇梁島南端ヲ經テ三川里南西岬ニ至ル以內ノ海岸海面但シ鎮海軍港境域內ヲ除ク
(海軍海圖第三〇一號參照)
- 四 三島(巨文島)海岸及距岸二哩以內ノ海面
(海軍海圖第三〇二號參照)
- 五 全羅南道白日港海南角ヨリ珍島西端半耳島西端、七發島西端及莊子島西端ヲ經テ臨瀟半島北角堂頭ニ至ル以內ノ海岸、海面
(海軍海圖第三〇一號參照)
- 六 忠清南道官長首ト黃海道小乳蠶角トノ結合線以內ノ海岸、海面並大靑群島海岸及距岸二哩以內ノ海面
(海軍海圖第三〇一號參照)
- 七 黃海道大同江口席島西端ト花島西端トノ結合線ヨリ鐵島ニ至ル大同江本流ノ沿岸及河身(海軍海圖第三〇一號參照)

國有未墾地利用法ノ取扱ニ關シ左記事項御了知相成度依命及通牒候也

記

- 一 國有未墾地ノ事業計畫書ハ其ノ内容概ネ杜撰ニシテ實際ニ適切ナラサルモノ多ク爲ニ事業施行ノ結果他ノ灌溉排水又ハ河川等ニ障害ヲ及ボシ利用方法ノ改良ヲ命スルヲ必要トスル場合モ之レアルヲ以テ事業計畫ニ關シテハ今後其ノ調査ヲ一層慎重周密ニスルコト
- 二 國有未墾地貸付願ニ添附スヘキ出願地及隣接地ノ現形圖ニハ國有未墾地利用法第十條各號ノ事項ヲ示スヘキ處是等事項不備ノモノニ在リテハ出願地ノ位置、區域並附近ノ狀況明瞭ナラサル爲他ノ灌溉、排水、河川ニ影響ノ有無又ハ漁業鹽業等ノ關係有無ノ調査ニモ支障尠カラサルニ依リ前記ノ各事項ヲ示シ以テ出願地ノ位置、區域並附近ノ狀況ヲ明瞭ニセシムルコト

○國有未墾地ノ付與又ハ拂下證ニ掲記

スヘキ土地ノ種類面積並其ノ取扱ニ

關スル件

大正五年六月二十二日
官通牒第九六號

政務總監

各道長官宛

國有未墾地ノ付與又ハ拂下證ニ掲記スヘキ土地ノ種類面積並其ノ

取扱方ノ義從來區區ニ涉リ候處自今左記ニ依リ御取扱可相成及通牒候也

追テ付與又ハ拂下申請ノ場合ニ於ケル實測圖ハ精密ナルモノニ通添附セシメラレ度候

記

- 一 土地ノ種類ハ地稅令第一條各號ノ當該地目ヲ掲記スルコト地稅事務取扱手續第二條ニ依リ田、畚池沼、雜種地及林野ノ地目トシテ整理セラルル土地ハ當該地目ノ外尙其ノ土地ノ種別ヲ掲記スルコト
- 二 面積ハ坪又ハ步位ニ止メ以下切捨ルコト
- 三 地目ヲ異ニスルモノ又ハ河川、道路、民有地等ノ爲實地ノ連續セサルモノ若ハ行政區劃ヲ異ニスルモノハ之ヲ分筆スルコト但シ地目ヲ異ニスルモ狹少ナル地積ニシテ分筆ノ必要ナシト認ムルモノハ主タル地目ノ土地ニ又田、畚、池沼、雜種地、林野等ニ附隨セル専用ノ道路、溝渠ハ之ヲ本地ニ併合スルコト

○國有未墾地取扱ニ關スル件

大正八年九月十八日
官通牒第百十三號

殖産局長

各道知事(江原道)宛

江原道知事ヨリ甲號ノ通照會有之候ニ付乙號ノ通回答致置候條爲

念及通牒候也

(甲號)

土地調査局ニ於ケル細部測量ニ於テ川トシテ調査シタルモノト雖出水時水害ノ虞ナキ土地及浸水スルモ表土ノ流レサル土地ノ如キハ國有ノ未墾地トシテ取扱差支無之ヲ御意見承知致度及照會候也

(乙號)

四月十一日附勸第一三八號ヲ以テ首題ノ件政務總監宛照會相成候處右ハ貴見ノ通取扱相成差支無之候條御了知相成度此段及回答候也

追テ川敷ノ貸付ハ河川取締上必要ニ付三町步未滿ノ出願ト雖一應經伺ノ上御處理相成度申添候

○河岸國有未墾地利用ニ關スル件

大正九年一月廿六日
官通牒第五號

政務總監

各道知事宛

河川沿岸ニ於ケル國有未墾地ニシテ之カ利用ノ爲治水上支障ヲ來タシ附近土地ニ水害ヲ蒙ラシムル虞アルモノ又ハ將來河川改修ノ場合ニカ用地下シテ存置ノ要アルモノハ國有未墾地利用法ニ依リ貸付セサル方針ニ有之候條今後河川沿岸ニ於ケル未墾地ノ貸付出願ニ對シテハ治水上支障ノ有無並之カ存置ノ要否ニ就キ特ニ慎重

調査ヲ遂ケ貴官ノ委任權限ニ屬スル面積三町步未滿ノモノト雖一應經伺ノ上處理可相成及通牒候也

追テ直接治水上支障ナキ場合ニ在リテハ特別ノ事由ナキ限り一定ノ期限ヲ附シ國有未墾地利用法ニ依ラサル使用ハ差支ナキ見込ニ有之候

○河川沿岸ノ國有未墾地貸付願ニ對スル調査ノ件

大正九年二月二十四日
官通牒第十七號

殖産局長

各道知事宛

河川沿岸ノ國有未墾地利用ニ關シテハ一月二十六日官通牒第五號ヲ以テ政務總監ヨリ通牒相成候次第モ有之候處右未墾地ノ貸付出願有之候場合ハ左記事項ヲ調査シ願書進達ノ際詳細具申相成度及通牒候也

追テ從來ノ取扱ニ依レハ願書添附ノ現形圖ニテハ河川ノ上下流及對岸ノ狀況明カナラサルニ付右ノ狀況ヲ詳記シタル圖面ヲモ添附セシムル様御取計相成度候

記

- 一 未墾地ト河川トノ關係的位置
- 二 未墾地ノ洪水時ニ於ケル浸水程度及其ノ流速
- 三 河川ノ平水位並洪水位平水時洪水時ノ各幅員

○森林山野及未墾地國有私有區分標準

明治四十五年二月三日
訓令第四號 逓達 府縣等依職

左記各號ノ一ニ該當スル森林山野又ハ未墾地ハ之ヲ私有トス但シ
舊森林法第十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザリシ森林山野ハ此ノ
限ニ在ラス

- 一 結數連名簿ニ登載セル土地並之ニ登載セサルモ現ニ地稅ヲ賦課シ又ハ嘗テ地稅ヲ賦課シタル土地
- 火田(結數連名簿等ニ於テ火田ノ名稱ヲ附ス)及嘗テ地稅ヲ賦課シタルモ永ク其ノ利用ヲ廢セル土地ハ之ヲ私有ト認メス
- 二 土地家屋所有權證明規則施行以前官廳ニ於テ私有タルコトヲ認メタル土地
- 三 土地家屋證明規則又ハ土地家屋所有權證明規則ノ證明ニ依リ私有タルコトヲ認メタル土地
- 四 確定判決又ハ土地調査法ノ處分ニ依リ私有タルコトヲ認メタル土地
- 五 確證アル賜牌地
- 六 官廳ノ還付、付與、又ハ讓渡シタル確證アル土地
- 七 隆熙二年勅令第三十九號施行以前宮内府ニ於テ私人ニ還付付與又ハ讓渡シタル確證アル土地
- 八 永年樹木ヲ禁養シタル土地
- 九 前各號ノ外朝鮮總督ニ於テ特ニ私有ト認メタル土地

前項ニ該當セサル森林山野又ハ未墾地ハ之ヲ國有トス
舊森林法施行前公山ト稱スル國有森林山野ニ墳墓ヲ設ケタル者ハ墳墓ノ存在スル限リ其ノ墳墓區域ニ從來ノ通使用スルコトヲ得
(參照)

○宮内府所管及慶善宮所屬財產ノ移屬

ト帝室債務ノ整理ニ關スル件

隆熙二年六月二十九日
勅令第三十九號

- 第一條 宮内府所管及慶善宮所屬ノ不動產ハ此ヲ國有ニ移屬ス但シ宮殿太廟ノ基址及本朝ノ陵、園、墓ノ内該字内ハ此限ニ在ラス
- 第二條 漁磯、泐稅其他宮内府ニ於テ從來徵收スル諸稅ハ此ヲ國有ニ移屬ス
- 第三條 帝室債務ノ整理ニ關スル事務ハ度支部大臣此ヲ掌理ス

附則

本令ハ頒布ノ日ヨリ此ヲ施行ス

○森林山野及未墾地國有私有區分標準

ニ關スル件 明治四十五年二月三日
官廳逓達第三二號

農商工部長官
內務部長官

各道長官、營林廠長宛

森林山野及未墾地國有私有區分標準ニ關スル件本日訓令相成候ニ

付テハ是等ノ土地又ハ其ノ產物ニ關スル出頭又ハ所有權證明ノ申請等ニ對シテハ凡テ右標準ニ照シ御處理相成度候尤從來國有地ヲ民有地トシテ課稅シタルモノアルトキハ御取調ノ上取消相成度又同標準第一項第三號ノ土地ハ國有地ヲ誤リテ私有地トナシ證明ナ與ヘタル例モ不謬由ニ付證明ノ根據疑ハシキモノハ充分調査ノ上相當御處理相成度又同第一號乃至第八號ニ該當セザル土地ト雖私有ト認ムルヲ穩當トスヘキモノハ同第九號ニ依リ朝鮮總督ニ於テ特ニ私有ノ認定ヲ與ヘラルルコトモ可有之ニ付事情ヲ詳具シ稟申相成度依命及通牒候也

○土地検査執行ノ結果私有ヲ否認シタルモノノ取扱方ノ件

大正七年五月十四日
稅令七九五號

政務總監

各道長官宛

明治四十五年二月訓令第四號森林山野及未墾地國有私有區分標準ニ照シ私有ヲ否認シタル侵墾地ヲ更ニ國有未墾地利用法ニ依リ貸付ケタル後拂下又ハ付與ノ處分ヲ爲スノ向有之ニ候處元來國有未墾地利用法ノ規定ニ依ラスシテ國有地ノ開墾ヲ爲スハ違法ノ行爲ニ有之其ノ違法ノ行爲ニ因リ成功シタル土地ヲ貸付ケ他日拂下又ハ付與スル如キハ國有地冒耕取締土適當ノ措置ニ無之且ツ既墾ノ土地ハ國有未墾地利用法第一條ノ規定ニ該當セザルヲ以テ同法ニ依リ之ヲ處分シ得ヘキモノニ無之就テハ右等私有ヲ否認シタル

開墾地(部分林貸付タル林野若ハ國有林野トシテ調査済ノ區域又ハ要存置豫定林野選定標準各號ニ該當スルモノヲ除ク)ニシテ其ノ儘耕地又ハ墾ニ利用シ差支ナシト認ムルモノハ總テ驛屯上ニ準シ驛屯上臺帳ニ登錄シ開墾其ノ他ノ緣故者ヲシテ小作人トシ相當小作料ヲ收納スルコトニ御取扱相成ヘク及通牒候也

○朝鮮鑛業令

大正四年十二月二十四日 大正五年三月一日
勅令 第八號 官廳逓達第一七號

第一條 本令ニ於テ鑛業ト稱スルハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛物ト稱スルハ金鑛、銀鑛、銅鑛、鉛鑛、蒼鉛鑛、錫鑛、安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛、硫化鐵鑛、格魯謨鐵鑛、滿倫鐵鑛、タンクステン鑛、水鉛鑛、砒鑛、磷鑛、黑鉛、石炭、石油、土瀝青、硫黃、雲母、石棉、高嶺土、硅砂、砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛業權ト稱スルハ鑛區ニ於テ許可ヲ受ケタル鑛物ヲ採掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ謂フ

本令ニ於テ鑛區ト稱スルハ鑛業權ノ登錄ヲ得タル土地ノ區域ヲ謂フ

第二條 未タ採掘セザル鑛物ハ國ノ所有トス、廢鑛及鑛滓亦同シ

第三條 鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス但シ砂金、砂錫又ハ砂鐵ノ採掘ヲ目的トスル場合ニ在リテ

ハ河床ノ延長ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得
 鑛區ノ面積ハ石炭ニ在リテハ五萬坪以上其ノ他ノ鑛物ニ在リテハ五千坪以上トシ共ニ百萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス
 河床ノ延長ヲ以テ定メタル鑛區ニ付テハ前項ノ規定ヲ適用セス但シ其ノ延長ハ二里ヲ超ユルコトヲ得ス
 鑛利保護上又ハ鑛區ノ分合上已ムチ得サル場合ニ於テハ鑛區ハ百萬坪又ハ二里ヲ超ユルコトヲ得
 第四條 要塞地帯第一區内ノ場所ハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス陸海軍所轄ノ軍港、要港、火藥製造所、火藥庫若ハ彈藥庫ノ周圍三百間内又ハ要塞地帯第二區及第三區内ノ場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ鑛區ト爲スコトヲ得ス
 前二項ニ掲クル場所ハ所轄官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ鑛業ノ爲之ヲ使用スルコトヲ得ス
 第五條 鐵道、軌道、道路、運河、堤塘、社寺境内地、墓地、公園地其ノ他ノ營造物又ハ建物ノ地表地下トモ其ノ周圍高嶺土、硃砂、砂金、砂錫又ハ砂鐵ニ付テハ五間内其ノ他ノ鑛物ニ付テハ三十間内ノ場所ニ於テハ所轄官廳ノ許可又ハ營造物者ハ建物ニ關シ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鑛業ヲ爲スコトヲ得ス
 所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ハ正當ノ理由ナクシテ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス
 第六條 帝國臣民又ハ帝國法令ニ從ヒ成立シタル法人ニ非サレハ

鑛業權ヲ享有スルコトヲ得ス
 第七條 鑛業ヲ爲サムトスル者ハ願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ朝鮮總督ニ出願シ其ノ許可ヲ受クヘシ
 鑛業出願人ハ出願地ニ其ノ探掘セムトスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ但シ砂金、砂錫又ハ砂鐵ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 第八條 二人以上共同シテ鑛業ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ内一人ヲ代表者ト爲シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ其ノ届出ナキトキハ朝鮮總督之ヲ指定ス
 代表者ハ國ニ對シ共同鑛業出願人ヲ代表ス
 第九條 同一ノ鑛物ニ付鑛業出願地重複スルトキハ其ノ重複セル部分ニ付テハ願書到達ノ日ノ先ナル者ニ鑛業ノ出願ヲ許可ス同日ニ願書到達シタルトキハ朝鮮總督ニ於テ適當ト認ムル者ニ之ヲ許可ス
 前項ノ規定ハ高嶺土又ハ硃砂ノ探掘出願ニ付テハ之ヲ適用セス
 第十二條 第十三條又ハ第二十二條ノ規定ニ係ル出願アリタル場合ニ於テ其ノ訂正ニ依リ增加スル地區ニ付亦同シ
 第十條 公益ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ鑛業ノ價值ナシト認ムルトキハ鑛業ノ出願ハ之ヲ許可セス
 第十一條 鑛業出願人ハ鑛業出願地ノ増減ヲ出願スルコトヲ得
 第十二條 鑛業出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認ムルトキハ朝鮮總督ハ期限ヲ指定シテ其ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ指定ノ期限迄ニ訂正ノ出願ヲ爲ササルトキハ鑛業ノ出願ハ之ヲ許可セス
 第十三條 鑛業出願地ノ位置形狀鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スルモノト認ムルトキハ鑛業出願人ハ其ノ訂正ヲ出願スルコトヲ得
 第十四條 鑛業出願地他人ノ異種ノ鑛物ノ鑛區ト重複スル場合ニ於テ他人ノ鑛業ニ妨害アリト認ムルトキハ之ヲ許可セス
 第十五條 鑛業出願人ノ名義ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ變更シ又ハ相續人ニ於テ之ヲ承繼スルコトヲ得
 第十六條 金鑛ヲ目的トスル鑛業權者ハ其ノ鑛區内ニ存スル砂金ヲ探掘シ及之ヲ取得スル權利ヲ有ス但シ其ノ鑛區内ニ既ニ存スル砂金ノ鑛區ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
 第十七條 鑛業權ハ物權トシ不動産ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第七十九條第一項ノ規定ハ此ノ限ニ在ラズ
 鑛業權ハ相續、讓渡、抵當、滯納處分及強制執行ノ目的タルノ外權利ノ目的タルコトヲ得ス
 本令ニ規定スル鑛業權者ノ權利義務ハ鑛業權ト共ニ移轉ス
 第十八條 共同鑛業權者ハ組合契約ヲ爲シタルモノト看做ス共同鑛業權者ノ有スル鑛業權ノ持分ハ他ノ共同鑛業權者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得ス
 共同鑛業權者ノ有スル鑛業權ノ持分ニ付滯納處分又ハ強制執行アリタルトキハ二月内ニ他ノ共同鑛業權者ハ一致テ以テ其ノ持

分ノ競買人又ハ買受人ニ通知シ之ヲ組合ヨリ除名スルコトヲ得
 第八條ノ規定ハ共同鑛業權者ニ之ヲ準用ス
 第十九條 鑛業權又ハ抵當權ノ設定、變更、移轉若ハ消滅又ハ處分ノ制限ハ鑛業原簿ニ登錄ス共同鑛業權者ノ脱退ニ付亦同シ但シ鑛業權ノ處分ヲ制限セラレタルトキハ廢業ノ登錄ヲ爲スコトヲ得ス
 前項ノ登錄ハ不動産ニ關スル規定ノ準用ニ付テハ登記ニ代ハルモノトス
 登錄ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム
 第二十條 前條第一項ニ掲クル事項ハ相續及第三十一條ノ競賣ノ場合ヲ除クノ外登錄ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生ゼス
 第二十一條 鑛業權者ハ鑛區ノ合併又ハ分割ヲ出願スルコトヲ得鑛區ノ一部ヲ分割シテ之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ
 抵當權ノ設定アル場合ニ於テ前項ノ出願ヲ爲サムトスルトキハ抵當權者ノ承諾及抵當權ノ順位ニ關スル協定ヲ經ヘシ
 第二十二條 第十一條、第十二條第一項及第十三條ノ規定ハ之ヲ鑛區ニ準用ス
 抵當權ノ設定アル場合ニ於テ鑛區ノ減少ヲ出願セムトスルトキハ抵當權者ノ承諾ヲ經ヘシ
 第二十三條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正又ハ増減ノ出願ニ付テハ鑛業ノ出願ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十四條 朝鮮總督ハ鑛業權者ヲシテ施業案又ハ鑛夫ノ保護取締ニ關スル規程ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得
朝鮮總督必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ル施業案又ハ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得
鑛業權者第一項ノ規定ニ依ル施業案又ハ規定ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケヘシ
第二十五條 鑛業上危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ鑛業權者ニ其ノ豫防又ハ鑛業ノ停止ヲ命スヘシ
第二十六條 朝鮮總督ハ鑛業權者ニ技術ニ關スル管理者ノ選任又ハ解任ヲ命スルコトヲ得
管理者ノ資格及職務ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム
第二十七條 朝鮮總督ハ部下ノ官吏ヲシテ鑛業ニ關スル書類物件ヲ検査シ又ハ坑内其ノ他ノ場所ニ臨檢セシムルコトヲ得
第二十八條 錯誤ニ因リ鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ朝鮮總督ハ鑛業權ヲ取消シ又ハ期限ヲ指定シテ鑛區ノ訂正ノ出願ヲ命スヘシ
第二十九條 朝鮮總督ハ左ノ場合ニ於テ鑛業權ヲ取消スコトヲ得
一 鑛業公益ヲ害スルモノト認ムルトキ
二 正當ノ理由ナクシテ鑛業權設定ノ登錄ノ日ヨリ一年內ニ事業ニ着手セス又ハ着手後一年以上休業シタルトキ
三 第二十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ命セラレタル鑛區ノ訂正

ノ出願ヲ爲ササルトキ
四 第二十四條ノ規定ニ依リ施業案ヲ定メタル場合ニ於テ之ニ依ラスシテ鑛業ヲ爲シタルトキ
五 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサルトキ
六 鑛產稅又ハ鑛區稅ヲ納付セサルトキ
第三十條 鑛業權消滅シタル後ト雖一年內ハ朝鮮總督ハ其ノ鑛業權ヲ有シタルモノニ對シテ危險豫防ニ關スル施設ヲ爲スコトヲ命スルコトヲ得
危險豫防ノ目的ノ範圍內ニ於テハ前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタル者ハ之ヲ鑛業權者、其ノ施設ヲ爲スハ之ヲ鑛業ヲ爲スモノト看做ス
第三十一條 鑛業權ヲ取消シタルトキハ朝鮮總督ハ直ニ抵當權者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ
前項ノ抵當權者ハ朝鮮總督ノ定ムル期間內ニ鑛業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十八條又ハ第二十九條第一號ノ規定ニ依ル取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス
鑛業權ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス
競買ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及抵當權者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス
競買人ハ鑛業權ノ取消ノ登錄アリタル時ニ於テ鑛業權ヲ讓受ケタルモノト看做ス

前五項ノ規定ハ鑛業權者廢業シタル場合ニ之ヲ準用ス
第三十二條 鑛業ノ爲必要アルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得
前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ使用又ハ收用スヘキ土地及許可ノ年月日ヲ直ニ關係人ニ通知スヘシ
第一項ノ使用又ハ收用ニ付テハ土地收用令第七條乃至第二十六條ノ規定ニ依ル但シ同令中起業者トアルハ鑛業權者、同令中事業ノ認定又ハ朝鮮總督ノ認定トアルハ第一項ノ許可、同令第八條第十三條及第二十一條中第四條ノ公告トアル許第一項ノ許可、同令第十六條中第四條ノ公告トアルハ前項ノ通知トス
第三十三條 鑛業上急迫ノ危險ヲ防ク爲必要アルトキハ鑛業權者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ直ニ他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル使用ニ因リ關係人ノ受ケタル損失ハ鑛業權者之ヲ補償スヘシ
第三十四條 前二條ニ規定スル關係人トハ使用又ハ收用スヘキ土地ニ關シ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ヲ謂フ
第三十二條第二項ノ通知アリタル後其ノ土地ニ關シ權利ヲ取得シタル者ハ關係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
第三十五條 鑛業權者ハ土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地ヲ原狀ニ回復シ又ハ原狀ニ回復セサルニ因リ生ズル損失ヲ補償スヘシ
朝鮮總督ハ鑛業權者ニ對シ前項ノ規定ニ依ル補償金ニ付相當ノ

擔保ノ提供ヲ命スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依ル命令ヲ受ケタルトキハ擔保ヲ提供スルニ非サレハ土地ヲ使用スルコトヲ得ス
第三十六條 第五條第二項ノ承諾ヲ拒ミタルトキ若ハ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキ又ハ第三十三條若ハ前條ノ規定ニ依ル補償ニ付協議調ハサルトキハ土地收用令第九條、第十一條、第十二條、第十七條及第二十四條乃至第二十六條ノ規定ヲ準用ス
第三十七條 二道以上ニ渉ル土地ノ使用又ハ收用ニ關スル地方長官ノ許可、裁決又ハ決定ニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム
第三十八條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲他人ノ土地ニ立入り又ハ障礙物ヲ除却スル場合ニ關シテハ朝鮮總督之ヲ定ム
第三十九條 本令ニ於テ使用ト稱スルハ權利ノ制限ヲ包含ス
第四十條 本令中土地ノ使用又ハ收用ニ關スル規定及其ノ罰則ニ關スル規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利、水ノ使用ニ關スル權利又ハ工作物其ノ他ノ土地ノ定著物ノ使用又ハ收用ニ關シ之ヲ準用ス
第四十一條 鑛業權者ニハ鑛產稅及鑛區稅ヲ課ス但シ金鑛、銀鑛、鉛鑛、鐵鑛、砂金及砂鐵ニ付テハ鑛產稅ヲ課セス
鑛產稅ハ鑛產物ノ價格百分ノ一トシ鑛區稅ハ鑛區千坪又ハ河床延長一町毎ニ一年六十錢トス但シ千坪又ハ一町未滿ノ端數ハ之ヲ千坪又ハ一町トシテ計算ス
鑛產物ノ價格ハ朝鮮總督ノ認定ニ依ル

第四十二條 鑛產稅ハ毎年三月中ニ前年分ヲ納付スヘシ但シ鑛業權消滅ノ場合ニ於テハ即納スヘシ
 鑛區稅ハ毎年十二月中ニ翌年分ヲ前納スヘシ
 鑛區ノ分合ニ因ル場合ヲ除クノ外鑛業權ノ設定又ハ變更ノ登錄ニ依リ新ニ負擔シ又ハ不足スル鑛區稅ニシテ其ノ登錄ノ年ニ係ルモノハ之ヲ即納スヘシ此ノ場合ニ於テハ月割ヲ以テ計算ス
 既納ノ鑛區稅ハ之ヲ還付セズ
 第四十三條 本令ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ第五條第一項ニ掲グル者、鑛業ヲ出願セムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者又ハ關係人ノ承繼人ニ付テモ其ノ效力ヲ有ス
 第四十四條 鑛業權ヲ有セスシテ鑛物ヲ採掘シタル者又ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ鑛業權ヲ得タル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
 過失ニ因リ鑛區外ニ侵掘シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 前二項ノ場合ニ於テハ採掘シタル鑛物ハ之ヲ沒收ス既ニ之ヲ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ價格ヲ追徵ス
 第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス
 一 第四條第三項、第九條第一項、第二十四條第三項又ハ第三十五條第三項ノ規定ニ違反シタル者
 二 第二十四條第一項第二項、第二十五條、第二十六條第一項又ハ第三十條第一項ノ命令ニ從ハサル者

三 當該官吏ニ對シ第二十七條ノ規定ニ依リ檢査若ハ臨檢ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ檢査若ハ臨檢ノ爲ニスル尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者
 四 第二十四條ノ規定ニ依リ施業案ヲ定メタル場合ニ於テ之ニ依ラスシテ鑛業ヲ爲シタル者
 第四十六條 鑛產稅又ハ鑛區稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス
 第四十七條 鑛業權者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ鑛業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
 第四十八條 鑛業權者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ規定スル罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カラルコトヲ得ス
 本令ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定スル罰則ニ付亦前項ニ同シ
 第四十九條 法人ノ業務ニ關シ其ノ代表者又ハ雇人其ノ他ノ從業者本令ニ規定スル罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス本令ニ基キテ發スル命令中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ命令ニ規定スル罰則ニ付亦前項ニ同シ

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ被告人トス
 第五十條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外鑛業警察ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム
 第五十一條 朝鮮總督ハ其ノ定ムル所ニ依リ本令ニ規定スル職權ノ一部ヲ地方長官ニ委任スルコトヲ得
 第五十二條 本令ハ罰則ニ關スル規定ヲ除クノ外之ヲ國ノ鑛業ニ適用ス但シ第四十一條及第四十二條ノ規定ハ朝鮮總督ノ管理スル鑛業ニ之ヲ適用セズ
 附 則
 第五十三條 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム
 第五十四條 光武十年法律第三號鑛業法及同年法律第四號砂鑛採取法ハ之ヲ廢止ス
 第五十五條 從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス
 第五十六條 本令施行ノ際現ニ存スル國ノ鑛業區域ニ付テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ區域ヲ鑛區トシ鑛業權設定ノ登錄ヲ爲シタルモノト看做ス
 第五十七條 本令施行ノ際現ニ存スル砂金ノ鑛區ニ付テハ第三條第二項及第三項ノ規定ヲ適用セズ
 第五十八條 本令施行前鑛物ノ種類ニ依リ光武十年法律第三號鑛業法第七條ノ規定ニ依リ鑛業ノ出願ヲ許可セサル地域及鑛業又

ハ砂鑛採取ノ出願ノ許否ニ付同法第八條ノ規定ニ依ラサル地域ニ於テハ其ノ鑛物ニ付鑛業ノ出願ヲ許可セス又ハ第九條第一項ノ規定ニ拘ラス鑛業ノ出願ヲ處分スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ鑛業ノ出願ヲ許スル地域及鑛物ノ種類ハ朝鮮總督之ヲ告示ス
 第五十九條 本令施行ノ際外國人又ハ外國法人カ享有スル鑛業權ニ付テハ第六條ノ規定ヲ適用セズ但シ帝國臣民又ハ帝國法令ニ從ヒ成立シタル法人カ其ノ鑛業權ヲ承繼シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 朝鮮ニ於テ鑛業ヲ營ムコトヲ主タル目的トスル外國法人ハ朝鮮内ニ本店ヲ設クルニ非サレハ前項ノ鑛業權ヲ承繼スルコトヲ得ス
 第六十條 光武十年法律第三號鑛業法第三十條及同年法律第四號砂鑛採取法第十六條ニ規定シタル特許鑛業ニ關シテハ特許條件ニ牴觸スルモノ及第四十一條第一項但書ノ規定ヲ除クノ外本令ヲ適用ス
 第六十一條 從前ノ規定ニ依リ鑛業ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日以内ニ大正五年分ノ鑛區稅不足額ヲ納付スヘシ其ノ鑛區稅ハ本令施行ノ月ヨリ月割ヲ計算ス
 砂金、砂錫又ハ砂鐵ヲ目的トスル鑛業權者ニ對シテハ大正四年分ノ鑛產稅ヲ課セス
 第六十二條 本令施行前爲シタル國有地ノタンガス、水鉛

鑛、燐鑛、雲母、石綿、高嶺土又ハ砒砂ノ採取ノ許可ハ本令ニ依リ爲シタル鑛業ノ出願ノ許可ト看做ス但シ其ノ面積及期限ハ從前ノ例ニ依ル

第六十三條 本令公布ノ際國有ニ非サル土地ニ於テ蒼鉛鑛、タンクステン鑛、水鉛鑛、砒鑛、燐鑛、土瀝責、雲母、石綿、高嶺土又ハ砒砂ヲ採掘スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六月間從前ノ例ニ依リ其ノ採掘ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ期間内ニ本令ニ依リ鑛業ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ鑛業權ノ設定ノ登錄ノ日迄、之ヲ許可セザルトキハ其ノ指令ノ日迄トス前項ノ規定ニ依ル出願地ニ付テハ第九條第一項ノ規定ヲ適用セ

第六十四條 第六十條及第六十二條ニ規定セル鑛業權ノ期限ノ到來ニ因ル消滅ニ付テハ第二十條ノ規定ヲ適用セ

朝鮮鑛業令施行規則

大正五年二月二十九日 府令第九號

第一條 鑛業ニ關スル願書申請書屆書又ハ圖面ハ一件毎ニ之ヲ調製シ様式ノ定アルモノハ其様式ニ準スヘシ

前項ノ書面又ハ圖面ハ地方官廳ヲ經由スルコトナク直チニ朝鮮總督府ニ差出スヘシ但シ本令中地方長官ヲ經由スヘキ旨若ハ地方長官ニ届出ツヘキ旨ヲ定メタルモノ又ハ地方長官ノ許可裁決若ハ決定ニ關スルモノハ此ノ限ニ在ラス
書面又ハ圖面ノ差出期限ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ期限迄ニ

到達スルコトヲ要ス

第二條 朝鮮内ニ住所ヲ有セル鑛業出願人又ハ其ノ代理人ハ假住所ヲ定メ届出ヘシ但シ願書ニ假住所ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得

前項ノ規定ハ共同鑛業出願人ニ付テハ其ノ代表者カ朝鮮内ニ住所ヲ有セザルトキニ限り之ヲ適用ス

第三條 鑛業ニ關シ命令又ハ通知ヲ送達スヘキ場合ニ於テ受信人ノ住所不分明ナルトキハ送達スヘキ書類ノ全文又ハ其ノ要旨ヲ三日間朝鮮總督府官報ニ掲載スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ掲載ヲ了リタル日ヨリ十四日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做ス

前條ノ假住所ノ届出ナキトキ、其ノ變更ノ届出ナキトキ又ハ假住所ニ於テ書類ヲ送達スルコト能ハザルトキ又前項ニ同シ

第四條 本令ノ規定ニ依リ爲シタル手續其ノ他ノ行爲ハ朝鮮鑛業令第五條第一項ニ掲グルモノ、鑛業出願ヲ爲サムトスル者、鑛業出願人、鑛業權者又ハ關係人ノ承繼人ニ對シテモ其ノ效力ヲ有ス

本令ニ於テ關係人ト稱スルハ韓鮮鑛業令第三十二條、第三十三條又ハ第四十條ノ規定ニ依リ使用又收用スヘキモノ又ハ權利ニ關シ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ヲ謂フ
第三十五條第二項又ハ第三十六條第三項ノ通知アリタル後使用又ハ收用スヘキモノ又ハ權利ニ關シ權利ヲ取得シタルモノハ關

係人ト看做サス但シ既存ノ權利ヲ承繼シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 書面又ハ圖面不完全ナルトキハ朝鮮總督ハ期限ヲ附シテ之ヲ修正又ハ補充セシム

第六條 鑛業出願地カ百萬坪又ハ二里ヲ超ユルトキハ願書ニ理由書ヲ添附スヘシ

第七條 鑛業出願地朝鮮鑛業令第四條第二項ニ規定スル場合ニ係ルトキハ願書ニ所轄官廳ノ許可ヲ證スル書面又ハ許可ヲ申請シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八條 鑛業出願人ハ其ノ願書ニ採掘セムトスル鑛床ニ關スル説明書ヲ添附スヘシ但シ砂金、砂錫及砂鐵ニ付テハ此ノ限ニアラス前項ノ説明書ハ鑛物ノ標品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ出願後十日内ニ之ヲ差出スヘシ

第九條 同一地域ニ於テ二種以上ノ鑛物ニ付キ鑛業ヲ爲サムトスルモノハ各種ノ鑛物毎ニ願書ヲ差出スヘシ但シ同一ノ鑛床中ニ存スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 朝鮮鑛業令第八條第一項ノ代表者届ニ添附シテ之ヲ差出ヘシ但シ願書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得前項ノ規定ハ鑛業出願人ノ變更又ハ鑛業權ノ設定若ハ移轉ニヨリ鑛業出願人又ハ鑛業權者トナルヘキモノ二人以上ナル場合ニ之ヲ準用ス但シ鑛業權設定又ハ移轉ノ場合ニ於テハ登錄申請書ニ代表者ヲ表示シテ届出ニ代フルコトヲ得共同鑛業出願人又ハ

共同鑛業權者代表者ヲ改訂シタルトキハ連署シテ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

朝鮮總督代表者ヲ指定シタルトキハ之ヲ共同鑛業出願人又ハ共同鑛業權者ニ通知スヘシ

第十二條 鑛業出願人又ハ鑛業權者實地調査ノ爲メ立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會シ調査事項ニ付説明ヲ爲スヘシ代理人ヲシテ立會セシムルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ携帯セシムヘシ

第十三條 公安保護ノ爲メ必要ト認ムルトキハ朝鮮總督ハ他人ノ鑛區ニ接近シテ鑛區ヲ定ムル鑛業ノ出願人ニ對シ鑛區間ニ相當ノ距離ヲ置カシムルコトアルヘシ

第十四條 鑛業出願人ノ名義ヲ變更セムトスルトキハ新舊出願人連署シテ届出ツヘシ

鑛業出願人ノ相續人ハ戶籍又ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ届出ノ日ヨリ三十日内ニ届出テ其ノ名義ヲ承繼スルコトヲ得其ノ届出アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ名義ヲ承繼シタルモノト看做ス

前項ノ届書ニハ相續開始ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ同順位ノ相續人數人アル場合ニ於テ其中ノ一人又ハ數人ノ名義ト爲サムトスルトキハ他ノ相續人ノ承諾書ヲ添附スヘシ

鑛業出願人又ハ其ノ代理人氏名、名稱、住所又ハ假住所ヲ變更シタルトキハ三十日内ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ法人ノ代表者又ハ

代表者ノ氏名ヲ變更シタルトキ亦同シ
 前項ノ規定ニ依リ氏名、名稱又ハ法人ノ代表者ノ變更届ヲ爲ス
 場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 第十五條 朝鮮總督ハ期限ヲ附シ鑛業出願人ニ鑛業ニ關スル設計
 書ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ
 第十六條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ増減ヲ出願スル場合ニ於テハ鑛
 區圖ニ増減スヘキ區域ヲ明示スヘシ
 鑛業出願地又ハ鑛區ノ増加ノ出願ニ付テハ第六條乃至第八條ノ
 規定ヲ準用ス
 鑛區ノ減少ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書ヲ添附スヘシ
 第十七條 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ヲ出願スル場合ニハ其ノ願
 書ニ理由書ヲ添附スヘシ但シ朝鮮總督ノ命令ニ依リ訂正ヲ出願
 スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス
 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ヲ出願スル場合ニ於テハ鑛區圖ニ訂
 正スヘキ區域ヲ明示スヘシ
 鑛業出願地又ハ鑛區ノ訂正ニ依リ増加スヘキ區域朝鮮鑛業令第
 四條第二項ニ規定スル場所ニ係ルトキハ第七條ノ規定ヲ準用ス
 第十八條 鑛區ノ合併又ハ分割ヲ爲サムトスル者ハ合併又ハ分割
 スヘキ區域ヲ明示スル圖面ヲ添附スヘシ鑛區ノ一部ヲ分割シテ
 之ヲ他ノ鑛區ニ合併セムトスルトキ亦同シ
 鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ理由書ヲ添附スヘシ
 鑛區ノ合併又ハ分割ノ願書ニハ抵當權者ノ承諾書及抵當權ノ願

位ニ關スル協定書ヲ添附スヘシ
 第六條ノ規定ハ鑛區ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十九條 鑛物ノ名稱ヲ更正セムトスルトキハ鑛業權者ハ願書ニ
 理由書ヲ添附シ出願スヘシ
 第二十條 鑛業ノ出願ヲ許可シタルトキハ其ノ旨ヲ鑛業出願人ニ
 通知スヘシ
 鑛業出願人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期限迄ニ鑛業權
 設定ノ登録ノ申請ヲ爲ササルトキハ出願ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
 前二項ノ規定ハ鑛區ノ訂正、増減、合併、分割又ハ鑛種名更正
 ノ出願ノ許可ニ付之ヲ準用ス
 第二十一條 鑛區ノ境界、基點、面積又ハ所在地ノ名稱若ハ地目
 カ鑛區圖ト相違スルコトヲ發見シタルトキハ其ノ旨ヲ鑛業權者
 ニ通知スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ鑛區圖ノ修正ヲ要スルモノト認メタルトキハ
 期限ヲ附シテ修正鑛區圖ノ提出ヲ命スヘシ
 前項ノ命令ニ依リ提出シタル鑛區圖完備シタルモノト認メタル
 トキハ其ノ旨ヲ鑛業權者ニ通知スヘシ
 鑛業權者ハ第一項又ハ第三項ノ通知ヲ受ケタルトキハ指定ノ期
 限迄ニ鑛業權ノ表示ノ變更ノ登録ヲ申請スヘシ
 第二十二條 左ノ場合ニ於テハ願書又ハ届書ヲ受理セス
 一 出願ノ鑛物カ朝鮮鑛業令第一條第二項ノ規定ニ該當セサル
 トキ

二 圖面ヲ添附スヘキ鑛業ノ願書ニ圖面ヲ添附セザルトキハ
 添附圖面ニ依リ區域分明ナラザルトキ
 三 手数料ニ納付セザルトキ
 四 第十一條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違背シ決議書又ハ之ニ
 代ルヘキ書面ヲ添附セザルトキ
 五 第十四條第一項ノ規定ニ違背シ新舊出願人速署セザルトキ
 六 第十四條第三項、第十六條第三項又ハ第十八條第三項ノ規
 定ニ違背シ承諾書又ハ協定書ヲ添附セザルトキ
 第二十三條 左ノ場合ニ於テハ願書又ハ届書ヲ却下ス
 一 第五條ノ命令ニ依ル期限内ニ修正又ハ補充ヲ爲サザルトキ
 二 第十二條ノ規定ニ依リ指定シタル期日ニ立會ヲ爲サザルト
 キ又ハ實地調査ノ際其ノ出願區域ヲ明示スルコト能ハス若ハ
 調査事項ノ説明ヲ爲スコト能ハザルトキ
 三 願書ニ添附シタル圖面カ實地ト著シク相違シ其ノ區域ヲ確
 認スルコト能ハザルトキ
 四 第十五條ノ規定ニ依リ指定シタル期限内ニ設計書ヲ提出セ
 ザルトキ
 第二十四條 相續ニ依リ鑛業權者又ハ抵當權者ト爲リタルモノハ
 戶籍又ハ民籍ノ事務ヲ取扱フ官吏又ハ公吏ニ届出ノ日ヨリ三十
 日内ニ其ノ登録ヲ申請スヘシ
 鑛業權者又ハ抵當權者氏名、名稱、住所又ハ假住所ヲ變更シタ
 ルトキハ三十日内ニ其ノ登録ヲ申請スヘシ

鑛業權者又ハ抵當權者法人ナル場合ニ於テ其ノ代表者又ハ代表
 者ノ氏名ヲ變更シタルトキハ三十日内ニ其ノ事實ヲ證スル書面
 ヲ添へ届出ツヘシ
 鑛業權者ノ代理人氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ三十日内ニ
 其ノ旨ヲ届出ツヘシ氏名變更ノ届出ヲ爲ス場合ニハ其ノ事實ヲ
 證スル書面ヲ添附スヘシ
 第二十五條 鑛業權者鑛業ニ著手シタルトキハ遲滞ナク鑛區所在
 地又ハ其ノ附近ニ鑛業事務所ヲ定メ十日内ニ其ノ所在地、名稱
 及著手年月日ヲ記載シタル届書ヲ差出スヘシ鑛業事務所ヲ移轉
 シタルトキ亦同シ
 第二十六條 鑛業權者其ノ他ノ利害關係人隣接セル他人ノ鑛區ニ
 付實地調査ヲ必要トスルトキハ願書ニ區域及其ノ事由ヲ詳記シ
 タル書面ヲ添附シ出願スルコトヲ得
 出願人ハ前項ノ調査ニ要スル人夫及物品ヲ供給スヘシ
 第二十七條 鑛業權者自ラ鑛業ヲ管理セザルトキハ鑛業代理人ヲ
 定メ連署シテ届出ツヘシ
 前項ノ代理人ハ朝鮮鑛業令及本令ノ規定ニ依リ鑛業ノ管理ニ關
 シ鑛業權者ノ爲スヘキ一切ノ行爲ヲ委任セラレタルモノト看做
 ス但シ鑛業權者ハ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ直ニ其旨
 ヲ届出ツヘシ
 第二十八條 鑛業權者ハ鑛區圖、坑内實測圖、鑛業簿及鑛夫名簿
 ヲ鑛業事務所ニ備置ケヘシ施行案又ハ鑛夫ノ保護取締ニ關スル

規定ヲ定メタル場合ニ於テ其ノ施行案又ハ規定ニ付亦同シ
 第二十九條 坑内實測圖ハ平面圖及截面圖ノ二種トシ少クトモ毎月末ニ於ケル掘進ノ狀況ヲ測定シ翌月中ニ調製スヘシ
 坑内實測圖ノ複本ハ毎年末月迄ノ分ヲ翌年二月迄ニ差出スヘシ
 第三十條 鑛業簿ニハ鑛產物ノ數量、販賣數量、販賣價額、行業日數及工數ヲ記載スヘシ
 第三十一條 鑛業明細表ハ毎年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ差出スヘシ
 第三十二條 鑛夫名簿ニハ鑛夫ノ氏名、生年月日、本籍、履歷ノ要領、業務ノ種類、賃金、雇傭及解傭年月日並雇傭期間ヲ記載スヘシ其ノ異動アリタルトキハ遲滞ナク之ヲ記入スヘシ
 第三十三條 坑内實測圖ノ複本又ハ鑛業明細表ヲ差出スヘキ場合ニ於テ記載スヘキ事項ナキトキハ其旨ヲ届出ツヘシ
 坑内實測圖ノ複本、鑛業明細表又ハ前項ノ届書ハ鑛業權ノ消滅又ハ移轉ノ場合ニ於テハ登録ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ
 第三十四條 二箇以上ノ鑛區ニ付合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ前條ノ書類又ハ圖面ハ合併シテ之ヲ調製スルコトヲ得
 第三十五條 朝鮮鑛業令第三十二條ノ規定ニ依リ土地ノ使用又ハ收用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ土地ノ名稱、地番、地目、面積、關係人ノ氏名又ハ名稱、住所、使用又ハ收用ノ目的及時期、使用又ハ收用ヲ必要トスル事由ヲ記載シタル申請書ニ關係地實測

圖及工事設計書ヲ添ヘ地方長官ヲ經由シテ申請スヘシ土地使用ノ許可ヲ申請スル場合ニハ使用ノ期間ヲモ記載スヘシ
 土地ノ使用又ハ收用ノ許可ヲ受ケタルモノハ朝鮮鑛業令第三十二條第二項ニ規定スル事項ト共ニ事業ノ種類及使用又ハ收用ニ關スル協議ノ方法ヲ關係人ニ通知スヘシ土地ノ使用ノ場合ニ於テハ使用ノ期間ヲモ通知スヘシ
 第三十六條 朝鮮鑛業令第三十二條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セムトスル者ハ使用ノ目的、使用ヲ必要トスル事由、土地ノ名稱、區域及占有者ノ氏名又ハ名稱ヲ記載シテ地方長官ニ申請スヘシ
 前項ノ申請ハ電信ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得
 第一項ノ土地ノ使用ノ許可ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ直ニ使用ノ區域、使用ノ目的及許可ノ年月日ヲ關係人ニ通知スヘシ
 第三十七條 朝鮮鑛業令第三十二條ノ規定ニ依リ土地ノ使用又ハ收用ノ許可アリタル後土地ヲ使用若クハ收用スル必要ナキニ至リタルトキハ直ニ地方長官ヲ經由シテ届出テ同時ニ關係人ニ通知スヘシ
 朝鮮鑛業令第三十三條ノ規定ニ依リ土地ノ使用ノ許可アリタル後土地ヲ使用スル必要ナキニ至リタルトキハ地方長官ニ届出ツヘシ
 第三十八條 土地ノ使用若ハ收用又ハ之ニ關スル補償ニ付協議調ハス又ハ協議ヲ爲スコト能ハサル爲地方長官ノ裁決ヲ求メムト

スルトキハ裁決申請書ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 申請人ノ氏名又ハ名稱及住所
 二 鑛業權ノ登録番號
 三 使用又ハ收用ニ係ル土地ノ名稱、地目、面積及其ノ土地ニ在ル物件ノ種類、數量及關係人ノ氏名又ハ名稱、住所但シ土地、物件方分割ヲ來タス場合ニ於テハ其ノ全部ノ面積、建坪ヲモ記載スルコト
 四 損失、補償ノ見積額及其ノ内譯
 五 使用者ハ收用ノ時期、使用ノ期間
 六 申請ノ目的及理由
 前項ノ申請書ニハ事業計畫書及圖面、關係人ト交渉シタル始末書若ハ交渉ヲ爲スコト能ハサル事由ヲ記載シタル書面並對手人ノ數ニ相當スル裁決申請書ノ副本ヲ添付スヘシ
 朝鮮鑛業令第三十五條ノ規定ニ依リ補償ニ關スル裁決申請書ニハ土地ノ現狀ヲ記載シタル書面及圖面ヲ添付スヘシ此ノ場合ニハ事業計畫書及其ノ圖面ノ添付ヲ要セス
 地方長官第一項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ關係人ニ交付スヘシ
 關係人ハ申請書ノ副本ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ地方長官ニ意見書ヲ差出スコトヲ得
 地方長官ハ前項ノ期間ヲ經過シタル後十四日以内ニ裁決ヲ爲スヘシ

前項ノ期間内ニ裁決ヲ爲スコト能ハサル事由アルトキハ朝鮮總督ハ地方長官ノ申請ニ依リ其期間ヲ延長スルコトアルヘシ
 朝鮮鑛業令第五條第二項ノ承諾ヲ拒ミ又ハ其ノ承諾ヲ得ルコト能ハサル爲地方長官ノ裁決ヲ求メムトスルトキハ裁決申請書ニ申請人ノ氏名又ハ名稱及住所、朝鮮鑛業令第五條第一項ニ掲グル者ノ氏名又ハ名稱及住所、申請ノ目的及理由ヲ記載スヘシ
 第二項、第四項乃至第七項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第三十九條 鑛業ノ出願又ハ鑛業ノ爲他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲ス必要アルトキハ立入ルヘキ土地ノ區域ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケヘシ
 測量又ハ調査ノ爲障礙物ヲ除却スル必要アルトキハ障礙物ノ種類、存在ノ場所、豫定價格、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱ヲ具シ地方長官ニ出願シ許可ヲ受ケヘシ
 前項ノ許可ヲ受ケタル者他人ノ土地ニ立入り測量又ハ調査ヲ爲サムトスルトキハ豫メ占有者ニ立入ルヘキ日時及場所ヲ通知スヘシ
 第一項ノ許可ヲ受ケタル者障礙物ヲ除却スル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ障礙物ノ所有者及占有者ニ通知スヘシ
 他人ノ土地ニ立入り測量若ハ調査ヲ爲シ又ハ障礙物ヲ除却スル場合ニ於テハ地方長官ヨリ受ケタル許可證ヲ携帶スヘシ
 前項ニ規定スル行爲ニ因リ土地ノ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者ニ及ボシタル損失ハ鑛業出願人又ハ鑛業權者之ヲ補償スヘシ

補償ニ付協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ
地方長官之ヲ決定ス
前項ノ決定ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ準用ス
第一項ニ規定スル土地、物件ノ所有權其ノ他ノ權利ヲ有スル者
ノ承繼人ニ付テハ第四條ノ規定ヲ準用ス
第四十條 地方長官ノ裁決又ハ決定ニ付テハ土地收用令施行規則
第十三條乃至第十六條ノ規定ヲ準用ス
第四十一條 本令中土地ノ使用又ハ收用ニ關スル規定及其ノ罰則
ニ關スル規定ハ土地ニ關スル所有權以外ノ權利、水ノ使用ニ關
スル權利又ハ工作物其ノ他ノ定著物ノ使用又ハ收用ニ關シ之ヲ
準用ス
第四十二條 朝鮮鑛業令第三十七條ニ規定スル事項ハ關係地方長
官協議ノ上之ヲ處分スヘシ協議調ハサルトキハ朝鮮總督ノ指定
ヲ受ケヘシ
第四三條 鑛業ニ關スル出願、請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ左ノ區
別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ
一 鑛業ノ出願 每一件 百圓
二 鑛業出願人ノ名義變更届 每一件 五十圓
三 相續ニ因ル鑛業出願人ノ名義承繼届 每一件 十圓
四 鑛業出願地又ハ鑛區ノ増區又ハ増區ト減區トヲ包含スル出
願 每一件 五十圓
五 鑛業出願地又ハ鑛區減區ノ出願 每一件 五圓

六 朝鮮鑛業令第十二條、第十三條又ハ第二十二條ノ規定ニ依
ル訂正ノ出願 每一件 三十圓
七 鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願 每一件 五十圓
八 鑛種名更正ノ出願 每一件 五圓
九 第二十六條ノ規定ニ依ル實地調査ノ出願 每一件 百圓
十 朝鮮鑛業令第三十二條又ハ第四十條ノ規定ニ依ル使用又ハ
收用ノ出願 每一件 二十圓
十一 第三十九條ノ規定ニ依ル土地ノ立入又ハ障礙物除却ノ出
願 每一件 十五圓
十二 鑛業出願地及鑛區地名臺帳閱覽ノ請求 一郡ニ付 每一時間 五圓
前項ノ手数料ヲ貼附シタル願書、請求書又ハ届書ハ郵便ヲ以テ
差出ス場合ニハ郵便物ノ表面ニ鑛業書類ナルコトヲ失書シ書留
郵便ヲ以テ差出スヘシ
第四十四條 第十四條第四項、第二十一條第四項、第二十四條、
第二十五條、第二十七條、第二十八條、第二十九條第二項、第
三十一條、第三十三條、第三十六條第三項、第三十七條又ハ第
三十九條第二項第三項第四項ノ規定ニ違背シタル者、第十二條
ノ規定ニ依リ指定セラレタル期日ニ立會ハス若ハ調査事項ノ説

明ヲ爲ササル鑛業權者、第二十一條第二項ノ規定ニ依リ命セラ
レタル期間内ニ鑛區圖ヲ差出ササル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處
ス
第四十五條 本令ハ第四十四條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ
準用ス

鑛業用土地收用(使用)ノ裁決並其調査ニ關シテハ從來ノ取扱區區
ニ涉リ候條爾今左記項目ニ依リ裁決書作成相成候様御取扱相成度
此段及通牒候也

附 則

第四十六條 本令ハ朝鮮鑛業令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四十七條 本令施行前光武十年農商工部令第四十三號鑛業法施
行細則及同年農商工部令第四十六號砂鑛採取法施行細則ニ依リ
爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ本令中之ニ相當スル規定ア
ル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス
第四十八條 朝鮮鑛業令第六十三條ノ規定ニ依ル願書ニハ左ノ書
類ヲ添附スヘシ
一 事業ノ現状ヲ詳記セル書類
二 朝鮮鑛業令公布前ヨリ出願鑛物ヲ採掘シタルコトヲ證スル
書類
(様式省略)

一 裁決申請人及被申請人ノ住所氏名並其申立ニ依リ裁決ヲ爲ス
旨ノ前提文
二 主 文
(イ) 收用(使用)スヘキ土地ノ表示及其損失補償額
損失補償額ノ算定ハ土地收用(使用)ノ時期即土地收用令第十
八條ニ依リ權利得喪ノ効ヲ生スル時期ヲ以テスヘシ
(ロ) 收用(使用)ノ時期
收用(使用)ノ時期ハ裁決書ノ謄本カ當事者ニ到達シタル後起
業者ニ於テ其時期迄ニ補償金ヲ關係人ニ拂渡シ又ハ供託シ關
係人ニ於テ土地物件ノ引渡及移轉ヲ爲スニ相當ナル餘日ヲ見
積ルヲ要ス(朝鮮鑛業令第三十二條、土地收用令第十八條及
第十九條參照)

○鑛業用土地收用(使用)ノ裁決ニ關
スル件

大正九年六月二十一日
官通院第五四號

各道知事宛

土木法規 附 錄

殖 産 局 長

三 事 實
(イ) 裁決申請人申立ノ要旨

第二條 日出前日没後邸内ニ立入り調査及測量ヲ爲ス場合ニ於テハ占有者ノ承諾ヲ受クヘシ

第三條 土地調査令第九條第二項ノ公示ハ土地調査簿及地圖ヲ土地所在ノ府郡廳ニ備ヘ三十日間縦覽ニ供シテ之ヲ爲シ其ノ旨ヲ朝鮮總督府官報及土地所在ノ道ノ道報ニ掲載スヘシ

第四條 土地調査令第十三條第二項ノ公示ハ裁決書ノ謄本ヲ高等土地調査委員會及土地所在ノ府郡島廳ニ備ヘ縦覽ニ供シテ之ヲ爲シ其ノ旨ヲ高等土地調査委員長ノ名ヲ以テ朝鮮總督府官報及土地所在ノ道ノ道報ニ掲載スヘシ

第五條 土地調査令第四條ノ申告又ハ通知後同令第九條第二項ノ公示ノ日ニ至ル迄ノ間ニ於テ其ノ土地ニ付左ノ各號ノ一ニ該當スル異動ヲ生シタルトキハ土地所有者又ハ保管官廳ハ別記第二號乃至第七號様式ニ依リ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督府臨時土地調査局ニ申告又ハ通知スヘシ但シ道路ノ改修又ハ新設ノ結果異動ヲ生シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 土地所有權移轉シタルトキ

二 民有地ニシテ國有地ト爲リ又ハ國有地ニシテ民有地ト爲リタルトキ

三 土地所有者其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキ

四 一筆ノ土地ヲ二筆以上ニ分割シタルトキ

五 數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲シタルトキ

六 地目ヲ變更シタルトキ

前項但書ノ場合ニ於テハ其ノ改修又ハ新設ヲ爲シタル者ヨリ其ノ事實ヲ朝鮮總督府臨時土地調査局ニ申告又ハ通知スヘシ

所有權移轉ノ申告書ハ前所有者ト連署シ土地所在ノ面長ノ證印ヲ受クヘシ但シ土地ノ收用、競賣又ハ判決ニ因ル所有權ノ移轉ニシテ前所有者ノ連署ヲ得難キ場合及前所有者方所在不明ト爲リ又ハ死亡シタル爲其ノ連署ヲ得難キ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ申告書ノ餘白ニ附記スルコトヲ要ス

第一項第三號中氏名又ハ名稱變更ノ申告書ニハ戶籍、民籍又ハ登記ノ抄本ヲ添附スヘシ

第五條ノ二 面長前條第三項ニ依リ證印ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ新所有者方結數連名簿副本ノ現所有者ト符合スルコトヲ認メタルトキ又ハ所有權ニ關スル證明濟證ヲ提出セシメ移轉ノ事實ヲ確認シタル場合ニ限リ證印ヲ爲スヘシ但シ未證明土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移轉シタルモノニ付テハ此ノ事實ヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ提出セシメ之ヲ確認シタル場合ニ於テハ直ニ證印ヲ爲スコトヲ得

第五條ノ三 朝鮮總督府臨時土地調査局長ハ第五條ノ申告又ハ通知ニ基キ之ニ依ル土地ノ異動ヲ調査整理スヘシ

第六條 高等土地調査委員會ノ裁決又ハ再審ヲ求ムトスル者ハ其ノ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ證憑書類ヲ添附シテ之ヲ高等土地調査委員會ニ提出スヘシ

一 申請者ノ住所、氏名又ハ名稱

二 申請地ノ所在、地番、地目及面積

三 申請ノ事由

前項第二號ノ地番ニ付テハ査定前ノ字番號ノ外査定ニ依ル地番ヲ明記スヘシ但シ疆界又ハ一筆地ノ一部ニ對シ申請スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ表示シタル實測圖ヲ添附スルコトヲ要ス

第七條 第五條ノ申告ヲ爲ササル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式

土地申告書		大正 年 月 日		地主總代理印	
所住	郡面統戶	氏名	地名		
土地所在		郡	面	里洞	
地目	字番號	等級	地積	結數	事
	及四標				故
字	號	東	西	南	北
字	號	東	西	南	北
字	號	東	西	南	北

第二號様式

土地賣買(何)申告書

土木法規 附錄

土地所在		何郡何面何洞(里)	
地目	字番號及四標	地積	結數
			事
			故
田	何字何號	東	西
		南	北
畝	同	同	同
		何斗落	何結
垜	同	同	同

右大正何年何月何日賣買(何)シタルニ因リ茲ニ連署申告ス

大正 年 月 日

住所	賣渡(何)人	名	印
住所	買受(何)人	名	印

朝鮮總督府臨時土地調査局長宛

右賣買(何)ノ相違ナキコトヲ證ス

大正 年 月 日

何面長 氏

名 印

土地所在		何郡何面何洞(里)	
地目	字番號及四標	地積	結數
			事
			故
ク	何字何號	東	西
		南	北
		何日耕	何結

國有地成(民有地成)申告書

第三號様式(甲)

土木法規 附錄

右大正何年何月何日何ニ因リ國有地ト爲リ(國有地賣下又ハ付與テ受ケ)タルニ因リ茲ニ申告ス
大正 年 月 日
第三號樣式(乙)

國有地成(民有地成)通知書
土地所在 何郡何面何洞(里)

地目	字番號及四標	地積	結數	國有地成(民有地成)ノ年月日	前地主(現地主)ノ姓名	住所	地主氏名印
田	何字何號東何南何	北何	何日耕	何結	大正何年何月何日	何郡何面何洞(里)	何某
畓	何號東何南何	北何	何斗落	大正何年何月何日	何郡何面何洞(里)	何某	何某

右通知ス

大正 年 月 日

保管官廳名

官 氏 名 印

朝鮮總督府臨時土地調查局長宛

第四號樣式

住所變更申告書(氏名又ハ名稱變更申告書)之ニ準ス
土地所在 何郡何面何洞(里)

地目	字番號及四標	地積	結數	事	故
堡	何字何號東何南何	北何	何斗落	何結	
田	何字何號東何南何	北何	何日耕	何結	

前住所 何郡何面何洞(里)何統何戶
現住所 何郡何面何洞(里)何統何戶
右大正何年何月何日變更セシニ因リ茲ニ申告ス
大正 年 月 日

朝鮮總督府臨時土地調查局長宛
第五號樣式
土地分割申告(通知)書

土地所在 何郡何面何洞(里)

地目	字番號及四標	地積	結數	事	故
田	何字何號東何南何	北何	何日耕	何負	前申告(前通知)
地圖(一)	東何南何	西何	何日耕	何東	現在
地圖(二)	東何南何	北何	何日耕	何負	現在

右大正何年何月何日分割シタルニ因リ茲ニ地圖ヲ添附シテ申告(通知)ス
大正 年 月 日

住所	地主氏名印
何郡何面何洞(里)	何某

朝鮮總督府臨時土地調查局長宛
第五號樣式附屬
土地分割圖

地主氏名印

住所 何郡何面何洞(里)
地主氏名印 何某

國有地成(民有地成)ノ原
前地主(現地主)ノ姓名 何某
住所 何郡何面何洞(里)

地目	字番號及四標	地積	結數	事	故
堡	何字何號東何南何	北何	何斗落	何結	
田	何字何號東何南何	北何	何日耕	何負	

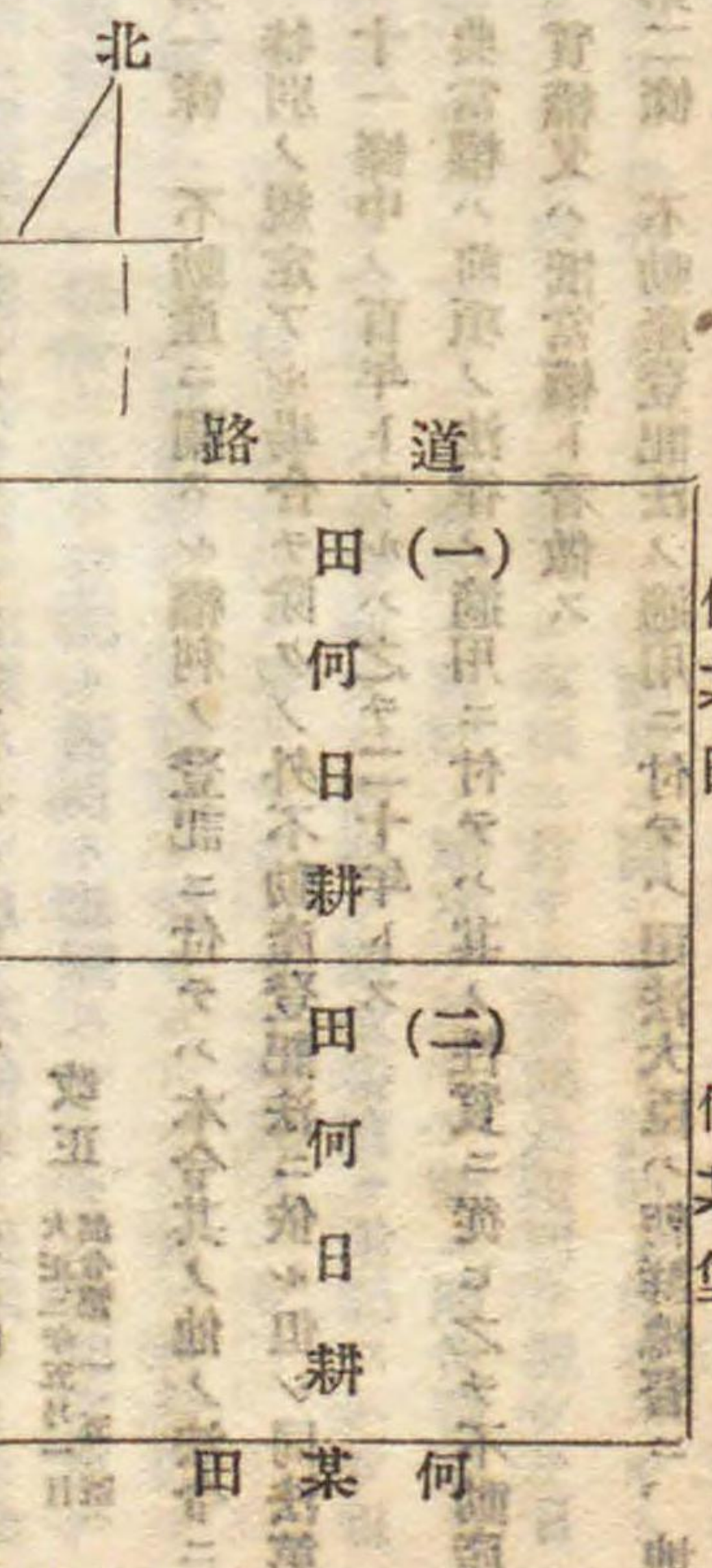
前住所 何郡何面何洞(里)何統何戶
現住所 何郡何面何洞(里)何統何戶
右大正何年何月何日變更セシニ因リ茲ニ申告ス
大正 年 月 日

第六號樣式

土地合併申告(通知)書
土地所在 何郡何面何洞(里)

地目	字番號及四標	地積	結數	事	故
田	何字何號東何南何	北何	何日耕	何負	
田	何字何號東何南何	北何	何日耕	何負	

以上二項合併
右大正何年何月何日合併シタルニ因リ茲ニ申告(通知)ス
大正 年 月 日



何某田 (官 氏 名 印)
何某堡

地主 氏 名 印
(保管官廳名)
 (官 氏 名 印)

地目變更申告(通知)書
 土地所在 何郡何面何洞(里)

地目	字番號及四標	地積	結數	事 故
田	何字何號 東何 南何	西何 北何	何日耕何	負 前申告前(通知)
塗				現在

右大正何年何月何日變更シタルニ因リ茲ニ申告(通知)ス
 大正 年 月 日

住所

地主 氏 名 印

(保管官廳名)

(官 氏 名 印)

朝鮮總督府臨時土地調查局長宛

○土地調査ニ關スル犯則者告發ノ件

政務 總 監

大正四年九月四日
官廳發第256號

各道長官、府尹、郡守、島司、警務部長宛
 土地調査令第四條ニ依リ申告ヲ爲スニ當リ從來往往所有權ヲ有セサル者カ他人ノ土地ヲ冒認シテ虛偽ノ申告ヲ爲シ又ハ偽造變更ニ係ル文書ヲ證據ニ提出シ因テ査定又ハ裁決ニ錯誤ヲ來サシメ正當ノ權利者ヲシテ不測ノ損害ヲ蒙ラシメタル事例夥カラス而シテ其ノ被害者ヨリ爲スヘキ土地調査令第十六條ニ依ル再審ノ申立ハ前記行爲其ノ他罰セラルヘキ行爲ニ對スル判決ノ確定ヲ必要トスルヲ以テ司法官憲ニ於テモ之カ檢舉及訴追ニ付テハ最モ嚴正ニ取扱フコトニ相成居候條荷モ右ニ關スル事犯アルコトヲ認知シタルトキハ容赦ナク速ニ之ヲ告發シ將來此ノ種ノ犯罪ヲ根絶セシムルコトヲ期セラレ度此段及通牒候也

○朝鮮不動産登記令

明治四十五年三月十八日
令第九號

改正 大正三年五月一日
令第一五號

第一條 不動産ニ關スル權利ノ登記ニ付テハ本令其ノ他ノ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外不動産登記法ニ依ル但シ同法第十一條中ノ百年トアルハ之ヲ二十年トス
 典當權ハ前項ノ法律ノ適用ニ付テハ其ノ性質ニ從ヒ之ヲ不動産質權又ハ抵當權ト看做ス
 第二條 不動産登記法ノ適用ニ付テハ司法大臣ハ朝鮮總督ニ、地方裁判所ハ覆審法院ニ、地方裁判所長ハ地方法院長ニ、區裁判所又ハ其ノ出張所ハ地方法院其ノ支廳又ハ出張所ニ、府縣ハ道

ニ、郡ハ郡ニ、市ハ府ニ、町村ハ面又ハ之ニ準スルモノニ該當ス
 第二條ノ二 各種ノ登記簿ハ府又ハ面毎ニ別冊ト爲ス但シ登記事件夥多ナル府又ハ面ニ在リテハ町洞其ノ他ノ區劃ニ從ヒ別冊ト爲スコトヲ得

第二條ノ三 土地調査ヲ行ハサル未登記ノ土地ノ所有權ノ登記ハ府尹又ハ郡守ノ認證ニ依リ其ノ所有權ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第三條 申請書其ノ他ノ附屬書類ハ檢事ノ囑託アリタルトキモ之ヲ登記所外ニ持出スコトヲ得

第四條 送達ニ付テハ朝鮮民事令ノ規定ヲ準用ス

第五條 本令施行ノ地域及期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條 削除

第七條 本令施行前不動産登記法又ハ朝鮮不動産證明令ニ依リ爲シタル登記又ハ證明ハ本令ニ依リ爲シタル登記ト看做ス
 第八條 本令施行前登記又ハ證明ヲ爲シタル不動産ニ付登記ヲ爲スヘキトキハ第九條ノ場合ヲ除クノ外舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙中本令ノ規定ニ依リ必要ナル事項ヲ登記簿ニ移記シタル後登記ヲ爲シ其ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ

前項ノ移記ヲ爲スニハ登記番號欄ニ登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記又ハ證明ノ番號ヲ附記シ表示欄ニ不動産ノ表示ヲ移シ相當區ノ順位番號欄及事項欄ニ舊登記簿

證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙中抹消ニ係ラサル番號及事項ヲ移スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ同一ノ不動産ニ關シ登記ト證明ト並存スルトキハ所有權其ノ他ニ關スル事項ニ付テハ登記及證明ヲ通シテ日附ノ順序ニ依リ之ヲ移記シ移記ノ順序ヲ追ヒテ新ニ順位番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記又ハ證明ノ順位番號ヲ附記スヘシ但シ同一ノ事項ニ付テハ日附ノ早キモノノミヲ移記スヘシ
 第八條ノ二 本令施行前登記及證明ヲ爲シタル不動産ニ付登記ヲ申請シタル場合ニ於テ登記ト證明ト抵觸スルトキハ登記官吏ハ假ニ登記ヲ爲シ其ノ旨ヲ記載スヘシ但シ不動産ノ表示ノミカ抵觸スル場合ニ於テ同一ノ不動産ナルコトヲ證スルニ足ルヘキ書面ヲ申請書ニ添附シタルトキハ前條ノ規定ニ依ル
 前項ノ規定ニ依リ初テ假ニ登記ヲ爲ス場合ハ前條第一項及第二項ノ規定ニ準シ登記及證明ヲ各別ニ移記シタル後之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ノ用紙ヲ閉鎖スヘシ
 抵觸スル登記又ハ證明ノ抹消アリタルトキハ第一項ノ規定ニ依リ假ニ爲シタル登記ハ其ノ登記ノ月日ヨリ之ヲ本登記ト看做ス此ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ假ニ爲シタル登記ノ餘白ニ本登記ト爲リタル旨及其ノ事由年月日ヲ記載シ第一項ノ登記申請者ニ之ヲ通知スヘシ
 第九條 本令施行前登記又ハ證明ヲ爲シタル不動産ニ付滅失又ハ

抹消ノ登記ヲ爲スヘキトキハ從前ノ例ニ依リ舊登記簿、證明簿又ハ證明臺帳ニ滅失又ハ抹消ノ記入ヲ爲スヘシ

第十條 本令施行地域内ニ在ル不動産ノ證明ニ關スル帳簿書類又ハ其ノ謄本ハ不動産登記法第九條ノ規定ニ準シ管轄登記所ニ之ヲ移送スヘシ

○朝鮮不動産登記令施行規則

明治三十五年三月二十九日 改正 大正三年五月十一日 大正五年四月一日
府令第三六號 府令第五〇號 府令第二九號

第一章 登記ニ關スル帳簿

第一條 土地登記簿ハ附錄第一號雜形、建物登記簿ハ附錄第二號雜形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第二條 共同人名簿ハ土地共同人名簿及建物共同人名簿ノ二種トス

共同人名簿ハ登記簿ヲ分設シタル區畫ニ從ヒ別冊ト爲スヘシ但シ便宜ニ依リ之ヲ合綴スルコトヲ得

共同人名簿ヲ合綴シタル場合ニ於テハ登記簿ヲ分設シタル區劃毎ニ見出ヲ附スヘシ

第三條 土地共同人名簿ハ附錄第三號雜形、建物共同人名簿ハ附錄第四號雜形ニ依リ地方法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第四條 登記簿及共同人名簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方法院長之

ヲ交付スヘシ

登記所ハ翌年中ニ必要ナル帳簿ノ冊數及各冊ノ枚數ヲ見積リ毎年十一月中ニ請求ヲ爲スヘシ

豫定外ニ帳簿ノ必要ヲ生シタルトキハ臨時其ノ請求ヲ爲スヘシ

第五條 登記簿及共同人名簿ノ用紙ニハ豫メ丁數ヲ記入スヘシ

第六條 土地登記見出帳ハ附錄第五號雜形、土地分合登記見出帳ハ附錄第六號雜形、建物登記見出帳ハ附錄第七號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第七條 土地登記見出帳ニハ土地ノ番號ヲ逐ヒ豫メ各筆ノ見出欄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ其ノ登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入スヘシ

第八條 土地分合登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部迄ヲ設ケ置キ土地ノ分合ニ關スル登記ヲ爲ス毎ニ其ノ土地ノ番號ノ頭字ニ依リ相當ノ部(十百千ノ數ヲ冠スルモノハ一ノ部ニ記入スルノ類)ニ土地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入スヘシ但シ土地分合併ニ因リ二以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ

前項ノ記入ヲ爲シタルトキハ土地登記見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其ノ見出ヲ抹スヘシ

第九條 建物登記見出帳ニハ豫メ一ノ部ヨリ九ノ部迄ヲ設ケ置キ登記用紙ニ登記番號ヲ記載スル毎ニ敷地ノ番號ノ頭字ニ依リ相

當ノ部ニ敷地ノ番號、登記用紙ヲ編綴セル登記簿ノ冊數、丁數及登記番號ヲ記入シ若建物ノ番號アルトキハ其ノ番號ヲモ記入スヘシ但シ敷地力二箇以上ノ番號ヲ有スルトキハ其ノ少キ番號ノ部ニミ記入スヘシ

第十條 登記用紙ヲ閉鎖シタルトキハ見出帳ノ備考欄ニ事由ヲ記入シ其ノ見出ヲ抹スヘシ

第十一條 受附帳ハ附錄第八號雜形ニ依リ毎年之ヲ調製スヘシ

第十二條 受附番號ハ一年毎ニ更新スヘシ

第十三條 受附帳ニ申請人ノ氏名ヲ記載スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者力二人以上ナルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及他ノ人真ヲ記載スルヲ以テ足ル

第十四條 登記所ニハ登記簿、共同人名簿、共同擔保目錄、見出帳及受附帳ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

- 一 謄本抄本交付帳
- 二 申請書囑託書通知書附屬書類送達帳
- 三 圖面綴込帳
- 四 受領證原符元帳
- 五 各種通知簿
- 六 登記立會調書綴込帳
- 七 決定原本綴込帳
- 八 登記簿謄本綴込帳
- 九 土地登記濟通知簿

- 十 抗告書類綴込帳
- 十一 本登記濟證交付帳
- 十二 印鑑簿
- 十三 印鑑證明書類綴込帳
- 十四 還納受領證綴込帳
- 十五 評價事件簿
- 十六 評價書類綴込帳
- 十七 前條第一號、第二號、第四號乃至第十一號、及第十三號乃至第十六號ノ張簿ハ一年毎ニ別冊ト爲スヘシ
- 十八 申請書、囑託書、通知書及附屬書類ハ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴スヘシ
- 十九 圖面ニハ申請書受附ノ年月日、受附番號及登記番號ヲ記載シ受附番號ノ順序ニ依リテ之ヲ編綴シ丁數ヲ附スヘシ
- 二十 共同擔保目錄ハ一年毎ニ其ノ番號ヲ更新シ別冊ト爲スヘシ
- 二十一 不動産登記法第四十四條ノ規定ニ依リ申請書ニ添付シタル書面二通ノ内一通ハ登記所ニ保存スヘシ
- 二十二 大正三年制令第十六號第一條、第十四條第五號ノ通知簿ニハ大正三年制令第十六號第一條、朝鮮不動産登記令第八條ノ二、不動産登記法第二十八條

ノ三、第十六條ノ二、第六十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ三、第七十五條第一項、第三百三條ノ二、第四百四條第二項、第四百二十六條第二項、第四百二十七條ノ二、第四百四十九條ノ二第一項、第五百五十二條第二項及本令第六十三條第一項、第六十四條第一項、第七十條、第七十條ノ二ノ通知事項、通知ヲ受クル者及通知ヲ發スル年月日ヲ記入シ通知書ト契印スヘシ

第二十條 不動産登記法第六十三條ノ二第一項ノ規定ニ依リ登記ノ更正ヲ爲シタル場合ニ於テハ地方法院長ノ許可書ハ第十四條第二號ノ帳簿ニ之ヲ合綴スヘシ

第二十條ノ二 評價事件簿ハ附錄第八號ノ二雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十一條 事變ヲ避ケル爲メ登記簿又ハ其ノ附屬書類ヲ登記所外ニ持出シタルトキハ登記官吏ハ速ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ具申スヘシ

第二十二條 裁判所、豫審判事又ハ檢事ヨリ申請書其ノ他ノ附屬書類ヲ送付スヘキ命令又ハ囑託アリタルトキハ登記官吏ハ其ノ關係アル部分ニ限リ之ヲ送付スヘシ

第二十三條 登記簿ノ全部又ハ一部力滅失シタルトキハ登記官吏ハ遲滯ナク其ノ事由、年月日、滅失セシ登記簿ノ冊數、其ノ他不動産登記法第二十三條ノ告示ヲ爲スニ必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シ且回復登記期間ヲ豫定シ地方法院長ニ申報スヘシ

地方法院長カ前項ノ申報ヲ受ケタルトキハ相當ノ調査ヲ爲シタル後朝鮮總督ニ具申スヘシ

ル後朝鮮總督ニ具申スヘシ

第二十四條 登記簿及其ノ附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ詳細其ノ狀況ヲ取調ヘ且處分方法ヲ具シ前條ノ例ニ準シ申訴又ハ具申ヲ爲スヘシ

第二十五條 登記所ニ於テ登記ニ關スル帳簿又ハ書類ヲ廢毀セントスルトキハ其ノ目錄ヲ作り地方法院長ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十六條 不動産ノ所有者ハ其ノ本籍地又ハ所在地ノ市、區、町、村長(市、區、町村長ナキ地ニ於テハ其ノ職務ヲ行フ吏員)又ハ府尹、面長若ハ之ニ準スル者ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ不動産所在地ヲ管轄スル登記所ニ提出スヘシ改印ヲ爲シタルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ證明ヲ得ルコト能ハサルトキハ成年者二人以上ノ連署シタル證明書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

不動産ヲ所有スル法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ代表者ハ其ノ法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ノ證明ヲ得タル印鑑、會社令第十九條第二項又ハ第二十條ニ規定スル會社ニシテ登記ヲ爲ササルモノニ在リテハ朝鮮ニ駐在スル其ノ本國領事館ノ證明ヲ得タル印鑑ヲ提出スヘシ但シ法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ニ關シ印鑑ヲ提出シタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 印鑑ハ附錄第九號雜形ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十八條 印鑑調製ノ様式及貼附ノ方法等ハ地方法院長之ヲ

定ムヘシ

第二十九條 第二十六條ノ規定ハ官廳及公署ニハ之ヲ適用セス

第三十條 登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル者ハ申請書ヲ提出スヘシ

代理人カ前項ノ請求ヲ爲ストキハ申請書ニ其ノ權限ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

第三十一條 土地登記簿謄本ノ交付又ハ土地登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ但シ閱覽ヲ請求スル申請書ニハ利害ノ關係アル事由ヲ記載シ又ハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添付スヘシ

一 土地所在地ノ表示及土地ノ番號

二 手数料ノ金額

三 登記所ノ表示

第四十年月日

第三十二條 土地登記簿抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外抄本ノ交付ヲ請求スル部分ヲ記載シ申請人署名捺印スヘシ

第三十三條 前二條ノ規定ハ建物登記簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ建物登記簿若ハ附屬書類ノ閱覽ノ請求ニ之ヲ準用ス但シ建物ノ番號アルトキハ申請書ニ其ノ番號ヲモ記載スヘシ

第三十三條ノ二 不動産登記法第二十一條ノ二ノ規定ニ依リ登記

簿ノ謄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ不動産ノ目錄ハ登記簿及共同擔保目錄ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

登記簿ノ抄本ノ交付ヲ請求スル場合ニ於ケル不動産ノ目錄ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ作成スヘシ

第三十四條 不動産登記法第二十一條第二項ノ郵送料ハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第三十五條 登記官吏カ第三十條ノ申請ヲ受取リタルトキハ受附帳ニ請求ノ目的、申請人ノ氏名、受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シタル上受附番號ノ順序ニ從ヒテ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

第三十六條 登記簿ノ謄本ハ登記簿ト同一様式ノ用紙ヲ以テ之ヲ作り其ノ末尾ニ左ノ認證文ヲ記載シタルモノヲ添付シテ契印ヲ爲シ登記官吏之ニ年月日ヲ記載シテ署名捺印シ且登記所ノ印ヲ捺捺スヘシ

此ノ謄本ハ登記簿ニ依リ之ヲ作り茲ニ登記簿ト相違ナキコトヲ認證スルハ其ノ責ニ在リ

前項ノ規定ハ登記簿ノ抄本ニ之ヲ準用ス但シ抄本用紙ハ美濃紙紙ヲ用ウヘシ

第三十六條ノ二 登記簿ノ謄本ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ルヘシ但シ請求ニ因リ抹消ニ係ラサル登記ノミヲ謄寫シテ之ヲ作ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ認證文ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第三十六條ノ三 前條但書ノ規定ハ登記簿ノ謄本ノ交付ノ申請書

ニ共同人名簿又ハ共同擔保目録ノ謄寫ヲ除ク旨記載スル場合ニ
 之ヲ準用ス
 第三十七條 登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ交付スルトキハ謄本抄本交
 付帳ニ謄本又ハ抄本ノ區別、交付ノ年月日及申請人ノ氏名ヲ記
 載シ謄本又ハ抄本ト契印スヘシ
 前項ノ規定ハ登記簿ノ謄本ヲ他ノ登記所ニ移送スル場合ニ之ヲ
 準用ス
 第三十八條 登記簿又ハ附屬書類ノ閱覽ハ登記官吏ノ面前ニ於テ
 之ヲ爲サシムヘシ
 第三十九條 印鑑簿ハ永久ニ之ヲ保存スヘシ
 受附帳、登記立會調書、登記簿謄本、登記簿謄本、十年間之ヲ
 保存スヘシ
 決定原本、登記簿、抗告書類、印鑑證明書類、評價事
 件簿及評價書類、五年間之ヲ保存スヘシ
 謄本抄本交付帳、受領證原簿、各種通知簿、土地登記簿通
 知簿、本登記簿、交付帳及還納受領證、三年間之ヲ保存
 スヘシ
 前三項ノ綴簿ノ保存期限ハ當該年ノ翌年ヨリ之ヲ起算ス
 第三十九條ノ二 共同擔保目録ハ先取特權、質權又ハ抵當權ノ抹
 消ノ登記ヲ爲シタル日ヨリ十年間之ヲ保存スヘシ
 第二章 登記申請ノ手續
 第四十條 登記ヲ申請スルニハ申請書ニ其ノ登記ヲ申請スルニ必

要ナル事項ノ外登録稅額ヲ記載スヘシ但シ明治四十五年制令第
 十六號第一條第一號乃至第十五號ノ登記ニ付テハ課稅標
 準ノ價格ヲモ記載スヘシ
 朝鮮登録稅令第十條ノ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外差
 稅額ヲ記載スヘシ
 第四十一條 申請書カ二通以上ニ涉ルトキハ申請人ハ每葉ノ綴目
 ニ契印スヘシ但シ登記權利者又ハ登記義務者カ二人以上共契印
 キハ其ノ一人ノ契印ヲ以テ足ル
 第四十二條 登記原因ヲ證スル書面初ヨリ存在セス又ハ之ヲ提出
 スルコト能ハサルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ
 第四十三條 不動産カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ跨ル場合ニ於テ裁
 判所ノ指定シタル管轄登記所ニ登記ヲ申請スルトキハ申請書ニ
 裁判ノ謄本ヲ添附スヘシ
 第四十四條 不動産登記法第二百二十八條又ハ第三百十條ノ規定ニ
 依リ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ登記スヘキ權利ノ目的タル不
 動產カ建物ナルトキハ申請書ニ其ノ圖面ヲ添附スヘシ
 第四十五條 建物ノ圖面ニハ不動産登記法第三十六條第一號及第
 三十七條ニ掲ケタル事項及敷地ノ方位並建物ノ形狀、間尺、位
 置ヲ記載シテ申請人署名捺印スヘシ
 圖面ハ總テ墨引、墨字トナシ若シ登記ノ目的外ナル建物アルトキ
 ハ其ノ圖ヲ朱引、朱字ト爲スヘシ
 圖面ハ美濃紙ヲ以テ之ヲ調製スヘシ

第四十五條ノ二 共同擔保目録ハ附錄第十號雜形ニ依リ美濃紙ヲ
 以テ之ヲ調製スヘシ
 第四十五條ノ三 申請人ハ共同擔保目録ノ表紙ニ不動産共同擔保
 目録ト記載シ之ニ署名捺印スヘシ
 共同擔保目録ノ用紙ニハ丁數ヲ記入シ且每葉ノ綴目ニ契印スヘ
 シ
 前二項ノ場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ多數ナルトキ
 ハ各一人ノ署名捺印又ハ契印ヲ以テ足ル
 第四十五條ノ四 共同擔保目録ニ不動産ニ關スル權利ノ表示ヲ爲
 スニハ其ノ表示ノ順序ヲ追ヒテ番號欄ニ番號ヲ附記スヘシ
 第四十五條ノ五 質權又ハ抵當權ノ設定ノ登記ヲ申請スル場合ニ
 於テ先順位ノ質權又ハ抵當權ノ登記アルトキハ申請書ニ其ノ旨
 ヲ記載スヘシ
 第四十六條 登記原因及登記ノ目的カ同一ニシテ且明治四十五年
 制令第十六號第一條第九號乃至第十四號第十八號但書及第十九
 號但書ノ規定ニ依リ登録稅ヲ納付スヘキ場合ニ於テ二以上ノ登
 記所ノ管轄内ニ在ルニ上ノ不動産ニ關スル權利ノ登記ヲ申請
 スルトキハ最初ニ登記ヲ申請スル登記所ニ登録稅ノ全額ヲ納付
 スヘシ
 前項ノ規定ニ從ヒ登録稅ヲ納付シタルトキハ登記官吏ハ登記テ
 申請スヘキ登記所ノ數ニ應ジ登録稅ノ受領證ヲ申請人ニ交付ス
 ヘシ但シ二通以上ノ受領證ヲ交付スルトキハ各通ニ番號ヲ附ス

ヘシ
 申請人他ノ登記所ニ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ受領證ヲ添附
 スヘシ
 第四十六條ノ二 不動産登記法第二百二十二條ノ三ノ規定ニ依リ申
 請書ニ前ノ登記ヲ表示スルニハ共同擔保目録ノ番號又ハ登記番
 號及順位番號ヲ記載スルヲ以テ足ル
 第四十六條ノ三 法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ代表者
 カ不動産ニ關スル登記ヲ申請スル場合ニ於テ其ノ法人又ハ朝鮮
 外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ヲ受ケタル登記所ト不動産所在
 地ヲ管轄スル登記所ト同一ナルトキハ申請書ニ不動産登記法第
 三十五條第一項第五號ノ書面ヲ添附スルコトヲ要セス
 第四十六條ノ四 法人又ハ朝鮮外ニ於テ設立シタル會社ノ登記ヲ
 受ケタル登記所ト不動産所在地ヲ管轄スル登記所ト異ナル場合
 卜雖同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ不動産登記法第三十
 五條第一項第五號ノ書面ハ一箇ノ申請書ノミニ一通ヲ添附スル
 ヲ以テ足ル
 前項ノ場合ニ於テハ他ノ各申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ
 前二項ノ規定ハ會社令第十九條第二項又ハ第二十條ノ會社ニシ
 テ未タ會社ノ登記ヲ受ケタルモノカ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場
 合ニ之ヲ準用ス
 第四十六條ノ五 前條ノ規定ハ數箇ノ申請書ニ月籍吏又ハ之ニ準
 スル者ノ書面ヲ添附スル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條ノ六 不動産登記法第六條第一號ノ規定ニ依リテ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ登記番號ヲ記載スル外證明書類ヲ添付スルコトヲ要セス

第四十六條ノ七 申請書ニ添付シタル書類ノ原本ノ還付ヲ請求スル場合ニ於テハ申請人ハ其ノ原本共ニ原本ニ相違ナキ旨ヲ記載シタル謄本ヲ添付スヘシ

登記官吏カ書類ノ原本ヲ還付スルトキハ其ノ謄本ニ原本還付ノ旨ヲ記載シテ捺印スヘシ

第四十七條 不動産登記法第四十四條ノ場合ニ於テハ申請書ニ登記簿謄本ヲ減失シタル旨ヲ記載スヘシ

第四十八條 不動産登記法第四十四條ニ掲ケタル書面ニハ左ノ諸件ヲ記載シ保證人署名捺印スヘシ

- 一 登記ヲ受クヘキ不動産ノ表示及登記ノ目的
- 二 登記義務者ノ人違ナキコト
- 三 保證人カ其ノ登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及年月日又ハ登記番號
- 四 保證人ノ住所、年齢
- 五 年月日

第四十八條ノ二 朝鮮登録稅令第八條ノ規定ニ依リ價額ヲ認定シタルトキハ之ヲ申請書ニ記載シ且書面又ハ口頭ヲ以テ告知スヘシ

第四十八條ノ三 評價ノ請求ヲ爲サムトスル者ハ其ノ請求書ニ登記

記官吏ノ指示シタル費用ノ豫納額ニ相當スル印紙ヲ貼付シテ之ヲ差出スヘシ

第四十八條ノ四 朝鮮登録稅令第九條ノ規定ニ依ル評定價格及課稅標準價格ハ遲滞ナク書面ヲ以テ之ヲ評價請求者ニ告知スヘシ

前項ノ告知書ニハ評價費用額ヲ記載シ且評價費用ノ豫納額ニ不足アルトキハ其ノ不足額ヲ遲滞ナク納付スヘキ旨ヲ記載スヘシ

第四十八條ノ五 課稅標準價格確定シタルトキハ登記官吏ハ申請書ニ其ノ價格及登錄稅額ヲ記載スヘシ

第四十八條ノ六 登記申請人カ其ノ負擔ヲ超エテ納付シタル登錄稅額及評價費用額ノ還付ヲ請求シタルトキハ登記官吏ハ遲滞ナク其ノ請求書ヲ地方法院長(覆審法院所在地ニ在リテハ覆審法院長)ニ送付シ且事件ヲ表示シテ左ノ事項ヲ報告スヘシ

- 一 申告價格、認定價格、評定價格及確定價格
- 二 既納及確定ノ登錄稅額
- 三 豫納及確定ノ評價費用額
- 四 還付ヲ要スル金額
- 五 還付ヲ受クヘキ者ノ氏名、住所

第三章 登記手續

第四十九條 登記官吏申請書ヲ受取リタルトキハ遲滞ナク申請ニ關スル總テノ事項ヲ調査スヘシ

第五十條 表示欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ表示番號欄及表示欄ニ縦線ヲ劃シ事項欄ニ登記ヲ爲シタルトキハ順位番號欄及事項欄

ニ縦線ヲ劃シテ餘白ト分界スヘシ

假登記ヲ爲シタルトキハ事項欄ノミニ縦線ヲ劃シ其ノ左側ニ本登記ヲ爲シ得ヘキ相當ノ餘白ヲ存シタル上順位番號欄及事項欄ニ縦線ヲ劃スヘシ

第五十一條 登記ノ申請書ニ圖面ヲ添付シタル場合ニ於テハ登記用紙中表示欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ圖面綴込帳ノ冊數及丁數ヲ記載スヘシ

第五十二條 申請書ニ記載シタル代理人ノ氏名、住所ハ登記簿ニ之ヲ記載スルコトヲ要セス

第五十三條 不動産登記法第七十六條第一項ノ場合ニ於テハ新用紙中登記番號ノ左側ニ其ノ番號ノ第二ナルコトヲ附記シ前用紙中登記番號ノ左側ニ第一ノ文字ヲ追記スヘシ

前項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十四條 不動産登記法第五十一條ノ規定ニ依リ共同人名簿ニ記載ヲ爲スニハ番號欄ニ番號ヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ全員ノ氏名、住所ヲ記載シ豫備欄ニ登記番號、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シテ登記官吏捺印スヘシ

第五十五條 共同人名簿ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所等ヲ記載シタルトキハ氏名、住所欄及持分欄ニ於ケル縦線ヲ番號欄及豫備欄ニ延長シテ餘白ト分界スヘシ

登記原因ニ持分ノ定ナキトキハ持分欄ニハ朱線ヲ交叉スヘシ

第五十六條 共同人名簿ニ記載シタル登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名、住所ノ變更又ハ持分ノ移轉若ハ變更ニ付登記ヲ爲シタルトキハ人名簿中豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印シ前ニ記載シタル事項ヲ朱抹スヘシ

第五十七條 前條ノ場合ニ於テ豫備欄ニ餘白ナキトキハ新ニ番號欄ニ前番號ヲ轉寫シ其ノ左側ニ第二ノ文字、前番號ノ用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及其ノ繼續用紙ナルコトヲ記載シ氏名、住所欄ニ登記權利者又ハ登記義務者ノ氏名ノミヲ記載シ持分欄ニハ朱線ヲ交叉シ豫備欄ニ登記ノ目的タル新ナル事項、申請書受附ノ年月日、受附番號及順位番號ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ前用紙ノ番號ノ左側ニ第一ノ文字繼續用紙ヲ編綴セル共同人名簿ノ冊數、丁數及之ニ繼續スル旨ヲ記載スヘシ

前二項ノ規定ハ第三以下ノ繼續用紙ヲ設ケル場合ニ之ヲ準用ス

第五十八條 共同人名簿ニ記載ヲ爲シタル場合ニ於テ登記用紙中相當事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ共同人名簿ニ於ケル番號ヲ記載スヘシ

第五十八條ノ二 不動産登記法第二百二十四條ノ二ノ規定ニ依リ記載ハ登記用紙中相當事項欄ニ爲シタル登記ノ末尾ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ共同擔保目録番號ヲモ記載スヘシ
 第五十八條ノ三 申請書ニ共同擔保目録ヲ添附シタル場合ニ於テ
 登記ヲ爲シタルトキハ其ノ目録ニ掲ケタル各不動産ニ關スル權
 利ノ表示ノ上ニ其ノ登記用紙ヲ編綴シタル登記簿ノ冊數、登記
 番號及順位番號ヲ記載シ且申請書ニ共同擔保目録ノ番號ヲ記載
 スヘシ
 第五十八條ノ四 不動産登記法第二百六條ノ二ノ規定ニ依リ共
 同擔保目録ニ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲スニハ第四十五條ノ四ノ
 規定ニ依ル番條ヲ用キテ之ヲ豫備欄ニ記載シ登記官吏捺印シ其
 ノ變更又ハ消滅ニ係ル事項ヲ朱抹スヘシ
 第五十八條ノ五 前條ノ手續ヲ爲シタルトキハ豫備欄ニ縦線ヲ劃
 シテ餘白ト分界スヘシ
 第五十八條ノ六 共同擔保目録用紙中豫備欄方登記ヲ爲スヘキ餘
 白ナキニ至リタルトキハ登記官吏ハ其ノ目録ニ繼續用紙ヲ編綴
 シ之ニ契印スヘシ
 第五十八條ノ七 不動産登記法第六十三條ノ二第一項ノ規定ニ依
 リ登記ノ更正ヲ爲ス場合ニ於テハ許可ヲ爲シタル裁判所ノ名稱
 許可ノ年月日及登記ノ年月日ヲモ記載スヘシ
 第五十九條 登記シタル權利ノ順位ヲ讓渡シ又ハ拋棄シタル場合
 ニ於テ變更登記ヲ爲シタルトキハ其ノ權利ノ登記ノ順位番號ノ
 左側ニ變更登記ノ順位番號ヲ記載スヘシ
 第六十條 附記登記ヲ爲シタルトキハ主登記ノ順位番號ノ左側ニ

附記番號ヲ記載スヘシ
 第六十一條 登記簿ノ全部又ハ一部ヲ滅失シタルニ因リ登記回復
 ノ登記ヲ爲シタルトキハ前登記ノ登記簿ニ不動産登記法第六
 十號第一項ノ手續ヲ爲シタル上之ヲ申請人ニ還付スヘシ
 第六十二條 不動産登記法第四十九條ノ五ノ規定ニ依リ抹消
 登記ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由及登記ノ年月日ヲモ記載スヘ
 シ
 第六十三條 不動産カ二以上ノ登記所ノ管轄ニ跨ル場合ニ於テ裁
 判所ノ指定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ登記所ハ速ニ其ノ旨ヲ
 他ノ登記所ニ通知スヘシ
 前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ見出帳中備考欄ニ其ノ通知事項
 ナ記入スヘシ
 第六十四條 地役權ノ變更又ハ消滅ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ
 其ノ要役地方他ノ登記所ノ管轄ニ屬スルトキハ連滯ナル其ノ登
 記所ニ變更又ハ消滅ノ事由及申請書受附ノ年月日ヲ通知スヘシ
 前項ノ通知ヲ受ケタル登記所ハ連滯ナク要役地方ノ不動産ノ登
 記用紙中相當區事項欄ニ通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スヘシ
 第六十四條ノ二 不動産登記法第四十六條ノ二ノ申請アリタル場
 合ニ於テ表示欄ニ登記ヲ爲スニハ債權者ノ氏名又ハ名稱、住所
 又ハ事務所及代位原因ヲ記載スヘシ
 前項ノ規定ハ大正三年制令第十六號第二條、不動産登記法第二
 十八條ノ三及第三十三條ノ二ノ規定ニ依リ登記ニ之ヲ準用ス

第六十五條 登記用紙ヲ閉鎖スルニハ表示欄ニ閉鎖ノ事由及其ノ
 年月日ヲ記載シ登記官吏捺印シ不動産ノ表示、表示番號及登記
 番號ヲ朱抹スヘシ
 第六十六條 不動産登記法第四十七條第二項ノ規定ニ依リ受領證
 ナ交付スル場合ニ於テ登記權利者又ハ登記義務者カ二人以上ナ
 ルトキハ申請書ニ掲ケタル筆頭ノ者ノミノ氏名及他ノ人員ヲ記
 載スルヲ以テ足ルニシ
 第六十七條 不動産登記法第四十七條第二項ノ受領證ハ登記簿證
 ナ交付スルトキ之ヲ還納セシムヘシ
 還納ヲ受ケタル受領證ハ之ヲ保存スヘシ
 第六十八條 不動産登記法第十二條第二項ノ調書ニハ左ノ事項ヲ
 記載スヘシ
 一 申請人ノ氏名、住所
 二 申請人カ登記官吏ナルコト又ハ登記官吏ノ妻若ハ登記官吏
 ノ四親等内ノ親族ナルコト
 三 登記ヲ爲スヘキ不動産ノ表示及登記ノ目的
 四 申請書受附ノ年月日及受附番號
 五 立會人ノ氏名、住所及年齢
 六 立會人カ其ノ登記所ニ於テ登記ヲ受ケタル不動産ノ表示及
 年月日又ハ登記番號
 第六十九條 不動産登記法第十一條第一項ノ通知ニハ土地所在地
 ノ表示及土地ノ番號、地目、反別若ハ坪數、申請書受附ノ年月

日、登記ノ目的及申請人ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ
 前項ノ通知ハ登記ヲ完了シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ但
 シ土地ニ對スル地稅又ハ市街地稅ノ納期開始前十五日内ハ其ノ
 都度通知ヲ爲スヘシ
 第七十條 登記官吏カ不動産登記法第二百二十九條、第三百十一條
 又ハ第三百十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ不動産ノ
 表示、登記原因、其ノ目附、登記權利者ノ氏名、住所、登記ノ
 目的及登記簿ノ旨ヲ不動産ノ所有者ニ通知スヘシ但ハ第三百十
 一條又ハ第三百十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル場合ニ於テ
 ハ所有權以外ノ權利者ニモ其ノ通知ヲ爲スヘシ
 第七十條ノ二 不動産登記法第四百十九條ノ二第一項ノ通知ハ同
 法第四十六條ノ二ノ場合ニ於テハ債權者、大正三年制令第十六
 號第二條ノ場合ニ於テハ申請人ニ亦之ヲ爲スヘシ
 第七十條ノ三 不動産登記法第四百十九條ノ二第二項ノ通知ハ
 登記ヲ完了シタル事件ノ表示又ハ事件カ登記所ノ管轄ニ屬セサル
 コト又ハ登記スヘキモノニ非サルコトヲ記載スヘシ
 第七十一條 大正三年制令第十六號第六條、朝鮮不動産登記令第
 八條ノ二、不動産登記法第二十八條ノ三、第六十條ノ二、第六
 十一條、第六十三條乃至第六十三條ノ三、第七十五條第一項、
 第三百三條ノ二、第二百二十七條ノ二、第四百十九條ノ二第一項、
 第五百十三條第二項及本令第七十條、第七十條ノ二ノ通知ハ郵
 便其ノ他便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第七十二條 不動産登記法第九條第一項ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ノ管轄ノ變更アリタルコト又其ノ年月日ヲ記載シ其ノ表紙ニ記載シタル登記所ノ名稱ヲ變更スヘシ

同法第五十九條ノ場合ニ於テハ登記簿ノ表紙ニ行政區劃若ハ洞里之ニ該當スル又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルコト及其ノ年月日ヲ記載シ其ノ表紙ニ記載シタル行政區劃若ハ洞里之ニ該當スル又ハ其ノ名稱ヲ變更スヘシ

第七十三條 本令ハ朝鮮不動産登記令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(雜形略ス)

○不動産登記法第三十一條第一項ニ依ル登記ノ囑託ニ關スル件

大正九年六月十二日
官通第百五十二號
法務局長

地方法院長同支廳上席判事同出張所書記宛
鎮南浦府尹ヨリ問合ニ係ル首題ノ件左記ノ通回答候條御了知相成度及通牒候也

問 官廳又ハ公署カ不動産ニ關スル權利ヲ得タルトキハ不動産登記法第三十一條第一項ニ依リ登記所ニ所有權移轉登記ヲ囑託スヘク囑託以外ニ於ケル一般ノ登記申請ハ同第三十五條ニ依ルヘキモノニシテ從テ所有權移轉登記囑託書ニハ第三十一條

○不動産登記申請書様式ニ關スル件

第一項ニ規定シアル書類以外第三十五條ニ規定シアル書類ヲ具備スルノ要ナキモノト存シ候モ聊カ疑義ヲ點有之候條何分ノ御回報相煩度

答 不動産登記法第三十一條第一項ニ依リ登記ノ囑託ニ付テハ登記原因ニ付第三者ノ許可、同意又ハ承諾ヲ要スル場合ニ於テハ證スル書面ヲ添付スヘキモノト思考致候

地方法院長、地方法院支廳判事、地方法院出張所書記宛
不動産登記申請書様式別冊ノ通相定メ候條之ニ準據セシメテ及レ度及通牒候也

(別冊ハ別途配付ス)

○本府所管ニ係ル不動産證明又ハ登記ノ囑託ニ關スル件

大正元年十二月二十六日
府令第百四十四號
改正 大正二年二月七日 大正二年六月二十五日 大正六年八月
府令第百六號 府令第百六十三號 府令第百五十六號

本府所管ニ係ル不動産證明又ハ登記ノ囑託ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 本府所管ニ係ル不動産ノ證明又ハ登記ハ左ノ官吏ヲシテ之ヲ囑託ナ爲サシム

- 一 農商工部局長
 - 一 土木局長
 - 一 土木局出張所長
 - 一 鐵道局長
 - 一 遞信局長官
 - 一 覆審法院長
 - 一 地方法院長
 - 一 典獄
 - 一 警務總長
 - 一 勸業模範場長
 - 一 營林廠長
 - 一 平壤鑛業所長
 - 一 道長官
 - 一 府尹
 - 一 那守
 - 一 稅關長
- 第二條 前條ニ依リ指定シタル官吏ハ朝鮮不動産證明令第九條第五號又ハ朝鮮不動産登記令ニ依リ不動産登記法第三十五條第五號ノ書面ノ提出ヲ要セス

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行

○本府所管船舶ノ登記、登錄、検査其ノ他一般海事ニ關スル申請、届出等ノ手續ニ關スル件

大正三年八月二十五日
訓令第百四十四號

- 官房土木局長
 - 遞信局長官
 - 鐵道局長官
 - 警務總長
 - 道長官
 - 營林廠長
 - 稅關長
- 本府所管船舶ノ登記、登錄、検査其ノ他一般海事ニ關スル申請、届出等ノ手續ハ朝鮮總督府ノ名義ニテ其ノ官ノ名ヲ用キ之ヲ爲スヘシ
- 船舶登録申請其ノ他ニ關スル件
- 大正三年八月二十六日
府令第一八二二號

釜山出張所長
仁川出張所長
各通
鎮南浦出張所長

本月二十五日朝鮮總督府令第四十四號ヲ以テ土木局生管船舶ノ登記、登錄、檢査其ノ他一般海事ニ關スル申請届出等ノ手續ハ本府ノ名義ニテ本官ノ名ヲ用キ之ヲ爲スコトト相成候ニ付テハ本局出張所保管ノ船舶ニシテ朝鮮船舶法規ニ依リ申請又届出ヲ要スル場合ハ必要ノ都度貴官ニ於テ申請書又ハ届書案ヲ作成シ本局ヘ廻付可相成此段及通牒候也

朝鮮登録稅令

明治四十五年三月二十二日
大正三年五月一日
大正四年九月
大正五年三月二十三日
大正七年三月
大正八年四月
大正九年四月
大正九年六月
大正九年七月
大正九年八月
大正九年九月
大正九年十月
大正九年十一月
大正九年十二月

第一條 不動産ニ關スル登記又ハ證明ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 相續ニ依ル所有權ノ取得
不動産價格 千分ノ七
 - 二 贈與、遺贈其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
不動産價格 千分ノ五
- 但シ神社、寺院、祠宇、佛堂又ハ民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル社團若ハ財團法人カ無償名義ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ不動産價格ノ千分ノ三十

- 三 實買其ノ他有償名義ニ因ル所有權ノ取得
不動産價格 千分ノ三十五
 - 四 所有權ノ保存
不動産價格 千分ノ五
 - 五 共有物ノ分割
分割ニ因リテ受クル不動産ノ價格 千分ノ五
 - 六 永代ノ地上權ノ取得
不動産價格 千分ノ二十五
 - 七 地上權、永小作權ノ取得
存續期間十年未滿 不動産價格 千分ノ二
存續期間二十年未滿 不動産價格 千分ノ三
存續期間三十年未滿 不動産價格 千分ノ四
存續期間三十年以上 不動産價格 千分ノ五
 - 八 賃借權ノ取得
存續期間十年未滿 不動産價格 千分ノ一
存續期間十年以上 不動産價格 千分ノ二
- 但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

九 地役權ノ取得

先取特權ノ保存又ハ取得

要役地價格 千分ノ一

債權金額又ハ不動産工事費用豫算金額 千分ノ六
但シ債權ノ金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一 質權、抵當權ノ取得

債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權、抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權、抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十二 競賣、強制管理ノ申立

債權金額 千分ノ六

但シ競賣、強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三 假差押、假處分

債權金額 千分ノ四

但シ假差押、假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四 抵當アル債權ノ差押

債權金額 千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十五 相續、財産ノ分離

所有權ニ付テハ不動産價格 千分ノ六
所有權以外ノ權利ニ付テハ不動産價格 千分ノ一

十六 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

不動産每一個 二十錢

十七 假登記
不動産每一個 二十錢

十八 附記登記又ハ附記證明
不動産每一個 十錢

但シ一件ニ付キ稅額三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十九 登記又ハ證明ノ更正、變更又ハ抹消
不動産每一個 十錢

但シ一件ニ付稅額三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第一條ノ二 船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 相續ニ因ル所有權ノ取得
船舶價格 千分ノ三

二 贈與、遺贈其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得
船舶價格 千分ノ五

三 第一號及第二號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得
船舶價格 千分ノ二十五

三ノ二 委付
船舶價格 千分ノ三

四 所有權ノ保存
船舶價格 千分ノ三

五 賃借權ノ取得
船舶價格 千分ノ二

存續期間十年未滿 船舶價格 千分ノ一

存續期間十年以上 船舶價格 千分ノ二

存續期間ノ定ナキモノ船舶價格 千分ノ一
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登録稅ヲ計算ス

六 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ抵當權ノ目的タルモノノ價格力債權金額ヨリ寡キトキハ抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

七 競賣ノ申立 債權金額 千分ノ六

但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格力債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八 假差押、假處分 債權金額 千分ノ四

但シ假差押、假處分ニ付スヘキモノノ價格力債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九 抵當アル債權ノ差押 債權金額 千分ノ六

但シ差押ニ付スヘキモノノ價格力債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復

船舶每一箇 二十錢

船舶每一箇 二十錢

船舶每一箇 十錢

但シ一件ニ付稅額三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

十三 登記ノ更正、變更又ハ抹消

船舶每一箇 十錢

但シ一件ニ付稅額三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第一號乃至第三號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第一條ノ三 船籍ノ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録 每十噸 五十錢

二 轉 籍 每十噸 十錢

三 除 籍 每十噸 五錢

四 登録ノ變更 船舶每一箇 十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニアリテハ積石數百石迄毎十噸トシテ計算ス

第一條ノ四 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

甲種 船長 十五圓

甲種一等運轉士 十圓

甲種二等運轉士 六圓

乙種 船長 十圓

第一條ノ七 輕便鐵道抵當原簿及軌道抵當原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 二圓

第二條 本令ノ適用ニ付テハ典當權ハ其ノ性質ニ從ヒ之ヲ質權又ハ抵當權ト看做シ永代借地權ハ之ヲ所有權ト看做ス

第三條 財團法人又ハ營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 法人ノ設立、設立後ノ事務所設置又ハ事務所ノ移轉 每一件 一圓

二 登記事項ノ變更消滅若ハ廢止、登記ノ更正若ハ抹消、法人ノ解散、清算人ノ選任、解任若ハ變更又ハ清算ノ終了 每一件 五十錢

主タル事務所ニ非サル事務所所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ

第三條ノ二 商會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人カ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ第一號、第三號又ハ第六號ノ場合ニ於テ稅額十圓未滿ナルトキハ十圓トス

一 合名會社、合資會社設立 財產ヲ目的トスル出資ノ價格 千分ノ二

二 合名會社、合資會社出資增加

二 登録事項ノ變更
第一條ノ五 工場財團登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正變更又ハ抹消 每一件 二圓

第一條ノ六 鑛業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 抵當權ノ取得 債權金額 千分ノ一

二 強制競賣、強制管理ノ申立 債權金額 千分ノ一

三 假差押、假處分 債權金額 千分ノ一

四 登記ノ更正變更又ハ抹消 每一件 二圓

- 三 株式會社、株式合資會社設立
 - 拂込株金額又ハ拂込株金額及財產目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格
- 四 株式會社、株式合資會社資本増加
 - 増資拂込株金額又ハ増資拂込株金額及財產目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格
- 五 株式會社、株式合資會社第二回以後ノ株金拂込
 - 毎回拂込株金額
- 六 合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立
 - 拂込株金額及財產目的トスル株金額以外ノ出資ノ價格
- 七 合併ニ因ル會社資本ノ増加
 - 増資拂込株金額及財產目的トスル株金額以外ノ價格
- 八 社債
 - 拂込金額
- 九 第三回以後ノ社債拂込
 - 毎回拂込金額
- 十 支店設置
 - 每一箇所
- 十一 本店又ハ支店ノ移轉
 - 每一件
- 十二 支配人規選任又ハ代理權ノ消滅
 - 每一件
- 十三 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止
 - 每一件

- 十四 登記ノ更正又ハ抹消
 - 每一件
- 十五 合名會社、合資會社設立ノ取消
 - 每一件
- 十六 解散
 - 每一件
- 十七 清算人ノ選任、解任又ハ變更
 - 每一件
- 十八 清算ノ結了
 - 每一件
- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件一圓ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第四條 左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 商號ノ設定又ハ取得 每一件 五圓
 - 二 支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅 每一件 三圓
 - 三 商法第五條又ハ第七條ノ規定ニ依ル登記 每一件 二圓
 - 四 民法第七百九十四條、第七百九十五條又ハ第七百九十七條ノ規定ニ依ル登記 每一件 二圓
 - 五 前記各號ノ登記事項ノ變更、消滅若ハ廢止又ハ登記ノ更正若ハ抹消 每一件 一圓
 - 六 船舶管理人ノ選任、ハ代理權ノ消滅 每一件 一圓

- 支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ
- 第四條ノ二 法人ノ合併ニ因ル權利ノ取得ニ付不動産又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 不動産價格 千分ノ五
 - 船舶價格 千分ノ三
- 他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ前項ニ依ル稅額ヨリ寡キトキハ其ノ稅額ニ依ル
- 前二項ノ場合ニ於テ稅額十錢未滿ナルトキハ十錢トス
- 第四條ノ三 礦業權ニ關シ礦業原簿ニ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 新規登録 每一件 二百圓
 - 礦區合併 每一件 五十圓
 - 礦區分割 每一件 五十圓
 - 朝鮮礦業令第二十二條ノ規定ニ依ル礦區訂正 每一件 五十圓
 - 増區又ハ増減區 每一件 二十圓
 - 減區 每一件 二十圓
 - 相續以外ノ原因 每一件 五十圓
 - 相續ニ因ル移轉 每一件 百圓
- 三 抵當權ノ設定
 - 新規登録債權金額 千分ノ五
 - 朝鮮礦業令第二十一條第二項ノ規定ニ依リ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定

- 五 順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更 每一件 五圓
- 六 抵當權ノ移轉
 - 相續以外ノ原因 每一件 五圓
 - ニ依ル移轉 每一件 十圓
- 七 共同礦業權者ノ脫退 每一件 五圓
- 八 滯納處分以外ノ原因ニ因ル礦業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限 債權金額 千分ノ四
- 九 廢業ニ因ル礦業權ノ消滅 每一件 二圓
- 十 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 十錢
- 債權金額ニ依リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第五條 「登録稅ハ一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス」
- 第六條 登録稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得
- 第七條 左ニ掲グルモノニハ登録稅ヲ課セス
 - 一 政府自己ノ爲ニスル登記又ハ證明
 - 二 公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動産ノ登記、證明又ハ登録
 - 三 社宅堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ證明
- 第八條 登記所又ハ證明官署カ登記申請人又ハ證明申請人ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請人又ハ證明申請人ニ告知スヘシ

第九條 前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請人又ハ證明申請人ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所又ハ證明官署ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ登記所又ハ證明官署ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課税標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課税標準ノ價格ヲ定ム

第十條 登記申請人又ハ證明申請人カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル税額ト認定價格ニ相當スル税額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所又ハ證明官署ハ直ニ登記又ハ證明ヲ爲スヘシ

第十一條 當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス

第十二條 評價人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ケ

第十三條 評價ニ要シタル費用ハ登記申請人又ハ證明申請人ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラ

第十四條 評價ノ費用ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附 則 本令ハ明治四十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正五年三月二十三日制令第一號) 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

(大正五年三月總令第一七號ヲ以テ) 大正五年四月一日ヨリ施行

明治四十四年制令第九號ハ之ヲ廢止ス 朝鮮鑛業令第六十二條ノ規定ニ依ル鑛業ノ出願ノ許可ニ基キ鑛業權ノ新規登錄ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄稅ヲ課セス

朝鮮登錄稅令中ノ公共團體等ニ關スル件

大正四年八月七日 官廳第三四二號

政務總監

各道長官、各地方法院長宛 平安南道長官照會首題ノ件左記ノ通了知可相成及通牒候也

記

問一 地方費及臨時恩賜金ハ朝鮮登錄稅令第七條第二號ノ公共團體中ニ包含スルヤ

答 登錄稅ノ課否方ニ關シテハ公共團體ニ準シ取扱フヘシ

問二 朝鮮登錄稅令第七條第二號ノ公用中ニハ公共ヲモ包含セルモノト解シ差支ナキヤ

答 見込ノ通

○地稅令

大正三年三月 改正 大正七年六月十八日 制令第一號 制令第九號

第一條 土地ノ地目ハ其ノ種類ニ從ヒ左ノ如ク區別ス

- 一 田 畚 塗 池沼 雜種地 二 林野 社寺地 墳墓地 公園地 鐵道用地 水道用地

道路 河川 溝渠 溜池 堤防 城堞 鐵道線路 水道線路 前項第一號ニ掲ケル土地ニハ地稅ヲ賦課ス社寺地ニシテ有料借地ナルトキ亦同シ

國有ノ土地ニハ地稅ヲ賦課セス

第二條 郡島ニ土地臺帳又ハ地稅臺帳ヲ備ヘ地稅ニ關スル事項ヲ登錄ス

第三條 地稅ハ土地臺帳又ハ地稅臺帳ニ登錄シタル地價ノ千分ノ十三ヲ以テ一年ノ稅額トス

地價ハ土地ノ收益其ノ他ノ事項ヲ審査シ地方ノ狀況ニ應シテ之ヲ定ム

第四條 地稅ヲ賦課セサル土地カ之ヲ賦課スル土地ト爲リタルトキハ新ニ地價ヲ定ム

地稅ヲ賦課スル土地カ之ヲ賦課スル他ノ地目ノ土地ト爲リタルトキハ地價ヲ修正ス但シ第十條ノ規定ニ依リ地價ノ據置キヲ爲スモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條 削除

第六條 地稅ハ左ニ掲ケル者ヨリ之ヲ徵收ス

- 一 質權又ハ質ノ性質ヲ有スル典當權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者又ハ典當權者 二 二十年以上ノ存續期間ノ定アル地上權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者 三 前二號以外ノ土地ニ付テハ所有者

前項ニ於テ質權者、典當權者、地上權者、所有者ト稱スルハ土地臺帳又ハ地稅臺帳ニ質權者、典當權者、地上權者、所有者トシテ登錄セラレタル者ヲ謂フ

第七條 地稅ハ年額ヲ二分シ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者ノ一面ニ於ケル地稅年額壹圓以下ナルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ第一期又ハ第二期ニ於テ一時ニ之ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 十二月一日ヨリ同月二十八日限

第二期 翌年二月一日ヨリ同月末日限

第八條 國、府、面、又ハ朝鮮總督ノ指定スル公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地ニ付テハ地稅ヲ免除ス但シ有料借地ハ此ノ限ニ在ラス

地方費支辨ノ事業ノ用ニ供スル土地ニ付テハ前項ニ同シ

第九條 天災ニ因リ土地ノ形狀ヲ變シ又ハ作土ヲ害シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ十年以内ノ期間ヲ定メ地稅ヲ免除スルコトヲ得

第九條ノ二 前條ノ期間滿了スルモ其ノ土地ニシテ原狀ニ復シ難キモノハ五年以内ノ期間ヲ定メ地價ヲ低減スルコトヲ得

前項ノ期間滿了シ尙原狀ニ復シ難キ土地ニ付テハ地價ヲ修正ス

第十條 地稅ヲ賦課スル土地ニ著シキ勞費ヲ加ヘ地稅ヲ賦課スル他ノ地目ニ變換シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ十年以内ノ期

間ヲ定メ原地價ヲ據置クコトヲ得

第十條ノ二 地稅ヲ賦課セサル土地ニ特ニ勞費ヲ加ヘテ地稅ヲ賦課スル土地ニ爲シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ十年以内ノ期間ヲ定メ地稅ヲ免除スルコトヲ得

第十條ノ三 海面、水面、浮洲等ニ勞費ヲ加ヘテ地稅ヲ賦課スル土地ト爲シタルトキハ其ノ狀況ニ依リ二十年以内ノ期間ヲ定メ地稅ヲ免除スルコトヲ得

第十一條 地稅ヲ賦課スル土地カ地稅ヲ賦課セサル土地ト爲リタルトキ又ハ地稅ヲ免除セラレタルトキハ其ノ以後ニ開始スル納期ヨリ地稅ヲ徵收セス

地稅ヲ賦課セサル土地ニシテ地稅ヲ賦課スル土地ト爲リタルトキ又ハ地稅ヲ免除スル土地ニシテ免除ノ事由止ミタルトキハ其ノ以後ニ開始スル納期ヨリ地稅ヲ徵收ス但シ其ノ年經過後地稅ヲ賦課スル土地トナリタルモノ又ハ地稅免除ノ事由止ミタルモノハ其ノ年分地稅ノ翌年ニ於ケル納期ニ於テハ地稅ヲ徵收セス

第十二條 地價ヲ修正シタル土地ニ付テハ其ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地稅ヲ徵收ス但シ其ノ年ニ係ル地稅ノ納期開始後地價ヲ修正シタルトキハ翌年分ヨリ修正地價ニヨリ地稅ヲ徵收ス

第十三條 稅務官吏ハ土地ノ檢査ヲナシ又ハ納稅義務者若ハ土地所有者ニ對シ必要ノ事項ヲ尋問スルコトヲ得

第十四條 納稅義務者地稅ヲ逋脱シタルトキハ百圓以下ノ罰金

又ハ科料ニ處シ土地ノ現狀ニ依リ稅額ヲ定メ逋脱シタル地稅ヲ追徵ス但シ自首シタルモノハ刑ヲ免ス

第十五條 前條ノ所犯ニ付納稅義務者其ノ情ヲ知ラサル場合ニ於テ土地ノ管理人又ハ借地人ノ行爲ニ基クトキハ其ノ管理人又ハ借地人ヲ前條ノ罰ニ處ス但シ自首シタルモノハ刑ヲ免ス

附則

本令ハ大正三年分地稅ヨリ之ヲ適用ス(大正三年三月制令第一號附則)

從來各土地ニ付シタル結價八圓ハ十一圓、六圓六十錢ハ九圓、五圓三十錢ハ八圓、四圓二十錢四圓又ハ三圓七十錢ハ六圓、三圓二十錢ハ五圓、二圓六十錢又ハ二圓十錢ハ四圓、二圓三十錢以下ハ二圓トス本令ハ大正七年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ大正七年分地稅ハ本令ニ依リ之ヲ徵收ス(大正七年六月制令第九號附則)

本令施行ノ際本令ニ依リ一面ニ於テ地稅年額十圓未滿ヲ納ムル義務アル者ノ各土地ノ地稅額カ從前ノ規定ニ依リ地稅年額ノ二倍ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ本令施行後從前ノ規定ニ依リテハ五 間其ノ他ノ土地ニ在リテハ三年間之ヲ徵收セス但シ其ノ土地ノ所在面ニ於ケル同一地目ノ土地ノ地稅年額ノ平均額カ當該土地ノ從前ノ規定ニ依リ地稅年額ノ二倍ヲ超ユル場合ニ於テ平均額カ地稅年額以上ナルトキハ其ノ地稅年額ヲ、地稅年額未滿ナルトキハ平均額ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ本令施行後一面ニ於テ地稅年額十圓以上ヲ納ムル義務アルニ至リタル者ノ土地ニ付テハ之ヲ適用セス前項ノ規定ニ依リ地稅ヲ徵收セサル土地ノ所有權又ハ第六條第一項第一號及第二號ニ掲ケル權利カ本令施行後相續以外ノ事由ニ依リ移轉シタル場合ニ於テ其ノ土地ニ付亦同シ

大正三年制令第三號施行前國有未墾地利用法ニ依リ賣下又ハ付與シタル土地ノ地稅ハ其ノ賣下又ハ付與ノ翌年ノ期間滿了スルニ至ル迄仍從前ノ例ニ依ル

○地稅令施行規則

改定 大正七年七月十七日 府令第七三號

第一條 面ハ地稅名寄帳ヲ備フヘシ

第二條 地稅名寄帳ニハ地稅ヲ徵收スル土地ニ付左ニ掲ケル事項ヲ登錄スヘシ

- 一 土地ノ所在
 - 二 地番
 - 三 地目
 - 四 地積
 - 五 地價
 - 六 稅額
 - 七 納稅義務者ノ住所、氏名又ハ名稱
 - 八 納稅管理人ノ住所、氏名
- 第三條 地稅令第七條但書ニ規定スル地稅ハ第一期ニ於テ一時ニ

之ヲ徵收スヘシ

第四條 地稅令第八條ニ規定スル土地ト爲リタルトキハ第一號樣式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申告スヘシ

第五條 地稅令第九條ノ規定ニ依リ地稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ第二號樣式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申請スヘシ

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ地稅ノ免除期間ハ被害ノ年ヨリ起算シ十年ヲ超エサル範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第六條 地稅令第九條ノ二第一項ノ規定ニ依リ地價ノ低減ヲ受ケムトスル者ハ第三號樣式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申請スヘシ

前號ノ申請アリタル場合ニ於テ地價ノ低減期間ハ地稅令第九條ノ規定ニ依リ地稅ノ免除期間滿了ノ年ノ翌年ヨリ起算シ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第七條 地稅令第九條ノ二第二項ノ規定ニ依リ地價ヲ低減シタル土地ニシテ其低減期間滿了シ尙原狀ニ復シ難キモノハ第四號樣式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申告スヘシ

第八條 地稅令第十條ノ規定ニ依リ地價ノ據置ヲ受ケムトスル者ハ第五號樣式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申請スヘシ

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ地價ノ據置期間ハ地目變換ノ年ヨリ起算シ十年ヲ超エサル範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第九條 地稅令第十條ノ二又ハ第十條ノ三ノ規定ニ依リ地稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ第六號樣式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申請スヘシ

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ地稅ノ免除期間ハ事業竣工ノ年ヨリ起算シ地稅令第十條ノ二ノ規定ニ該當スル土地ニ在リテハ十年、地稅令第十條ノ三ノ規定ニ該當スル土地ニ在リテハ二十年ヲ超エサル範圍内ニ於テ之ヲ定ムヘシ但シ國カ拂下又ハ讓與シタル土地ニ付テハ其拂下又ハ讓與シタル年ヨリ起算スヘシ

第十條 地稅令第九條、第十條ノ二又ハ第十條ノ三ノ規定ニ依リ地稅ヲ免除シタル場合ニ於テ免除期間中更ニ地稅令第九條ノ規定ニ依リ地稅ヲ免除シタルトキハ前ノ免除ハ再免除アリタルトキヨリ其効力ヲ失フ

第十一條 地稅令第十條ノ規定ニ依リ地價ヲ据置キタル土地カ地價ノ据置期間中地稅ヲ賦課スル他ノ地目ノ土地トナリタルトキハ据置期間ノ滿了ニ至ル迄尙地價ヲ据置クモノトス

地稅令第十條ノ二又ハ第十條ノ三ノ規定ニ依リ地稅ヲ免除シタル土地カ地稅ノ免除期間中地稅ヲ賦課スル他ノ地目ノ土地トナリタルトキハ免除期間ノ滿了ニ至ル迄尙地稅ヲ免除スルモノトス

第十二條 土地臺帳ニ登錄シタル一地番ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ其土地ヲ分割ス

一 地稅ヲ賦課セサル土地カ之ヲ賦課スル地目ノ土地ト爲リタルトキ

二 地稅ヲ賦課スル土地カ之ヲ賦課スル他ノ地目ノ土地ト爲リタルトキ

三 地稅ヲ賦課スル土地カ之ヲ賦課セサル地目ノ土地ト爲リタルトキ

四 地稅ヲ賦課セサル土地カ之ヲ賦課セサル他ノ地目ノ土地ト爲リタルトキ

五 地稅ヲ賦課セサル土地カ海面水面ト爲リタルトキ

六 地稅ノ免除又ハ地價ノ低減若ハ据置ヲ受クルトキ

七 行政區劃ヲ異ニスルニ至リタルトキ

八 所有權ヲ移轉スルトキ

九 實權又ハ二十年以上ノ存續期間ノ定アル地上權ヲ設定スルトキ

十 前各號ノ外土地ノ分割ヲ必要トスルトキ

前項第一號乃至第六號又ハ第八號乃至第十號ニ該當スルトキハ第七號様式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申告スヘシ

第十三條 前條第二項ニ規定スル申告ヲナス爲必要アル場合ニ於テハ第八號様式ニ依リ分割地ノ測量ヲ郡守又ハ島司ニ申告スルコトヲ得

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ分割後ノ一地番毎ニ郡島所在ノ面ニ在リテハ四十錢其ノ他ノ面ニ在リテハ八十錢ノ手數料ヲ納付スヘシ但シ國有地ヲ分割シ又ハ國有ト爲ルヘキ事由ニ因リ土地ヲ分割スルトキハ手數料ノ納付ヲ要セス

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ納付スルコトヲ得

第十四條 前條ノ規定ニ依リ測量ノ申請アリタルトキハ郡守又ハ

島司ハ分割地ノ測量圖ヲ作成シテ之ヲ申請者ニ交付スヘシ

第十五條 土地臺帳ニ登錄シタル二地番以上ノ土地ヲ合併スルトキハ第九號様式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申告スヘシ

左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ハ之ヲ合併スルコトヲ得ス

一 行政區劃ヲ異ニスルモノ

二 地目ヲ異ニスルモノ

三 道路、河川、溝渠等ヲ隔テ土地ノ連續セサルモノ

四 地稅ノ免除又ハ地價ノ低減若ハ据置中ニ在ルモノ

五 所有者、地上權者又ハ地上權ノ存續期間ヲ異ニスルモノ

六 異ナリタル債權ヲ擔保スル質權又ハ典當權ノ目的タルモノ

第十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ第十號様式ニ依リ郡守又ハ島司ニ申告スヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テ國有ノ土地ヲ拂下、交換、讓與シタルトキ若ハ第九條ノ規定ニ依リ地稅ノ免除ヲ申請シタルトキ、第二號ノ場合ニ於テ第九條ノ規定ニ依リ地稅ノ免除ヲ申請シタルトキ又ハ第三號ノ場合ニ於テ第八條ノ規定ニ依リ地價ノ据置ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 地稅ヲ賦課セサル土地カ之ヲ賦課スル地目ノ土地ト爲リタルトキ

二 海面、水面、浮洲等ヲ埋立テ地稅ヲ賦課スル土地ト爲シタルトキ

三 地稅ヲ賦課スル土地カ之ヲ賦課スル他ノ地目ノ土地ト爲リタルトキ

四 地稅ヲ賦課スル土地カ之ヲ賦課セサル地目ノ土地ト爲リタルトキ

五 土地臺帳ニ登錄シタル土地ニシテ地稅ヲ賦課セサルモノカ之ヲ賦課セサル他ノ地目ノ土地ト爲リタルトキ

六 土地臺帳ニ登錄セサル土地ニシテ地稅ヲ賦課セサルモノカ社寺地、墳墓地、公園地、鐵道用地又ハ水道用地ト爲リタルトキ

七 地稅令第八條ノ規定ニ依リ地稅ノ免除ヲ受ケタル場合ニ於テ免除ノ事由止ミタルトキ

第十七條 地稅令第九條ノ規定ニ依リ地稅ヲ免除シタル土地又ハ地稅ヲ賦課セサル土地カ海面、水面ト爲リ其現狀原地ニ復セス又ハ他ノ地目ト爲ル見込ナキトキハ申告ニ依リ其ノ土地ニ關スル土地臺帳ノ登錄ヲ抹消スヘシ

前項ノ申告ハ第十一號様式ニ依ルヘシ

第十八條 第四條乃至第九條及第十六條第七號ノ規定ニ依ル申告申請ハ納稅義務者ヨリ其ノ他ノ申告申請ハ土地所有者ヨリ之ヲ爲スヘシ

前項ニ規定スル申告申請ハ國有ノ土地ニ在リテハ其ノ土地ヲ保管スル官廳ヨリ之ヲ爲スヘシ

第十九條 土地臺帳規則ニ依リテ土地ニ關スル事務ノ取扱ヲ爲ササル地域ヲ管轄スル郡島ニハ其地域内ニ在ル地稅ヲ賦課スル土地ニ付キ地稅臺帳及課稅地見取圖ヲ備フ

第二十條 地稅臺帳ノ抄本ヲ受ケムトスル者ハ一地番ニ付手數料

五錢ヲ添ヘ郡守又ハ島司ニ請求スヘシ
 地稅臺帳ノ抄本第十二號樣式ニ依リ調製スヘシ
 第二十一條 第十二條、第十五條、第十七條及第十八條ノ規定ハ地稅臺帳ニ登錄シタル土地ニ付之ヲ準用ス
 土地臺帳規則第一條第一項、第二條、第三條第二項、第四條第二項乃至第四項、第五條第二項、第六條及第八條ノ規定ハ地稅臺帳、其ノ抄本又ハ課稅地見取圖ニ之ヲ準用ス
 第二十二條 土地ヲ分割シタルトキハ實地ノ狀況ニ依リ分割前地ノ價ヲ各地番ノ土地ニ配分シテ其ノ地價ヲ決定ス
 第二十三條 地稅ハ各納稅義務者ニ付同一面内ニ於ケル地價ヲ合第一號樣式(用紙美濃紙)

公用地成(公共用地成) 地稅免除申告書

計シタルモノニ稅率ヲ乘シ之ヲ算出ス
 第二十四條 面ハ地稅ノ納期毎ニ其開始前二十日迄ニ地價及地稅ノ總額並其ノ各納期ニ於ケル納額ヲ郡守又ハ島司ニ報告スヘシ前項ニ依リ報告ヲ爲シタル日ヨリ納期開始迄ニ地價及地稅ノ總額又ハ納額ニ異動ヲ生シタルトキハ面ハ其ノ額ヲ郡守又ハ島司ニ報告スヘシ
 第二十五條 本令ニ規定スル申告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ科料 處ス
 附則
 本令ハ發行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

土地所在	地番	地目	種目	地積	地價	公用地成(公共用地成)	摘要
面	町里洞					年月日	
何	何	三	堡	面事務 所敷地	千 二五〇	大正何年何月何日	

右申告候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

何郡(島)何面長 何 某印

備考

- 一 本申告書ハ土地所在ノ面毎ニ之ヲ調製スヘシ
- 二 種目欄ニハ面事務所敷地、何道地方費種苗場用地等其用途ヲ掲記スヘシ

第二號樣式(用紙美濃紙)

荒地成地稅免除申請書

土地所在	地番	地目	地積	地價	被害年月日	被害狀況	免稅期間	摘要
面	町里洞							
何	何	五	畝	千 六三五	大正何年何月何日	土砂入三尺	自大正何年何年 至大正何年何年	
何	何	三〇	畝	千 二五五	大正何年何月何日	河川(海成) (湖成)	自大正何年何年 至大正何年何年	

右申請候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

何郡(島)何面長 何 某印

備考

一 第一號樣式備考第一號及三號乃至第五號ハ本樣式ニ之ヲ

第三號樣式(用紙美濃紙)

地價低減申請書

準用ス

二 被害狀況ハ作土流失、湖水浸入、土砂入、石砂入、押掘山崩、川缺、河川成、海成、湖成等ニ區分掲記スヘシ

土地所在 面 町里洞	地番 地目	地積 千坪	地價 千圓	低減地價 千圓	修正地價 千圓	地價低減期 間満了ノ年	土地狀況	地價低減期間	摘 要
何 何	五 畝	六三五	一七〇〇	五二五	四〇〇	大正何年 何月何日	大正何年 大正何年 收益四割五分ニ減少 自大正何年何年 至大正何年何年		

右申請候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

備考

一 第一號樣式備考第一號、第四號及第五號ハ本樣式ニ之ヲ準用ス

二 低減地價ハ申請者ニ於テ掲記ヲ要セス

何郡(島)何面長 何 某印

第四號樣式(用紙美濃紙)

地價低減地地價修正申告書

土地所在 面 町里洞	地番 地目	地積 千坪	地價 千圓	低減地價 千圓	修正地價 千圓	地價低減期 間満了ノ年	土地狀況	摘 要
何 何	五 畝	六三五	一七〇〇	五二五	四〇〇	大正何年	收益六割ニ減少	

右申告候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

備考

一 第一號樣式備考第一號、第四號及第五號ハ本樣式ニ之ヲ準用ス

二 修正地價ハ申告者ニ於テ掲記ヲ要セス

第五號樣式(用紙美濃紙)

地價据置申請書

土地所在 面 町里洞	地番 地目	原地目	現地目	地積 千坪	地價 千圓	地價低減期 間満了ノ年	土地狀況	地價低減期間	摘 要
何 何	一六 畝	雜種地	畝	一一八	一〇〇六	大正何年何月何日			

右申請候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(司)宛

何郡(島)何面長 何 某印

備考

第六號様式(用紙美濃紙)

開墾地(埋立地)地稅免除申請書

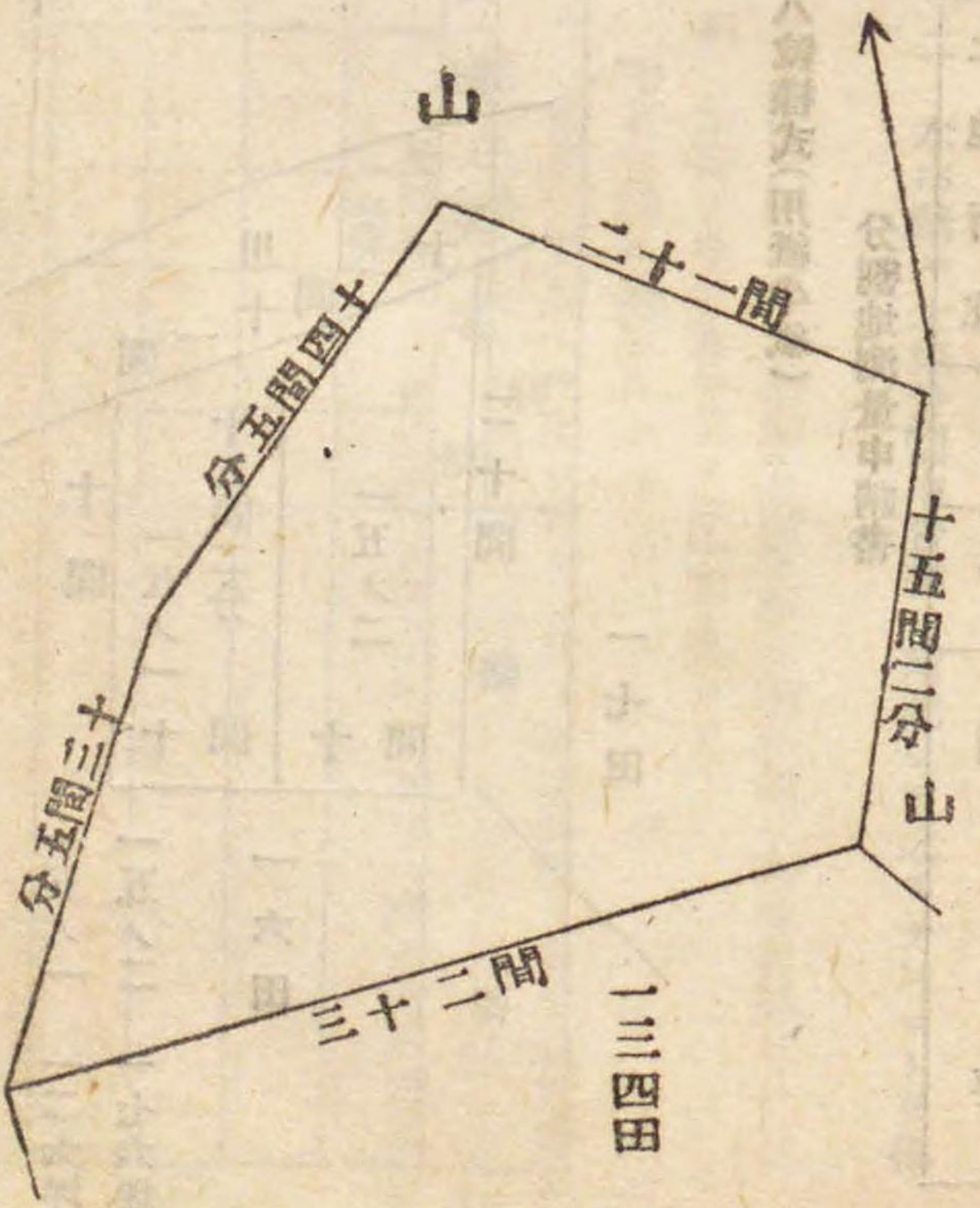
土地所在	地番	原地目	現地目	地積	地價	備考
町里洞	一三四	林野	畚	千坪 五五	円	開墾(埋立)著功 開墾(埋立)年月日 大正何年何月何日 大正何年何月何日至大正何年何年
何	何					地稅免除期間 摘 要

右測量圖及證書類何通添付申請候也
大正何年何月何日

測量圖

何面何町(里洞)一三四番ノ一 五二五坪

縮尺千二百分ノ一(六百分ノ一又ハ二千四百分ノ一)



何郡守(島司)宛 所有者 何 某印
何郡(島)何面長 何 某印

備考

- 第一號様式備考第一號、第四號及第五號ハ本様式ニ準用ス
- 開墾又ハ埋立ニ要シタル勞費及實地ノ狀況等ハ詳細之ヲ摘 要欄ニ掲記スヘシ
- 土地臺帳又ハ地稅臺帳ニ登錄ナキ土地ニ付テハ申請者カ所 有者、質權者、典當權者又ハ地上權者タルコトヲ證スヘキ書 類ヲ證憑トシテ添附スヘシ
- 地價ハ申告者ニ於テ掲記ヲ要セス
- 測量圖ハ左ノ雜形ニ依リ調製スヘシ

土地分割申請書

土地所在	地番	地目	地積	地價	地番	地積	地價	摘 要
町里洞	一五	田	千坪 三〇三	円 三〇三〇	一五ノ一	千坪 二六		

右測量圖添附申告候也
大正何年何月何日

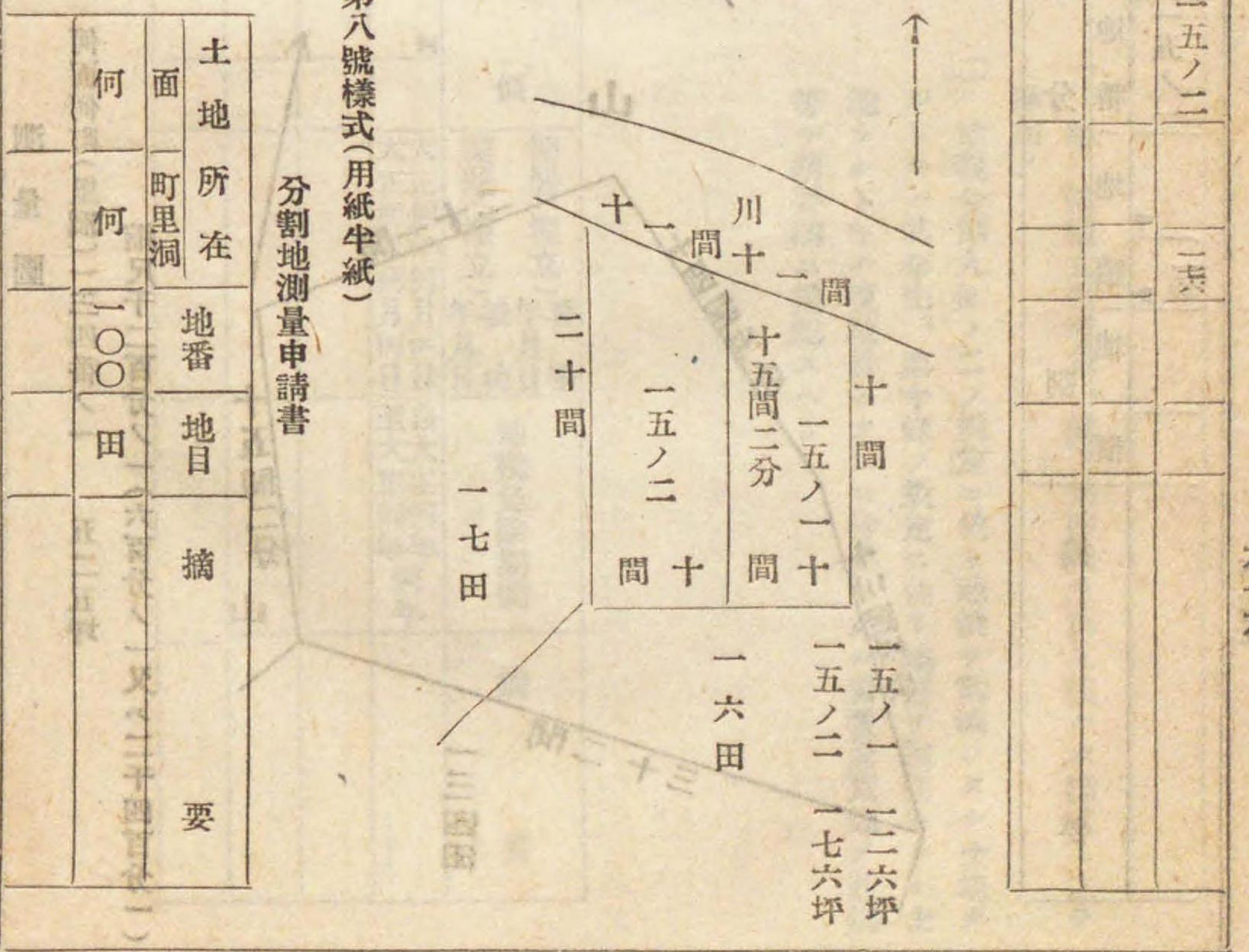
何郡(島)何面何町(里洞)何番地
所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

備考

- 一 第一號樣式備考第一號、第三號、第四號及第五號ハ本樣式ニ準用ス
 - 二 分割地ノ地番及地價ハ申告者ニ於テ掲記ヲ要セス
 - 三 地稅令施行規則第十三條ノ規定ニ依リ分割地ノ測量ヲ申請スルトキハ測量圖ノ添附ヲ要セ
 - 四 測量圖ハ左ノ雛形ニ依リ調製スヘシ
- 測量圖
何面何町(里洞)一五番三〇二坪
縮尺千二百分一(六百分一又ハ二千四百分一)

第八號樣式(用紙半紙)
分割地測量申請書



土地所在面	町里洞	地番	地目	摘	要
何	何	一〇〇	田		

土地所在面	町里洞	地番	地目	積地	地價
何	何	一〇	畓	三六	七三〇
何	何	一一	畓	二〇九	四八〇

右申請候也
大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地
所有者 何 某印

第九號樣式(用紙美濃紙)
土地合併申告書

- 何郡守(島司)宛
備考
- 一 土地分割ヲ要スル事由及分割地番數ハ摘要欄ニ之ヲ掲記スヘシ
 - 二 本申請ハ土地分割申告書ニ附記シテ之ヲナスコトヲ得

土地所在面	町里洞	地番	地目	積地	地價	合併	摘要
何	何	一〇	畓	三六	七三〇	一〇	
何	何	一一	畓	二〇九	四八〇	五九五	

右申告候也
大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地
所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

土木法規 附 錄

- 備考
- 一 第一號樣式備考第一號、第四號及第五號ハ本樣式ニ準用ス
 - 二 合併地價ハ申告者ニ於テ掲記ヲ要セス

第十號樣式ノ一(用紙美濃紙)

課稅地成申告書

土地所在 面 町里洞	地番	原地目	現地目	地積	地價	課稅地成 (課稅地目成) 年月日	摘要
何 何	六四ノ一	林野	畚	千 四 百 六		大正何年何月何日	

右測量圖及證憑書類何通添附申告候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

何郡(島)何面長 何 某印

備考

一 第一號樣式備考第一號、第四號及第五號ハ本樣式ニ準用ス

第十號樣式ノ二(用紙美濃紙)

地目變換申告書

二 土地臺帳又ハ地稅臺帳既登錄地ニ付テハ測量圖及證憑書類ノ添附ヲ要セス

三 開墾、埋立ノ土地ニ付テハ其ノ事業竣功ノ日ヲ課稅地成年月日欄ニ掲記スヘシ

四 地價ハ申告者ニ於テ掲記ヲ要セス

五 測量圖ハ第六號樣式備考第五號雜形ニ準シ調製スヘシ

土地所在 面 町里洞	地番	地積	原 地目地價	現 地目地價	地目變換年月日	摘要
何 何	七	千 五 百 六	田	千 五 百 六	畚	大正何年何月何日

右申告候也

大正何年何月何日

何(郡島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

何郡(島)何面長 何 某印

第十號樣式ノ三(用紙美濃紙)

非課稅地成申告書

土地所在 面 町里洞	地番	原地目	現地目	地積	地價	非課稅地成 (非課稅地目成) 年月日	摘要
何 何	三八	田	道路	千 三 百 〇		大正何年何月何日	

備考

一 第一號樣式備考第一號、第三號、第四號及第五號ハ本樣式ニ準用ス

二 變換地價ハ申告者ニ於テ掲記ヲ要セス

右申告候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

備考

一 第一號樣式備考第一號、第三號、第四號及第五號ハ本樣式ニ準用ス

何郡守(島司)宛

第十號樣式ノ四(用紙美濃紙)

非課稅地目變換申告書

土地(所在)町里洞

地番

原地面積

變換地目

地積

地目變換年月日

摘要

何 何

一〇〇

公園地

墳墓地

大正何年何月何日

右測量圖及證書書類何通添附申告候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

一 第一號樣式備考第一號、第四號、第五號及第六號樣式備考第三號ハ本樣式ニ準用ス
二 土地臺帳既登録地ニ付テハ測量圖及證書書類ノ添附ヲ要セズ
三 測量圖ハ第六號樣式備考第四號雜形ニ準シ調製スヘシ

何郡守(島司)宛

第十號樣式ノ五(用紙美濃紙)

測量圖及證書書類何通添附申告候也

右申告候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

備考

第一號樣式備考第一號、第二號、第四號及第五號ハ本樣式ニ準用ス

何郡守(島司)宛

第十一號樣式(用紙美濃紙)

土地(臺帳抹消)申告書

土地(所在)町里洞

地番

種目

地目

地積

地目變換年月日

摘要

何 何

一三五

面事務

地

大正何年何月何日

備考
第一號樣式備考第一號、第二號、第四號及第五號ハ本樣式ニ準用ス

何郡守(島司)宛

第十一號樣式(用紙美濃紙)

土地(臺帳抹消)申告書

土地(所在)町里洞

地番

地目

積

土地現狀

地稅免除期間

摘要

何 何

五〇

畜

海面

自大正何年何年

至大正何年何年

右申告候也

大正何年何月何日

何郡(島)何面何町(里洞)何番地

所有者 何 某印

何郡守(島司)宛

第十二號様式(用紙美濃紙)

地 稅 臺 帳 抄 本

面	町里洞	地	番地	目	事	故	納 稅 義 務 者
何	何	地	五	田	自	何	住 所 氏 名 又 ハ 名 稱
					大	何	何 町 何 番 戶 何
					正	何	某
					何		
					年		
					何		
					年		
					成		
					地		
					稅		
					免		
					除		

大正何年何月何日

何郡守(島司)宛

○市街地稅令

大正三年三月十六日 府令第四二號

改正 大正七年六月十八日 府令第一〇號

第一條 市街地内ニアル土地ニハ本令ニ依リ市街地稅ヲ賦課ス
前項ノ市街地ハ朝鮮總督之ヲ指定ス

第二條 市街地稅ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ノ千分ノ七ヲ以テ

一年ノ稅額トス

地價ハ時價ヲ標準トシテ之ヲ決定ス

第三條 市街地稅ヲ賦課セサル土地力之ヲ賦課スル土地ト爲リタルトキハ新ニ地價ヲ定ム

市街地稅ヲ賦課スル土地ニシテ堡ヲ堡以外ノ地目ニ變換シ又ハ堡以外ノ地目ヲ堡ニ變換シタルトキハ地價ヲ修正ス

新ニ地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スヘキトキハ類地ニ比準シテ之ヲ決定ス

○市街地稅令施行規則

大正三年四月二十一日 府令第四三號

改正 大正七年八月九日 府令第七九號

第四條 地價ハ十年毎ニ一般ニ之ヲ改正ス

第五條 市街地稅ハ年額ヲ二分シ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 四月一日ヨリ 同月三十日限り

第二期 十月一日ヨリ 同月三十日限り

第六條 地稅令第一條、第二條、第六條及第八條乃至第十三條ノ規定ハ市街地稅ニ之ヲ準用ス

第七條 納稅義務者市街地稅ヲ遺脫シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ土地ノ現狀ニ依リ稅額ヲ定メ遺脫シタル市街地稅ヲ追徵ス但シ自首シタルモノハ刑ヲ免ス

第八條 前條ノ所犯ニ付納稅義務者其ノ情ヲ知ラサル場合ニ於テ土地ノ管理人又ハ借地人ノ行爲ニ基クトキハ其ノ管理人又ハ借地人ヲ前條ノ罰ニ處ス但シ自首シタルモノハ刑ヲ免ス

前項ノ場合ニ於テ市街地稅ハ納稅義務者ヨリ之ヲ追徵ス

附 則

本令ハ大正參年分市街地稅ヨリ之ヲ適用ス

居留地ノ市街地稅ハ大正三年分ニ限リ年額ノ四分ノ三トス

大正三年分ノ市街地稅ノ納期ハ第一期ヲ九月一日ヨリ同月三十日限り第二期ヲ十二月一日ヨリ同月二十八日限リトス

清津土地規則ハ之ヲ廢止ス

○土地臺帳規則

大正三年四月二十五日 府令第四十五號

改正 大正四年五月十日 大正七年七月十七日 府令第五十號 府令第七十五號

第一條 市街地ナル府面ニハ市街地稅名寄帳ヲ備フヘシ

第二條 地稅令施行規則第二條、第四條乃至第十八條及第二十二條乃至第二十四條ノ規定ハ市街地稅ニ之ヲ準用ス

第三條 本令ニ規定スル申告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタルモノハ科料ニ處ス

第四條 地稅令施行規則第六條乃至第十三條第十五條、第二十條乃至第二十三條及第二十五條ノ規定ハ市街地稅ニ之ヲ準用ス

第五條 本令ニ規定スル申告、申請ハ所有者ヨリ土地ノ所在ヲ管轄スル府尹又ハ郡守ニ之ヲ爲スヘシ但シ市街地稅ヲ賦課スル土地ニシテ質權、質ノ性質ヲ有スル典當權又ハ二十年以上ノ存續期間ノ定アル地上權ノ設定アルモノニ付テハ其ノ質權者、典當權者又ハ地上權者ヨリ之ヲ爲スヘシ

第六條 國有ノ土地ニ付本令ニ規定スル申告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ土地ヲ保管スル官廳ヨリ之ヲ爲スヘシ

第七條 本令ニ規定スル申告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ申告、申請ヲ爲シタルモノハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一條 土地臺帳ニハ左ニ掲クル事項ヲ登録ス
 一 土地ノ所在
 二 地番
 三 地目
 四 地積
 五 地價
 六 所有者ノ住所、氏名又ハ名稱
 七 質權、質ノ性質ヲ有スル典當權又ハ二十年以上ノ存續期間ノ定アル地上權ノ設定アル土地ナルトキハ其ノ質權者、典當權者若ハ地上權者ノ住所、氏名又ハ名稱

前項第五號及第七號ノ事項ハ地稅又ハ市街地稅ヲ賦課スル土地ニ限リ之ヲ登録ス

道路、河川、溝渠、堤防、城壕、鐵道線路、水道線路及土地調査ヲ爲ササル林野ハ土地臺帳ニ登録セス但シ既登記ノ土地ニシテ道路、河川、溝渠、堤防、城壕、鐵道線路又ハ水道線路ト爲リタルモノハ此ノ限ニ在ラス

土地臺帳ハ第一號樣式ニ依ルヘシ

第二條 左ニ掲クル事項ハ登記官吏ノ通知アルニ非サレハ土地臺帳ニ登録セス但シ國有地ノ拂下、交換、讓與又ハ未登記土地ノ收用ニ因リ所有權ノ移轉シタル場合及未登記土地ノ國有ト爲リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 所有權ノ移轉
 二 質權、質ノ性質ヲ有スル典當權又ハ地上權ノ設定、移轉、消滅又ハ地上權ノ存續期間ノ變更
 相續又ハ遺贈ノ場合ニ於テ相續人又ハ受遺者カ未登記土地ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲シタルトキハ保存登記ニ關スル登記官吏ノ通知ニ依リ所有權ノ移轉ヲ登録ス

第三條 府郡島ニハ地籍圖ヲ備フヘシ

地籍圖ニハ土地臺帳ニ登録シタル土地ニ付左ニ掲クル事項ヲ登録ス

一 所在
 二 地番
 三 地目
 四 疆界

第四條 土地臺帳ヲ閱覽シ又ハ土地臺帳若ハ地籍圖ノ謄本ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ左ノ手数料ヲ添ヘ府尹郡守又ハ島司ニ請求スヘシ

一 土地臺帳ノ閱覽 一冊一回ニ付 五 錢
 二 土地臺帳ノ謄本 由書ニ依リ又ハ一地圖ニ付 五 錢
 三 地籍圖ノ謄本 地圖一圖ニ付 一地圖ニ付三十錢同一圖ニ付二地圖以上ヲ描畫スルトキハ一地圖ヲ増ス

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得
 謄本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス

國方土地臺帳ノ閱覽又ハ土地臺帳若ハ地籍圖ノ謄本ノ交付ヲ請求スルトキハ手数料ノ納付ヲ要セス

第五條 土地臺帳ノ謄本ハ第二號樣式ニ依リ調製スヘシ
 同一人ニシテ二地番以上ノ謄本ヲ請求シタルトキハ同一用紙ニ連記スルコトヲ得但シ請求者ニ於テ每地番各別ノ謄本ヲ請求シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條ノ二 地籍圖ノ謄本ハ第四號樣式ニ依リ調製スヘシ

第六條 土地臺帳ニ登録シタル土地ノ所有者、質權者、典當權者又ハ地上權者其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ變更シタルトキハ第三號樣式ニ依リ直ニ府尹郡守又ハ島司ニ申告スヘシ但シ變更ニ付登記ヲ申請シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 新ニ土地臺帳ニ土地ヲ登録スルトキ又ハ土地臺帳ニ登録シタル土地ヲ分割スルトキハ府尹郡守又ハ島司ハ地積ヲ測量ス

第八條 地積ニ一坪未満ノ端數アルトキハ五合未満ハ切捨テ五合以上ハ一坪ニ切上ケ地積一坪未満ナルトキハ之ヲ合位ニ止メ一合未満ナルトキハ之ヲ一合トス

市街地稅令第一條ニ依リ指定シタル地域内ニ在ル土地ノ地積ハ合位ヲ存シ合位以下ヲ切捨ツ

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(樣式略ス)

○人力車取締規則 大正二年七月二十九日
 警察廳警部令第五號
 改正 大正四年二月五日
 警察廳警部令第一號

第一條 人力車營業ヲ爲サムトスル者ハ本籍、住所、氏名、生年月及營業ノ場所ヲ具シ營業ノ場所所在地ノ警察署長及警察分署長事務ヲ取扱フ憲兵分隊、憲兵ニ願出テ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ事項ニ付變更ヲ生シタルトキハ十日内ニ届出ツヘシ

相續ニ依リ營業ヲ繼承シタルトキハ相續人ハ第一項ノ事項ヲ具シ其ノ旨届出ツヘシ

第二條 人力車ヲ自家用トシテ使用セムトスル者ハ本籍、住所及氏名ヲ具シ所轄警察署長ニ届出ツヘシ其ノ届出事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

第三條 人力車ノ輓子タラムトスル者ハ本籍、住所、氏名及生年月日ヲ具シ警察署長ニ願出テ自ラ警察署警察分署及警察署ノ事務ヲ取扱フ憲兵分隊ニ出頭シ鑑札ヲ受ケヘシ

輓子ニシテ雇主ヲ有スル場合ニハ雇主ハ前項ノ願書ニ連署スヘシ

第四條 輓子ハ滿十八年以上ノ男子ニシテ左ノ各號ニ適合スル者ナルコトヲ要ス

一 身體強壯ニシテ他人ノ嫌疑スヘキ傳染性疾患ナキ者

- 二 營業用人力車ノ轆子ニ在リテハ營業地及其、附近ノ地理ヲ知ル者
- 三 酒癖又ハ暴行ノ癖ナキ者
- 警察署長ハ前項各號ニ適合スル者ト雖營業ニ不適當ノ者ト認メタルトキハ鑑札ヲ下付セサルコトヲ得
- 第五條 人力車ヲ營業用トシテ使用セムトスル者ハ其ノ車體及屬具ニ付豫メ警察署長ニ願出テ検査證ノ下付ヲ受クヘシ
- 第六條 營業用人力車ノ車體及屬具ハ毎年二回警察署長ノ指定シタル日時、場所ニ於テ定期検査ヲ受クヘシ
- 警察署長必要アリト認ムルトキハ前項ノ外臨時検査ヲ行フコトヲ得
- 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日内ニ警察署長ニ願出テ検査證若ハ轆子鑑札ヲ返納スヘシ但シ第三號ニ該當スルトキハ營業者ニ在リテハ相續人、轆子ニ在リテハ雇主ヨリ屈出及返納ノ手續ヲ爲スヘシ
- 一 營業者若ハ轆子廢業シ又ハ三月以上休業シタルトキ
- 二 轆子ニシテ解雇セラレタルトキ
- 三 營業者若ハ轆子死亡シ又ハ行衛不明ト爲リタルトキ
- 四 人力車ヲ他人ニ讓渡シ其ノ他使用ヲ廢止シタルトキ
- 五 營業者ニシテ許可ヲ取消サレ又ハ轆子ニシテ就業ヲ禁止セラレタルトキ
- 検査證若ハ鑑札ヲ亡失、毀損シ又ハ其ノ記載事項ニ變更ヲ生シ

- タルトキハ書換又ハ再下付ヲ願出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ亡失シタルトキヲ除クノ外検査證又ハ鑑札ヲ願書ニ添附スルコトヲ要ス
- 第八條 營業者ハ検査證及第十二條ノ規定ニ依ル乘車賃金標準ヲ車體蹴込ノ正面ニ標示スヘシ
- 第九條 營業用人力車ノ車體及屬具ノ設備ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス但シ特ニ警察署長ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 一人乗ハ横幅内法二尺未満、二人乗人ハ同二尺以上ナルコト
- 二 車體ニハ泥除ヲ備フルコト
- 三 謄引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フルコト但シ夏期ハ日覆母衣ヲ用ウルコトヲ得
- 四 蒲團、膝掛並鑑札番號ヲ記シタル提灯ヲ備フルコト
- 車體及屬具ハ常に清潔ニシテ破損ノ箇所ハ其ノ修理ヲ怠ルヘカラス
- 第十條 轆子就業中ハ他ノ法令ニ規定アルモノノ外左ノ各號ヲ遵守スヘシ
- 一 鑑札ヲ携帶シ警察官、憲兵又ハ乗客ノ請求アリタルトキハ直ニ之ヲ提示スルコト
- 二 濫ニ駐車場以外ニ於テ客待ヲ爲シ路上ニ停立シ若ハ彷徨スヘカラサルコト
- 三 乘車ノ請求アリタルトキハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ム

ヘカラサルコト

- 四 濫ニ乘車ヲ勸誘シ又ハ正當ノ理由ナクシテ乗客ニ對シ途中ニ於テ下車若ハ他車ニ乗換ヲ要求スヘカラサルコト
- 五 乗客力行先ノミヲ示シ其ノ道筋ヲ定メサリシトキハ最近ノ順路ヲ採ルヘキコト
- 六 同業者間ニ於テ乗客ヲ争ヒ又ハ同業者ノ業務ヲ妨クヘカラサルコト
- 七 酩酊シテ就業シ又ハ乗客及公眾ニ對シ粗暴ノ言行ヲ爲スヘカラサルコト
- 八 宿屋、料理屋、飲食店其ノ他ノ營業者ト通謀シテ乗客ヲ誘引シ又ハ乗客ヲ其ノ指示セサル場所ニ送ルヘカラサルコト
- 九 特ニ警察官又ハ憲兵ノ指示アリタル場合若ハ其ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外汚穢物其ノ他車體ヲ汚染シ若ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品又ハ車體外ニ張出スヘキ長大ナル物件ヲ搭載スヘカラサルコト
- 十 乗客ノ舉動不審ト認メタルトキ又ハ遺留品アリテ乗客ニ還付スルコト能ハサルトキハ遲滞ナク最寄警察官又ハ憲兵ニ屈出ツヘキコト
- 十一 傳染病患者ヲ乗載シタルトキハ其ノ下車後消毒其ノ他ノ必要ノ措置ヲ爲スヘキコト
- 十二 雜沓又ハ狹隘ノ場所ヲ通過スルトキハ徐行スヘキコト
- 十三 歩行者、牛馬、諸車ヲ追越サムトスルトキハ合圖ヲ爲ス

ヘキコト

- 十四 濫ニ諸車ト並行シ又ハ疾驅スヘカラサルコト
- 十五 軌道ニ依ル諸車ノ行進ニ對シテハ軌道外ニ之ヲ避ケ其ノ軌道ヲ横切ラムトスルトキハ通過ヲ待チテ行進スヘキコト
- 十六 警察官又ハ憲兵ニ於テ舉手其ノ他ノ方法ヲ以テ停車ヲ命シタルトキハ直ニ停車スヘキコト
- 第十一條 人力車ニハ一人乗ニ大人二人以上、二人乗ニ大人三人以上ヲ乗載スヘカラス但シ三年未満ノ者ハ定員外トシテ十年未満ノ者ハ二人ヲ以テ大人一人ト看做ス
- 第十二條 乘車賃金ハ組合ニ於テ若シ組合ノ設ナキ場合ハ營業者ニ於テ其ノ標準ヲ定メ警察署長ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第十三條 營業者又ハ轆子ハ名義ノ如何ヲ問ハズ定額賃金以外ノ金錢ヲ請求シ又ハ請求セシムヘカラス
- 第十四條 駐車場ハ公設及私設ノ二種トス
- 公設駐車場ハ警察署長ノ指定ス
- 私設駐車場ヲ設置セムトスル者ハ警察署長ニ願出テ認可ヲ受クヘシ
- 第十五條 駐車場ニハ警察署長ノ指定ニ基キ第十二條ノ規定ニ依ル乘車賃金表ヲ揭示スヘシ
- 第十六條 警察署長ノ特ニ指定シタル駐車場ニハ乗客ノ請求ニ應ル爲夜間當番ヲ置クヘシ

命令ヲ要スト認メタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スヘシ

第十一條 營業用人力車輓子ノ服裝ハ土地ノ狀況其ノ他特別ノ事情アルモノヲ除クノ外警務部長又ハ警察署長ニ於テ之ヲ一定スルコトヲ得

第十二條 輓子鑑札、營業用人力車ノ車體檢査證、乘車賃金標準票、營業用人力車ノ提灯又ハ駐車場ノ標木若ハ標札ハ土地ノ狀況其ノ他特別ノ事情アルモノヲ除クノ外概ネ左ノ様式ニ依ルヘシ (様式略ス)

○市場規則

大正三年九月十二日 府令第一三六號

改正 大正九年四月一日 府令第三十八號

第一條 本令ニ於テ市場ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

一 場屋ヲ設ケ又ハ場屋ヲ設ケサルモ區劃シタル地域ニ於テ毎日又ハ定期ニ多數ノ需要者及供給者來集シ貨物ノ賣買交換ヲ行フ場所

二 二十人以上ノ營業者一場屋ニ於テ主トシテ穀物食料品ノ販賣業ヲ行フ場所

三 委託ヲ受ケ競賣ノ方法ニ依リ水産物、蔬菜又ハ果物ノ販賣業ヲ行フ場所

四 毎日又ハ定期ニ營業者集會シ見本又ハ銘柄ニ依リ物品又ハ有價證券ノ賣買取引ヲ行フ場所

第二條 市場ハ公共團體又ハ之ニ準スヘキモノニ非サレハ之ヲ經營スルコトヲ得ス

但シ前條第四號ノ市場ハ會社又ハ當該市場ニ於テ賣買取引ヲ行フ營業者ヲ以テ組織スル組合ニ於テ之ヲ經營スルコトヲ得

第三條 第一條第一號乃至第三號ノ市場ヲ設置セムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ道知事ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

一名 稱

二 位置

三 面積

四 設備

五 開市日又ハ休業日及市場ノ開閉時刻

六 取引スヘキ主ナル貨物ノ種類

七 府面ニ於テ經營スル場合ヲ除クノ外使用料ヲ徵收セムトスルトキハ其ノ率及徵收方法

八 管理方法

九 設置ノ理由

前項ノ願書ニハ市場ノ設備位置及其ノ附近ノ狀況ヲ記載シタル圖面ヲ添附スヘシ

第三條ノ二 第一條第四號ノ市場ヲ設置セムトスルトキハ會社ニ在リテハ發起人、組合ニ在リテハ組合員前條各號ノ事項ヲ記載シタル願書ニ左ノ書類ヲ添附シ朝鮮總督ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

一 定額又ハ組合契約

二 市場ニ於ケル賣買取引ニ關スル規程

三 發起人又ハ組合員ノ氏名、商號、年齢、住所、營業所、職業

第四條 市場ヲ開始シタルトキハ遲滞ナク之ヲ第一條第一號乃至第三號ノ市場ニ在リテハ道知事、第一條第四號ノ市場ニ在リテハ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第一條第三號又ハ第四號ノ市場ニシテ休業日以外ノ休業ヲ爲シタルトキ、其ノ他ノ市場ニシテ一月以上ニ互ル休業ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條 第三條第一項第一號乃至第八號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ第一條第一號乃至第三號ノ市場ニ在リテハ道知事、第一條第四號ノ市場ニ在リテハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 市場ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第一條第一號乃至第三號ノ市場ニ在リテハ道知事、第一條第四號ノ市場ニ在リテハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 道知事ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條第一號乃至第三號ノ市場ニ對シ許可ヲ取消シ又ハ市場ノ移轉其ノ他適當ノ措置ヲ命スルコトヲ得

第七條ノ二 第一條第四號ノ市場ニ於テハ其ノ市場ヲ經營スル組合ノ組合員又ハ仲買人ニ非サレハ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

仲買人タラムトスル者ハ商號、氏名、年齢、住所及營業所ヲ記

載シタル書面、履歷書及資産調書及市場經營者ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附シ朝鮮總督ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

組合員脫退シ又ハ氏名、商號、住所若ハ營業所ヲ變更シタルトキハ組合ハ遲滞ナク朝鮮總督ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ仲買人死亡若ハ廢業シ又ハ氏名、商號、住所若ハ營業所ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第七條ノ三 朝鮮總督ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條第四號ノ市場ニ對シ許可ヲ取消シ定款、組合契約若ハ賣買取引ニ關スル規定ノ變更ヲ命シ又ハ組合員若ハ仲買人ニ對シ營業ノ禁止若ハ停止其ノ他適當ノ措置ヲ命スルコトヲ得

第八條 委託ヲ受ケ競賣ノ方法ニ依リ水産物、蔬菜又ハ果物ヲ販賣スル營業ヲ爲サムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ニ市場經營者ノ同意ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附シ道知事ニ提出シ許可ヲ受クヘシ

一 商號、氏名

二 資本金額

三 營業期間

四 營業規程

五 營業所ノ位置

六 貨物ノ種類

七 一年間ノ販賣見込數量及金額

八 一年間ノ損益見込計算

營業者其ノ營業上必要ナル設備ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ設備ヲ記載シタル書面及圖面ヲ前項ノ願書ニ添附スヘシ

第九條 前條ノ營業規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 貨物ノ保管及販賣ノ方法ニ關スル事項
- 二 仲買人ヲ置ケトキハ其ノ資格及加入脱退ニ關スル事項
- 三 販賣手数料ノ率及取立方法、委託者ニ對スル代金支拂方法其ノ他委託ニ關スル事項
- 四 營業時間及休業日ニ關スル事項
- 五 前各號ノ外營業ニ關シ必要ナル事項

第十條 第八條第一項第三號ノ營業期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得ス但シ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第十一條 第八條ニ依リ許可ヲ受ケタル營業ハ相續ニ依リ之ヲ繼承スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ遲滞ナク之ヲ通知事ニ届出ツヘシ

第十二條 第八條ノ許可ヲ受ケタル者同條第一項第三號第五號第六號ノ事項、同條第二項ノ設備又ハ營業規程ヲ變更セムトスルトキハ通知事ノ許可ヲ受ケヘシ

第十三條 第八條ノ許可ヲ受ケタル者ハ正當ノ事由アル場合ヲ除ケノ外休日以外ニ其ノ營業ヲ休止スルコトヲ得ス

第十四條 第八條ノ許可ヲ受ケタル者ハ營業規程ニ依ル場合ヲ除

ケノ外其ノ營業貨物ノ販賣委託ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 第八條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ營業ヲ開始シ廢止シ又ハ休業日以外ニ休止シタルトキハ遲滞ナク之ヲ通知事ニ届出ツヘシ但シ營業休止ノ場合ハ其ノ事由ヲ願書ニ記載スヘシ

營業者死亡シタルトキ又ハ解散ニ依リ營業ヲ廢止シタルトキハ相續人又ハ清算人ヨリ遲滞ナク之ヲ通知事ニ届出ツヘシ

第十六條 通知事又ハ警察署長必要アリト認ムルトキハ第八條ノ許可ヲ受ケタル者ヲシテ營業ノ狀況及出納計算ノ報告ヲ爲サシメ又ハ之ニ關スル書類帳簿ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十七條 第八條ノ許可ヲ受ケタル者許可ヲ受ケタル日ヨリ六月内ニ營業ヲ開始セス又ハ營業休止一日ヲ超ユルトキハ通知事ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十八條 警察官必要アリト認ムルトキハ市場ニ於テ營業ヲ爲ス者又ハ市場ニ入ル者ニ對シ公安交通又ハ衛生ノ取締ニ關シ臨時必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 許可ヲ受ケスシテ市場ヲ設置シタルトキ
- 二 組合員又ハ仲買人ニ非サル者第一條第四號ノ市場ニ於

テ賣買取引ヲ爲シタルトキ又ハ不實ノ申告ヲ爲シ第七條ノ二

- 二 許可ヲ受ケスシテ第八條ニ規定スル營業ヲ爲シ又ハ不實ノ申告ヲ爲シテ第八條ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 三 第八條ノ許可ヲ受ケタル營業者營業所トシテ許可ヲ受ケタル市場外ニ於テ其ノ營業ヲ爲シタルトキ
- 四 第十三條第十四條ノ規定又ハ第七條ノ三若ハ第十七條ノ命令ニ違反シタルトキ

第二十條 第八條ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス

- 一 第十二條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ不實ノ申告ヲ爲シ第十條第一項ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 二 許可ノ條件又ハ營業規程ニ違反シタルトキ
- 三 第十六條ニ規定スル検査ヲ拒ミ營業ノ狀況若ハ出納計算ノ報告ヲ爲サス又ハ報告ニ不實ノ記載ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ
- 四 營業ニ關スル書類帳簿ニ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ故意ニ必要ノ事項ヲ記載セサルトキ

第二十一條 第十八條ニ依リ警察官ノ命令ニ違反シタル者ハ拘留又ハ料料ニ處ス

第二十二條 第七條ノ二第三項、第四項、第十一條、第十二條第二項又ハ第十五條ニ規定スル届出ヲ怠リタル者ハ料料ニ處ス

第二十三條 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ規定スル罪ヲ犯シタルトキハ其ノ罰則ヲ法人ニ適用ス

法人ヲ處罰スヘキ場合ニ於テハ法人ノ代表者ヲ以テ被告人トス

第二十四條 第一條第四號ノ市場ヲ經營スル組合員、仲買人又ハ第八條ニ規定スル營業者ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ規定シタル罪ヲ犯シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス

第二十四條ノ二 第一條第四號ノ市場ニ關スル規定ハ會社組織ノ取引所ニハ之ヲ適用セス

附 則

第二十五條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 大正三年九月府令第一三六號附則

第二十六條 委託ヲ受ケ競賣ノ方法ニ依リ水産物ヲ販賣スル市場ハ當分ノ内公共團體又ハ之ニ準スヘキモノ以外ノ者ニ對シ五年以内ノ期限ヲ附シ其ノ設置ヲ許可スルコトヲ得

第二十七條 本令施行ノ際現ニ存在スル市場ニシテ會社又ハ個人ノ經營ニ屬セサルモノハ道長官ノ指定スル公共團體又ハ之ニ準スヘキモノニ於テ設置シタルモノト看做ス

第二十八條 本令施行ノ際現ニ會社又ハ個人ニ於テ經營スル市場ハ引續キ之ヲ經營スルコトヲ得

前項ノ市場ニハ第四條第三項、第五條乃至第七條ノ規定ヲ準用ス

第二十九條 第二十六條ノ市場經營者及前條ノ市場ヲ經營スル會社又ハ個人ニハ第十一條、第十三條、第十五條第二項、第十六條ノ規定ヲ準用ス

前項ニ依リ準用シタル規定ニ關スル本令ノ罰則ハ前項ノ市場經營者ニ之ヲ準用ス

第三十條 不實ノ申告ヲ爲シ第二十六條ノ市場ノ許可ヲ受ケタル者又ハ市場ヲ經營スル會社又ハ個人ニシテ第七條ノ命令ニ違反シタルトキハ一年以下ノ懲役禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス市場ヲ經營スル會社又ハ個人ニシテ許可ノ條件ニ違反シタルトキ、第五條若ハ第六條ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ不實ノ申告ヲ爲シ第五條ノ許可ヲ受ケタルトキハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

市場ヲ經營スル會社又ハ個人ニシテ第四條ノ届出ヲ怠リタルトキハ科料ニ處ス

第三十一條 本令施行前許可ヲ受ケ現ニ第八條ニ規定スル營業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十二條 第二十八條ノ市場又ハ前條ノ營業ニ付期間ノ定ナキモノハ其ノ期間ヲ本令施行ノ日ヨリ十年トシ其ノ期間ノ定アルモノハ其ノ期間之ヲ存續スルコトヲ得

第三十三條 第二十七條及第二十八條ノ市場經營者ハ第三條ニ掲ケタル事項第三十一條ノ營業者ハ第八條ニ掲ケタル事項ヲ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ道長官ニ届出ツヘシ

第二十七條及第二十八條ノ市場經營者ニシテ其ノ市場ニ付許可ヲ受ケタル者又ハ第三十一條ノ營業者ハ許可ノ官廳許可年月日及期間ヲ前項ノ届出ト同時ニ道長官ニ届出ツヘシ

前二項ノ届出ヲ怠リタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス 大正九年四月府令 第三八號附則
本令施行ノ際現ニ第一條第四號ノ市場ヲ經營スル者及其ノ仲買人ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ本令ニ依リ許可ヲ受ケヘシ
前項ニ依リ許可ヲ願出テタル者ハ其ノ許否法定スル迄従前ノ例ニ依リ事業ヲ繼續スルコトヲ得
本令施行前會社令ニ依リ許可ヲ受ケ第一條第四號ノ市場ヲ經營スル會社ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

重要物産同業組合ノ市場經營ニ關スル件

大正五年七月六日 官廳第一〇八號

政務總監

各道長官(江原道)宛
朝鮮重要物産同業組合令ニ依リ設立シタル同業組合ハ公共團體ニ準スルモノトシテ市場ヲ經營シ得ルヤ否ニ付江原道長官ヨリ何出ノ次第有之候處大正三年十月農祕第四十三號ヲ以テ及通牒置使通市場ノ經營ハ府又ハ面ニ限ルコトトシ同業組合ニハ市場ヲ經營セシメサルコトニ決定相成候條及通牒候也

朝鮮輕便鐵道令

明治四十五年六月十五日 勅令第二五號

(大正九年六月十八日) 勅令第八號ヲ以テ廢止

第一條 本令ハ一般運送ノ用ニ供スル官設及私設ノ輕便鐵道ニ之ヲ適用ス

第二條 私設ノ輕便鐵道ヲ敷設セムトスル者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定シタル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 國有又ハ公有ノ道路又ハ橋梁ヲ取壊メ又ハ變更シタルトキハ其ノ部分ハ無償ニテ國又ハ公共團體ノ所有ニ歸ス

第五條 行政官廳又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ輕便鐵道ヲ横斷シ又ハ之ニ接続シテ道路、橋梁、溝渠、運河、水道、鐵道、輕便鐵道又ハ軌道ヲ設クルトキハ輕便鐵道ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ横斷又ハ接続ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用セシメ又ハ之ヲ撤去若ハ變更セシムルコトヲ得

第六條 前條ノ場合ニ於テ輕便鐵道ノ設備ノ共用、撤去又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ申請ニ因リ朝鮮總督之ヲ裁定ス

第七條 國又ハ公共團體ニ於テ公益ノ爲私設ノ輕便鐵道及其ノ經營

業上必要ナル物件ノ全部又ハ一部ノ買收ヲ爲サムトスルトキハ輕便鐵道ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 輕便鐵道ノ業務ヲ營ム株式會社ニ在リテハ株金ノ第一回拂込金額ヲ株金ノ十分ノ一迄下スコトヲ得但シ兼業トシテ輕便鐵道ヲ敷設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 朝鮮總督ハ私設ノ輕便鐵道ノ設備並運輸及保線ノ方法ニ關シ公益上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十條 私設ノ輕便鐵道ニ屬スル重要ナル物件ヲ讓渡シ、貸附シ又ハ擔保ニ供セムトスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ本令ニ依リ許可又ハ認可ニ條件ヲ付スルコトヲ得

第十二條 輕便鐵道方法令ノ規定、法令ニ基キテ爲ス命令又ハ許可若ハ認可ニ付シタル條件ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 役員又ハ使用人ヲ解任スルコト

二 輕便鐵道ノ計算ニ於テ他人ヲシテ運輸ヲ爲サシムルコト

三 業務ノ停止ヲ命スルコト

四 許可又ハ認可ノ全部又ハ一部ヲ取消スコト

前項ノ規定ニ依リ解任セラレタル者ハ再任セララルコトヲ得ス
第十三條 左ノ場合ニ於テハ第二條ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
一 指定期間内ニ工事施行認可ノ申請ヲ爲ササルトキ
二 指定期間内ニ工事ニ著手セサルトキ

第十四條 不實ノ申告ヲ爲シテ第二條ノ許可又ハ第三條ノ認可ヲ受ケタルトキハ朝鮮總督ハ之ヲ取消スコトヲ得

第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 本令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可若ハ認可ヲ受ケスシテ爲シ又ハ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者

二 不實ノ申告ヲ爲シテ許可又ハ認可ヲ受ケタル者

三 第五條第一項ノ規定又ハ第五條第二項若ハ第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第十二條第一項第三號若ハ第四號ノ處分ニ違反シテ業務ヲ爲シ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シテ役員若ハ使用人ヲ再任シタル者

第十六條 朝鮮總督ハ輕便鐵道ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道船舶郵便法ニ依ラシムルコトヲ得

第十七條 一般運送ノ用ニ供スル爲公共道路上ニ敷設スル軌道ニ付テハ本令ヲ準用ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○鐵道局官制廢止ニ伴フ諸願屆等ノ宛

名ニ關スル件

大正六年九月八日
官通號第五百五十八號

鐵道局長

各道長官、警務部長宛

大正六年七月朝鮮總督府鐵道局官制廢止ノ結果朝鮮輕便鐵道及軌道ニ關スル諸法令中從來ノ「鐵道局長官」ト規定セラレアルモノハ自然「朝鮮總督」ト相成候義ニ付經營者ヨリ提出スル認可申請書、屆書等ニ記スヘキ宛名ハ右ニ取計フ様可然御通達相成度此段及通牒候也

○朝鮮輕便鐵道令施行規則

明治四十五年六月十五日
府令第一七號
改正 大正七年五月三日 大正八年七月九日
府令第四二號 府令第一二四號

第一條 輕便鐵道又ハ軌道敷設ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一 起業目論見書

二 線路豫測圖

三 敷設費用概算書

四 運送營業上ノ收支概算書

五 組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本

六 既設ノ會社又ハ會社令第二條ノ許可ヲ受ケタル朝鮮外ノ會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本

七 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議議書

第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 輕便鐵道又ハ軌道ノ名稱及主タル事務所設置地

三 事業資金ノ總額及其ノ出資ノ方法

四 線路ノ起點、終點及其ノ經過スヘキ地名及輕便鐵道ノ一部ヲ道路ニ敷設セムトスル者ニアリテハ其ノ必要ナル事由及區間

五 輕便鐵道又ハ軌道種類、軌間及線路ノ間隔

六 單線、複線ノ區別

七 營業開始豫定期日及營業期間

第三條 線路豫測圖ハ縮尺五萬分ノ一以上トシ線路及其ノ附近ノ地勢並停車場ノ位置及名稱ヲ記載シ距離ハ一哩毎ニ記入スヘシ

第四條 敷設費用ノ概算書ハ第一號様式ニ依リ其ノ總額及內譯各項毎ニ金額ヲ記載シ且線路哩數ヲ掲クヘシ

第五條 運送營業上ノ收支概算書ハ第二號様式ニ依リ收入及支出總額並其ノ內譯ヲ示シ且資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第六條 輕便鐵道又ハ軌道敷設ノ許可申請中許可申請者其ノ氏名又ハ住所ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

申請者中死亡シタル者アルトキハ他ノ申請者ヨリ、既設ノ會社ニシテ解散シタルトキハ清算人ヨリ遲滯ナク其旨ヲ届出ツヘシ

第七條 輕便鐵道又ハ軌道敷設ノ許可ヲ受ケタル後起業目論見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ理由ヲ附シテ許可ヲ受ケヘシ

第八條 輕便鐵道又ハ軌道ノ工事ノ認可ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

一 線路實測圖

二 工事方法書

三 工事豫算書

第九條 線路實測圖ハ左ノ二種トス

一 平面圖

縮尺ハ一吋三十鎖以上トシ線路ノ左右各十鎖以内ノ地勢其ノ他附近ノ市街、村落、社寺、名所、舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣、要塞地等ヲ示シ道、府、郡、面ノ境界及磁針方位ヲ記入スヘシ

線路中心線ノ距離ハ半哩毎ニ記入シ曲線ノ半徑及交角停車場、停留場、聯絡所、信號所ノ名稱、哩程並隧道、橋梁ノ名稱及位置ヲ示スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ平面圖下同ニシ高チ一吋百五十呎以上トシ中心線及施工基面ノ高低、築堤ノ高並切取ノ深チ十鎖毎ニ記入シ隧道、橋梁ノ長、桁ノ種類、筒數、停車場、停留場、聯絡所、信號所ノ名稱、哩程並重要ナル道路、踏切ノ位置及線路勾配ヲ詳記スヘシ線路力他ノ鐵道、軌道又ハ輕便鐵道ヲ橫斷シ若ハ之ニ接續又ハ接近スルトキハ前後各半哩間ノ中心線及高低ノ關係ヲ明ニスヘシ線路力市街地其ノ他重要ナル地點ヲ通過シ又ハ之ニ接近スルトキハ別ニ明細圖ヲ添附スヘシ

第十條 工事方法書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 單線、複線ノ區別
- 二 軌間及線路ノ間隔
- 三 車輛定規(圖面添附)
- 四 輕便鐵道ニ在リテハ別ニ建築定規(圖面添附)
- 五 曲線ノ最小半徑
- 六 線路ノ最急勾配
- 七 施工基面ノ幅、築堤及切取斜面ノ勾配並用地ノ幅(圖面添附)
- 八 道路、河川ノ變更及踏切道ノ設計(圖面添附)
- 九 橋梁ノ臺脚及基礎ノ施工方法、桁及拱ノ材質、構造及所定最大活重並桁各部ノ最大應力(圖面添附)
- 十 在來橋梁ノ改築ヲ要スルトキハ其ノ設計(圖面添附)
- 十一 隧道ノ各種地質ニ應スル施工断面、坑門及排水渠ノ構造(圖面添附)
- 十二 軌條及附屬品ノ材質形狀及重要ノ枕木ノ寸法及敷設間隔並轉轍器及轍叉ノ構造(圖面添附)
- 十三 停車場ニ於ケル諸建物及側線ノ配置(圖面添附)
- 十四 待避線アルモノハ其ノ配置(圖面添附)
- 十五 蒸氣ヲ動力トナル機關車ニ在リテハ
- 十六 輻數、形狀及主要寸法(圖面添附)
- 十七 汽筒ノ直徑及衝程、汽罐ノ傳熱面、爐面ノ大及實用最高汽壓各車輛一對ノ負擔重量並水槽及燃料櫃ノ容量

- 汽罐及其ノ附屬品、機械部、車臺、ボギー、車輪、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝等各裝置ノ構造(圖面添附)
- 十三 瓦斯其ノ他ヲ動力トスル機關車ニ在リテハ前號ニ準ス
- 十四 客車、其ノ他ノ車輛ニ在リテハ
- 十五 輻數、形狀及主要寸法(圖面添附)
- 十六 定員、積載量、容量及自重
- 十七 車體及附屬品、車臺、ボギー、車輪、車軸、擔彈機及制動、牽引、緩衝等各裝置ノ構造(圖面添附)
- 十八 他ノ鐵道、輕便鐵道又ハ軌道トノ交叉方法
- 十九 前各號ノ外特種ノ設計ニ依リ施設スヘキ施工方法
- 二十 第一 工事施行ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テ停車場、橋梁、車輛ニ關スル設計ヲ確定スルコト能ハサルトキハ其ノ理由ヲ具シ大體ノ設計ヲ定メテ之ヲ認可ヲ受ケルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ更ニ詳細ナル設計ヲ定メ認可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 二十一 第十二條 工費豫算書ハ第三號様式ニ依リ調製スヘシ
- 二十二 工費豫算總額ヲ變更スルトキハ前項ノ様式ニ依リ新舊ヲ對照シ理由ヲ附シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ
- 二十三 第十三條 工事方法ヲ變更セムトスルトキハ新舊事項ヲ對照シ理由ヲ附シ認可ヲ受ケヘシ
- 二十四 第十四條 認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於テ左ノ變更ヲ爲シタルトキハ理由ヲ具シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ
- 二十五 一 踏切道、道路又ハ河川附替工事ノ伸縮増減

- 二十六 二 橋梁及隧道ノ伸縮増減
- 二十七 三 停車場ニ於ケル諸建造物又ハ側線ノ伸縮増減
- 二十八 四 車輛ノ増加
- 二十九 五 車輛ノ改造
- 三十 第十五條 線路ヲ變更シ又ハ停車場、停留場、聯絡所、信號所ヲ新設、廢止シ若ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ理由ヲ具シ認可ヲ受ケヘシ但シ線路又ハ停車場、停留場、聯絡所、信號所ノ位置ヲ變更セムトスル場合ニ在リテハ新舊對照圖面ヲ添附スヘシ
- 三十一 左記各號ニ該當スルモノハ前項ノ書類及圖面ヲ添附シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ
- 三十二 一 線路中心線ノ異動ヲ實測平面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ左右各五鎖以内ニ在ルトキ
- 三十三 二 施工基面高低ノ變更ヲ實測断面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ六呎以内ニ在ルトキ
- 三十四 線路ノ變更方重要ナル道路、河川、港灣又ハ著名ノ建造物所在地ニ關係ヲ有スルトキ又ハ家屋其ノ他ノ建造物、河川若ハ道路トノ關係ニ異動ヲ生シ街衢狀態ヲ變スルトキハ前項ノ規定ニ該當スル場合ト雖認可ヲ受ケルコトヲ要ス
- 三十五 停車場、停留場、聯絡所及信號所ノ名稱ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ
- 三十六 第十六條 工事ニ著手シタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ竣功

- 三十七 場合亦同シ
- 三十八 第十七條 輕便鐵道又ハ軌道方運輸ヲ開始セムトスルトキハ認可ヲ受ケヘシ
- 三十九 朝鮮總督ハ運輸開始ノ認可前ニ於テ六十日ヲ限リ假ニ運輸ノ認可ヲ爲スコトヲ得
- 四十 第十八條 運輸開始後線路内ニ假設工事ヲ施行シタルトキハ其ノ理由、工事方法及使用期間ヲ記載シ圖面ヲ添附シ其ノ都度之ヲ届出ツヘシ
- 四十一 第十九條 私設ノ輕便鐵道又ハ軌道ノ乗客、荷物ノ運賃、運轉度數、營業時間及列車發着時刻ハ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 四十二 朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ變更ヲ命スルコトアルヘシ
- 四十三 第二十條 輕便鐵道又ハ軌道ハ許可ヲ受ケルニ非サレハ全部若ハ一部ノ營業ヲ廢止シ又ハ營業ヲ休止スルコトヲ得ス
- 四十四 第二十一條 監督官廳ハ何時ニテモ所屬官吏ニ命シ輕便鐵道又ハ軌道ノ事業經營ノ實況ヲ検査セシムルコトヲ得
- 四十五 第二十二條 私設ノ輕便鐵道又ハ軌道ノ事故ハ之ヲ届出ツヘシ
- 四十六 前項ノ場合ニ於テハ同時ニ事故發生地ヲ管轄スル警務部長ニ届出ツヘシ
- 四十七 第二十三條 輕便鐵道又ハ軌道ハ毎年決算期又ハ六月及十二月ノ現在ヲ以テ一月内ニ營業報告書ヲ提出スヘシ

第二十四條 輕便鐵道又ハ軌道ハ鐵道臺帳ヲ調製シ之ヲ備置クヘシ

第二十五條 輕便鐵道又ハ軌道ハ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ提出スヘシ

第二十六條 會社ニ於テ會社又ハ商業ニ關スル登記ヲ爲シタルトキ又ハ定款ヲ變更シタルトキハ其ノ都度之ヲ提出スヘシ

第二十七條 私設ノ輕便鐵道又ハ軌道、他ノ鐵道、輕便鐵道又ハ軌道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ストキハ左ノ事項ヲ記載シ契約書ノ謄本ヲ添附シ實施後遲滞ナク之ヲ届出ツヘシ

- 一 連帶驛名
- 二 乘客及荷物取扱方法
- 三 運賃割賦方法
- 四 共用停車場、倉庫等ニ關スル使用料及其ノ他ノ事項
- 五 線路及車輛ノ使用料並遲滞料等ニ關スル事項
- 六 運輸上責任負擔方法
- 七 運輸開始ノ年月日

第二十八條 第一條、第七條、第八條及第十一條ノ許可又ハ認可申請書ハ主タル事務所ノ所在地又ハ之ヲ設置セムトスル地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ第十五條中停車場ノ新設、廢止又ハ其ノ位置ノ變更ニ關スル認可申請書亦同シ

前項ノ場合ヲ除クノ外朝鮮輕便鐵道令及本令ニ依リ朝鮮總督ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要セス

第二十九條 地方長官ハ警務部長ニ商議シ前條第一項ノ申請書ニ意見ヲ附シテ進達スヘシ但シ事業力他ノ管内ニ亘ルトキハ同時ニ關係地方長官ニ商議スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テ關係地方長官ハ警務部長ニ商議シ意見書ヲ調製スヘシ

第三十條 警務部長ハ輕便鐵道又ハ軌道ニ關シ交通警察上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第三十一條 不實ノ申告ヲ爲シテ本令ニ依ル許可又ハ認可ヲ受ケタルトキハ之ヲ取消スコトアルヘシ

第三十二條 輕便鐵道又ハ軌道敷設ノ許可カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ遲滞ナク許可狀ヲ返納スヘシ

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 本令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可若ハ認可ヲ受ケスシテ爲シ又ハ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者
- 二 不實ノ申告ヲ爲シテ許可又ハ認可ヲ受ケタル者
- 三 第十九條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 鐵道臺帳ヲ備置カス又ハ之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不實ノ記載ヲ爲シタル者

二 本令ニ依ル營業報告、鐵道統計、事故其ノ他ノ届出及報告

朝鮮輕便鐵道令施行規則附屬第一號様式
何何輕便鐵道又ハ(何何軌道)

敷設費用概算書

項		數	量	平均單位	金	高	備	考
測量及監督費	段							
用地費	坪							
土工費	延長呎							
橋梁費	延長呎							
隧道費	哩							
軌道費	哩							
電線路費	哩							
停車場費	箇所							
車輛費								
諸建物費								
發電所費								
.....								
.....								
總計費								
合計	哩					敷設費	
一哩ニ付						營業資金	
							總計	

附 則

チ怠リ又ハ不實ノ届出、報告ヲ爲シタル者

本令ハ朝鮮輕便鐵道令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮輕便鐵道令施行規則中改正ノ件

大正七年五月三日
官廳錄第六八號

政務總監

警務總長、各道長官、各警務部長宛

今般朝鮮輕便鐵道令施行規則中改正相成候處右ハ輕便鐵道ノ敷設許可及工事施行認可ハ主トシテ地方一般ノ行政及經濟ニ關スル事項ナルヲ以テ地方長官ヲ經由宜廳トシ交通警察上必要ナル事項ニ關シ警務部長ニ商議セシムルコトトシ又其ノ以外ノ提出文書ハ多ク地方官廳ト密接ナル關係ヲ有セサル事項ナルヲ以テ直接本府ニ提出セシムルコトニ改メ以テ事務ノ簡捷ヲ圖ラムトスル趣旨ニ有之候間文書經由ノ際若ハ經由ニ關シ協議ヲ受ケタル際ニ於テハ成ルヘク迅速ニ處理相成度此段及通牒候也

輕便鐵道及軌道建設、運輸其他業務

二關スル件

明治十五年六月十五日
府令第一一九號

第一章 總 則

第一條 本令ハ一般運送ノ用ニ供スル官設及私設ノ輕便鐵道及軌道ニ之ヲ適用ス
第二條 特別ノ事由アル場合ニ於テハ許可ヲ受ケ本令ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三章 輕便鐵道

第一節 建設

第三條 輕便鐵道ハ特別ノ場合ヲ除クノ外道路上ニ敷設スルコトヲ得ス
第四條 建築定規ト車輛定規トハ相互間ニ適當ノ間隔ヲ存シテ之ヲ定ムルコトヲ要ス
第五條 軌間ハ特別ノ場合ヲ除クノ外二呎六吋トス
第六條 本線路ニ在ル曲線ノ半徑ハ停車場内其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外二鑽以上トス
第七條 線路ノ勾配ハ特別ノ場合ヲ除クノ外二十五分ノ一ヨリ急ナルニトヲ得ス
第八條 隧道、橋梁其ノ他列車ヲ避ケルニ困難ナル場合ニハ三百呎以内ノ距離ニ待避所ヲ設ケヘシ
第九條 線路ハ停車場ノ聯絡所若ハ相當ノ設備アル信號所ノ外ニ於テ平面交叉ヲ爲スルコトヲ得ス
第十條 停車場、聯絡所及信號所ニハ特別ノ場所ヲ除クノ外電氣通信ノ設備ヲ爲スヘシ
第十一條 閉塞式ヲ施行スル線路ニ於テハ自動閉塞信號ニ依ル場合ヲ除クノ外停車場間ニ在ル閉塞區間ノ境界點ニ信號所ヲ設ケヘシ
第十二條 閉塞區間ノ境界點ニ於ケル停車場(自動閉塞信號ニ依ル場合ヲ除ク)單線ニ於テ列車ノ行違ヲ爲ス停車場並聯絡所及

信號所ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外常置信號機ヲ設ケヘシ
第十三條 乗客多キ停車場ニハ待合所其ノ他相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十四條 線路ニハ左ノ標識ヲ設ケヘシ

- 一 每半哩ノ距離ヲ示ス哩程標
- 二 本線路ニ接続スル側線又ハ支線アル場所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標
- 三 交通頻繁ナル踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標

第十五條 保安上特ニ必要ナル場所ニハ堤塘、柵垣又ハ溝渠ヲ設ケルコトヲ要ス

交通頻繁ニシテ且展望惡シキ踏切道ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スヘシ

第十六條 車輛ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外擔彈機及彈性ノ聯結裝置ヲ爲スヘシ

第十七條 緩急車ニハ他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フヘシ

第十八條 機關車ニハ左ノ裝置ヲ爲スヘシ

- 一 汽笛又ハ警笛ヲ備フルコト
- 二 前後ニ排障器ヲ附スルコト
- 三 他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコト

蒸汽ヲ動力トスル機關車ニハ前項ノ外左ノ裝置ヲ爲スヘシ

一 汽罐ニハ各獨立ニ其ノ用ヲ爲シ得ヘキ二箇以上ノ給水器ヲ備フルコト

二 汽罐内部ノ水位ヲ認知シ得ヘキ二箇以上ノ各獨立セル量水器ヲ備フルコト但シ其ノ一箇ハ機關手ノ位置ヨリ水位ニ直ニ認知シ得ヘキモノニシテ且其ノ汽罐ノ實用最低水位ヲ表示スルモノタルコトヲ要ス

三 二箇以上ノ安全瓣ヲ備フルコト

四 火室ノ頂板ニ可銼栓ヲ備フルコト

五 驗壓器ヲ備フルコト但シ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコトヲ要ス

六 火室ニ在ル繫桿ニハ其ノ頂上ニ在ルモノヲ除クノ外總テ其ノ毀損ヲ外部ヨリ發見シ得ヘキ設備ヲ爲スコト

七 煙筒及灰箱ヨリ火粉ノ放出ヲ防ク設備ヲ爲スコト

第十九條 客車内各室ニハ必要ニ依リ點燈裝置ヲ爲スヘシ

客車ノ側面ニ在ル戸ニハ二戸ノ閉鎖器ヲ備フヘシ

第二十條 輕便鐵道ヲ道路ニ敷設スルトキハ其ノ部分ニ就テハ第七十五條乃至第八十一條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 線路及車輛ハ常ニ運轉上危險ナキ狀態ヲ保持スルコトヲ要ス

第二十二條 特ニ注意ヲ要スル場所ニハ列車運轉中番人ヲ置キ之

線路ハ毎日少クモ一回從事員ナシテ巡視セシムヘシ

ヲ看守セシムヘシ

第二十三條 車輛ハ之ヲ検査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非サレハ使用スルコトヲ得ス

第二十四條 建築定規ノ限界内ニ障礙物ヲ置クコトヲ得ス又其ノ以外ニ在リテモ其ノ限界内ニ崩壞シ來ルノ虞アル物ハ之ヲ置クコトヲ得ス

第二十五條 私設輕便鐵道ノ各停車場間ニ於ケル列車運轉ノ最大速度ハ鐵道局長官ノ認可ヲ受ケヘシ

列車ヲ轉轍器ニ附帶スル曲線ヲ通過スルトキハ其ノ速度一時間六哩ヲ超ユルコトヲ得ス但シ鐵道局長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ本制限ニ依ラシメサルコトヲ得

停車場内ニ於テ車輛ノ入換ヲ爲ストキハ特別ノ場合ヲ除クノ外其ノ速度一時間四哩ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十六條 車輛ハ左ノ條件ヲ具備スルニ非サレハ之ヲ機關車ノ前後ニ聯結シ又ハ機關車ニテ突放シ入換ヲ爲スコトヲ得ス

一 車輛ニ適當ノ制動機ヲ備フルコト
二 經驗アル係員ヲ附スルコト

旅客ノ乗込ミタル列車ニ車輛以上ノ車輛ヲ聯結スルトキ又ハ動物若ハ危險品ヲ積載シタル車輛ヲ入換スルトキハ解放ノ儘之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 停止セル車輛ニハ完全ニ制動ノ手段ヲ施スヘシ
第二十八條 各列車ニハ機關車其炭水車ヲ除キ少クモ二箇以上ノ

制動機ヲ備フヘシ

前項制動機ヲ要スル軸數ハ線路ノ勾配及列車ノ速度ニ依リ該列車力有スル車輛ノ數ニ比例シ之ヲ定ムヘシ但シ私設ノ輕便鐵道ニ在リテハ其ノ軸數ニ付鐵道局長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

制動機ハ列車ヲ組成スルニ當リ成ルヘク平等ニ分配スヘシ
第二十九條 線路ノ勾配力二百分ノ一ヨリ急ナルトキハ列車ノ後部(推進ノ場合ハ前部)ニ在ル車輛ニハ手用制動機ノ裝置アルコトヲ要ス如何ナル場合ニ於テモ後部(推進ノ場合ハ前部)車輛ニハ適當ナル職員ヲ乗込マシムヘシ

第三十條 二車以上ニ跨ル貨物ヲ積載シタル貨車ハ特別ノ裝置ヲ施シタル場合ニ限リ旅客列車ニ聯結スルコトヲ得但シ三車以上ニ跨ルモノハ客車ヨリ二輛以上ヲ隔テ聯結シ其ノ運轉速度ハ之ヲ適當ニ減スヘシ

第三十一條 發火ノ易キ貨物ヲ積載シタル貨車ハ旅客列車ニ聯結スルコトヲ得ス但シ貨物又ハ貨車ニ充分ナル防火ノ施設ヲ爲シタル場合ニ於テ該貨車ヲ客車ヨリ二輛以上隔ツルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 列車ハ停車場又ハ停留場以外ノ場所ニ於テ旅客貨物取扱ノ爲メ停車スルコトヲ得ス

第三十三條 隣接シタル停車場、聯絡所又ハ信號所間ニ於テハ同一線路ニ同時ニ一列車ノ外運轉スルコトヲ得ス

五十箇ノ距離ニ於テ高低ノ差ノ最大ナル部分ヲ取リ其ノ兩端ヲトモ一年半毎ニ一回定期検査ヲ行フヘシ又一年半内ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルトキ亦同シ

前項検査及汽罐試驗ノ方法ニ關シテハ私設輕便鐵道ニ在リテハ豫メ鐵道局長官ノ認可ヲ受ケヘシ

検査及試驗ノ成績ハ之ヲ帳簿ニ詳記スヘシ
瓦斯其ノ他ヲ動力トスル機關車ニ在リテハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第四十條 客車、貨車各部ノ検査ハ使用ノ狀況ニ依リ時時之ヲ施行シ客車ニ在リテハ少クトモ一年半毎ニ貨車ニ在リテハ少クトモ三年毎ニ一回車輪(車軸附著ノ儘)聯結具及擔彈機ヲ取外シ之ヲ施行スヘシ

検査ノ成績ハ之ヲ帳簿ニ詳記スヘシ
第四十一條 車輛ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ

一 所屬輕便鐵道ノ記號
二 番 號

三 製造所ノ名稱及製造ノ年
四 客車ニハ等級及乗客ノ定員

五 手荷物車ニハ積載量
六 貨車ニハ積載量及容量

七 最後検査ノ年月
第四十二條 車輛ハ時時掃除ヲ爲シ之ヲ清潔ニ保持スヘシ

車窓ノ破損シ其ノ他毀損シタル客車ハ乗客用ニ供スルトコトヲ得

第三十九條 蒸汽ヲ動力トスル機關車ハ使用前及使用開始後少ク

ハシ

發著時刻其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル報告書ヲ調製セシム

第三十八條 列車ノ運轉ニ關シテハ當務者ヲシテ毎日列車ノ組成

ル爲ニ要スル器具ヲ備フヘシ

第三十七條 機關車ニハ列車運轉中ニ生シタル毀損ヲ一時修繕ス

左方ノ線路ヲ進行スヘシ
第三十六條 停車場内ノ運轉其ノ他特別ノ場合ヲ除クノ外列車ハ

第三章 信號

第四十三條 信號ヲ現示スル定例ノ場所ニ何等信號ヲ現示セス又ハ之ヲ現示スルモ平常ト異ル狀態ヲ呈スルトキハ危險信號ト看做スヘシ

第四十四條 信號ハ二箇以上ノ線路ニ兼用スルコトヲ得ス

第四十五條 常置信號機ハ柱上高ク腕並燈ヲ裝置シ危險信號ヲ現示スルヲ其ノ定位トシ必要ノ場合ニ於テ無難信號ヲ現示スルコトヲ得ヘキモノタルヘシ

第四十六條 二箇以上同種類常置信號機同一ノ柱ニ裝置スルトキハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線路ニ屬シ以下順位右方ノ線路ニ屬スルモノトス

第四十七條 常置信號ハ晝間ハ之ニ向テ視ルトキ左腕ノ位置又夜間ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ之ヲ現示スヘシ

危險信號(列車停止スヘシ)
晝間 腕ノ位置水平
夜間 赤色燈

無難信號(列車進行スヘシ)
晝間 腕ノ位置下向四十五度
夜間 綠色燈

第四十八條 常置信號ノ腕ハ長方形トシ其ノ表面ヲ赤色、背面ヲ白色トシテ腕端ニ近ク表面ニハ白色線、背面ニハ黑色線ヲ鑿ニ

畫スヘシ

第四十九條 常置信號機ハ圓板信號機ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル信號ハ左ノ法式ニ依ルヘシ

危險信號(列車停止スヘシ)
晝間 圓板正面ニ向フ
夜間 赤色燈

無難信號(列車進行スヘシ)
晝間 圓板側面ニ向フ
夜間 綠色燈

前項ノ圓板ハ其ノ表面ヲ赤色、背面ヲ白色トスヘシ

第五十條 停車場外ニ於テ列車ノ停止者ハ徐行ヲ要スル區域ノ兩端ニハ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示スヘシ

危險信號(列車停止スヘシ)
晝間 赤色旗若ハ赤色圓板正面ニ向フ
夜間 赤色燈

注意信號(列車徐行スヘシ)
晝間 綠色旗若ハ綠色圓板正面ニ向フ
夜間 綠色燈

前項ノ圓板ハ其ノ背面ヲ白色トスヘシ

第五十一條 信號ヲ設ケサル場所若ハ之ヲ用ウルコト能ハサル場合ニ於テ列車ニ向テ危害又ハ注意信號ヲ現示セムトスルトキハ左ノ法式ニ依リ手合圖ヲ爲スヘシ

危險信號(列車停止スヘシ)

晝間 赤色旗ヲ現示シ又ハ兩腕ヲ高ク舉グ
夜間 赤色燈

注意信號(列車徐行スヘシ)
晝間 綠色旗ヲ現示シ又ハ左腕ヲ高ク舉グ
夜間 綠色燈

第五十二條 何色ノ燈ニテモ亦如何ナル物體ニテモ之ヲ急激ニ振リ廻ストキハ危險信號ヲ示スモノトス

第五十三條 發雷信號ハ他ノ信號ノ現示シアルコトヲ警告スルコトノ用ニ供スルモノトス

發雷信號ハ相互約四十呎ヲ隔テ雷管二箇以上ヲ軌條上ニ附著スヘシ

發雷信號アリシトキ之ニ伴ヒ他ニ何等信號ノ現示ナキハ危險信號ト看做スヘキモノトス

第五十四條 故障ノ爲列車途中ニ停止シ又ハ事故若ハ必要ニ因リ一時線路ヲ閉鎖スル場合ニ於テハ其ノ場所ヨリ單線ニ在リテハ前後各二分ノ一哩以上、複線ニ在リテハ後方二分ノ一哩以上ニ於テ發雷信號ニ伴ヒ第五十一條ノ危險信號ヲ現示スヘシ

第五十五條 列車出發ノ際車掌ハ機關手ニ向ヒ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ

晝間 片腕ヲ水平ニ伸ヘ手笛ヲ聲ニ吹ク
夜間 綠色燈ヲ高ク圓形ニ動カシツツ手笛ヲ長聲ニ吹ク

第五十六條 機關手ハ左ノ法式ニ依リ汽笛又ハ警笛ヲ以テ合圖ヲ爲スヘシ

一 機關車運轉ヲ始ムルトキ其ノ他注意ヲ促ストキ
適度ノ笛聲 一回

二 制動機ノ緊締ヲ車掌ヘ促ストキ
短急笛聲 三回

三 制動機ノ緩解ヲ車掌ヘ促ストキ
適度ノ笛聲 二回

四 列車ノ近ケルヲ停車場、聯絡所、信號所又ハ往來頻繁ナル踏切ヘ告ケル必要アルトキ
長緩笛聲 一回

五 保線係員ヲ招集スル必要アルトキ
同上 數回

第五十七條 夜間ハ列車ノ前面上部ニ白色燈一箇ヲ掲グヘシ

第五十八條 列車ノ後部ニハ左ノ法式ニ依リ信號ヲ掲グヘシ

晝間 緩衝梁ノ左側ニ赤色圓板又ハ同色ノ燈一箇
夜間 緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇

臨時列車ニ先シ同方向ニ運轉スル列車ノ後部ニハ前項ノ外左ノ信號ヲ掲グヘシ

晝間 緩衝梁ノ右側ニ赤色圓板又ハ同色ノ燈一箇
夜間 緩衝梁ノ右側ニ赤色燈一箇

第五十九條 停車場ニ於ケル車輛ヲ換用機關車ハ夜間前部ニ白色

燈一箇及後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇ヲ掲ケヘシ
第六十條 夜間列車ノ一部ヲ停車場外線路ニ留置スルトキハ其ノ所在ヲ示ス爲少クトモ前部及後部ニ赤色燈各一箇ヲ掲ケヘシ

第四節 運輸

第六十一條 運輸規程第二條、第三條、第七條、第九條、第十條、第十三條、第十七條乃至第十九條、第二十二條乃至第三十條、第三十二條、第三十三條、第三十八條乃至第四十一條、第四十四條、第四十五條、第四十八條乃至第五十四條第一項、第五十五條、第五十六條、第六十六條第一項、同條第三項乃至第七十條、第七十二條乃至第七十五條第二項、第七十七條乃至第九十二條、第一百條、第一百七條、第一百七條乃至第一百十三條及第一百六條ノ規程ハ之ヲ輕便鐵道ニ準用ス

第五節 職制

第六十二條 私設ノ輕便鐵道ニハ左ノ係員ヲ置ケヘシ
營業長
驛長
車掌
運轉手
保線手
第六十三條 營業長ハ輕便鐵道ノ運輸、運轉及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
第六十四條 驛長ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ掌理ス

第一節 建設

第七十二條 軌間ハ特別ノ場合ヲ除クノ外三呎六吋トス
第七十三條 曲線ノ半徑ハ特別ノ場合ヲ除クノ外三十六呎以上トス
第七十四條 線路ノ勾配ハ特別ノ場合ヲ除クノ外二十五分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス
第七十五條 道路ニ敷設スル軌道ノ軌條間及其ノ左右一呎六吋通ハ木石、砂利其ノ他適當ノ材料ヲ敷キ軌條面ト道路面ト高低ナカラシムヘシ
第七十六條 軌道ヲ敷設スル道路ハ左ノ幅員ヲ有スルコトヲ要ス
一 單線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ハ四間以上其ノ他ノ場所ハ三間以上
二 複線軌道ノ場合ニ於テハ兩側人家連檐ノ場所又ハ連檐スヘキ場所ハ五間以上其ノ他ノ場所ハ四間以上
第七十七條 軌道ハ兩側人家連檐又ハ連檐スヘキ道路ニシテ人道車馬道ヲ區別セサル場所ニ於テハ車體ノ外側ヨリ路端迄一側ニ六尺以上他ノ一側ニ十二尺以上其ノ他ノ場所ニ於テハ一側ニ三尺以上他ノ一側ニ十二尺以上ノ幅員ヲ存シテ敷設スヘシ又道路屈折部ノ内角ノ前後ニ於テ車體外各十二尺以上ノ幅員ヲ存スルトキハ其ノ内角ニ於テ少クトモ十二尺其ノ他ノ場所ニ於テハ少クモ三尺ノ幅員ヲ存スルコトヲ要ス但シ馬車軌道又ハ之ニ準スヘキ軌道ニ在リテハ本條道路幅員ノ制限ヲ三分ノ二迄減縮スル

第六十五條 車掌ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及輸送ノ事務ニ從事ス

車掌ハ列車方停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指揮ヲ承ケテ其ノ事務ヲ執行ス

車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持ス
車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持スル爲必要アルトキハ旅客ニ對シ相當ノ指圖又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第六十六條 運轉手ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ運轉ノ事務ニ從事ス
運轉手ハ列車運轉中ニ在リテハ車掌、列車方停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケ

第六十七條 保線手ハ營業長ノ指揮ヲ承ケ線路ノ修理及保存ニ關スル事務ニ從事ス

第六十八條 輕便鐵道ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ第六十二條ニ定メタル係員以外ニ係員ヲ置カシムルコトアルヘシ
第六十九條 馬車鐵道又ハ之ニ準スヘキ輕便鐵道ニ在リテハ前七條ノ規定ニ依ラス係員及其ノ職制ヲ定メ之ヲ届出ツヘシ

第六節 雜則

第七十條 單行機關車ノ運轉及信號ニ關シテハ列車ニ關スル規定ヲ準用ス
第七十一條 輕便鐵道ノ自動車ニハ機關車及列車ニ關スル規定ヲ準用ス

第三章 軌道

コトヲ得
溝渠敷、竝木、電柱、街燈、郵便函其ノ他ノ道路上ノ工作物ヨリ其ノ側ノ路端迄ノ距離及人道、車馬道ヲ區別セル道路ニ在リテハ其ノ人道ノ前項ノ幅員ニ算入セス

第七十八條 地下ニ埋設シタル電信又ハ電話線路、水管、瓦斯管其ノ他公共用ノ工作物ト交叉又ハ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ其ノ工作物ヲ毀損セサル爲適當ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七十九條 各種ノ人孔、制水瓣蓋等ニ接近シテ軌道ヲ敷設スルトキハ其ノ操業ニ障害ヲ與ヘサル爲適當ノ距離ヲ保タシムヘシ

第八十條 道路ノ一側ヨリ他ノ一側ニ軌道線ヲ移ス箇所及軌道力道路ヲ橫斷スル箇所ハ木又ハ石ヲ用キテ相當幅員ヲ有スル踏切ヲ設ケヘシ

第八十一條 軌道敷設ノ爲道路及軌道ニ滯留スル雨水ハ之ヲ排除ノ施設ヲ爲スヘシ

第八十二條 車輛ニハ擔彈機、制動機、排障器及警報器ヲ裝置スヘシ但シ特種ノモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス
聯結スヘキ車輛ニハ彈性ノ聯結器ヲ裝置スルコトヲ要ス
機關車ニハ他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス

第八十三條 第十八條第二項及第十九條第一項ハ之ヲ軌道ニ準用ス

第二節 運輸

第八十四條 車輛ハ三車以上聯結シテ進行セシムルコトヲ得ス
 第八十五條 車輛進行中ハ各車ヲシテ相當ノ距離ヲ保タシムヘシ
 第八十六條 車輛進行ノ速度ハ一時間八哩ヲ超ユルコトヲ得ス但
 シ鐵道局長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ本制限ニ依ラシメサル
 コトヲ得
 第八十七條 必要ナル場所ニハ特ニ信號人ヲ置キ其ノ場所ニ於ケ
 ル車輛ノ進行速度ハ一時間五哩ヲ超ユルコトヲ得ス
 第八十八條 乘客昇降ノ爲ニスルノ外故チ道路ニ停車セシムル
 コトヲ得ス但シ乘客昇降ノ場合ト雖道路ノ交叉部ニ於テ停車セ
 シムルコトヲ得ス
 第八十九條 運轉手其ノ位置ヲ離ルル場合ニハ完全ニ車輛制動ノ
 手段ヲ施スヘシ
 第九十條 第二十二條第一項、第三十九條乃至第四十二條ノ規定
 ハ之ヲ軌道ニ準用ス

第三節 信號

第九十一條 信號ハ左ノ法式ニ依ルヘシ
 危害信號(停止スヘシ)
 晝間 赤色旗ヲ現示シ又ハ兩腕ヲ高ク掲ク
 夜間 赤色燈
 注意信號(徐行スヘシ)
 晝間 綠色旗ヲ現示シ又ハ片腕ヲ高ク掲ク
 夜間 綠色燈

第九十二條 夜間ハ五町以上ノ距離ニ於テ容易ニ認メ得ヘキ燈火
 ヲ車輛ノ前部ニ點スヘシ
 第四節 運輸
 第九十三條 客車ニハ行先、乘車賃金、營業時間其ノ他必要ナル
 事項ヲ揭示スヘシ
 第九十四條 停留場及乗換場所ニ在リテハ車掌ハ其ノ旨喚呼スヘ
 シ
 第九十五條 市街地ニ於ケル私設ノ軌道ニ在リテハ警察官署ノ命
 スル所ニ從ヒ軌條間及其ノ左右二呎通ノ掃除、撤水及除雪ヲ爲
 スヘシ
 第九十六條 私設軌道ノ係員及其ノ職制ハ之ヲ定メ鐵道局長官ニ
 届出ツヘシ
 第九十七條 運輸規程第二條、第三條及第二十五條乃至第二十八
 條ノ規定ハ之ヲ軌道ニ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前許可又ハ認可ヲ受ケ既ニ敷設シタル輕便鐵道ニシテ本
 令ニ適合セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ三年內ニ本令ノ規定ニ適
 合セシメ其ノ旨届出ツヘシ

○專用ノ輕便鐵道及軌道ニ關スル件

明治四十五年六月十五日 改正 大正六年十二月 大正九年十一月十日
 府令第一二〇〇號 府令第九三號 府令第七十三號ヲ以テ廢止

專用ノ輕便鐵道及軌道ニ關スル件左ノ通定ム

第一條 個人又ハ會社ニ於テ專用ニ供スル爲輕便鐵道又ハ軌道ヲ
 敷設セムトスルトキハ使用ノ目的ヲ記載シ左ノ書類及圖面ヲ具
 シ許可ヲ申請スヘシ
 一 線路實測圖
 二 工事方法書
 三 工費豫算書
 第二條 前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ運轉ニ關スル規定ヲ定メ認可
 ヲ受ケヘシ變更ノ場合亦同シ
 第三條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者運轉ノ管理ヲ他ニ委託セムト
 スルトキハ認可ヲ受ケヘシ
 第四條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ認可ヲ受ケルニ非サレハ使
 用ノ目的ニ屬セサル物ヲ運送スルコトヲ得ス
 第五條 第一條ノ許可ヲ受ケタル者其ノ運轉ヲ休止シ又ハ之ヲ廢
 止シタルトキハ遲滞ナク鐵道局長官ニ届出ツヘシ
 第五條ノ二 專用ノ輕便鐵道又ハ軌道ヲ讓受ケ自己ノ使用ニ供セ
 ムトスル者ハ事由ヲ具シ讓渡人ト連署シ之カ許可ヲ申請スヘシ
 前四條ノ規定ハ前項ノ許可ヲ受ケタル讓受人ニ之ヲ準用ス
 第六條 朝鮮輕便鐵道令第一條、第四條乃至第七條、第九條、第
 十二條及第十三條ノ規定ハ專用ノ輕便鐵道及軌道ニ之ヲ準用ス
 第七條 朝鮮輕便鐵道令施行規則第九條乃至第十八條、第二十
 一條、第二十二條及第二十七條乃至第三十二條ノ規定ハ之ヲ專用

ノ輕便鐵道及軌道ニ準用ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
 一 本令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケヘキ事項ヲ許可若ハ認可ヲ
 受ケスシテ爲シ又ハ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者
 二 不實ノ申告ヲ爲シテ許可又ハ認可ヲ受ケタル者
 三 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
 第九條 本令ニ依ル届出、報告ヲ怠リ又ハ不實ノ届出、報告ヲ爲
 シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○專用輕便鐵道用地ノ地目ニ關スル件

大正四年六月二十五日 府令第一二〇〇號
 平安南道長官照會首題ノ件左ノ通了知可相成及通牒候也
 問 專用輕便鐵道用地ハ地稅事務取扱手續第二條ノ鐵道用地ト
 シテ整理スヘキ土地中ニ掲記セラレサルモ其ノ使用スル土地
 ニシテ同條第八項(一)乃至(四)ニ該當スルモノハ鐵道用地又
 其ノ線路用地ハ鐵道線路ノ地目ヲ以テ整理スヘキモノナルヤ
 答 個人又ハ會社ニ於テ其ノ專用ニ供スル鐵道ノ線路用地ハ雜
 種地、線路用地以外ノ鐵道用地ハ實地ノ情況ニ依リ貸又ハ雜
 種地等ノ地目ヲ以テ整理スヘシ

(註) 大正九年制令第九號ハ鐵道、輕便鐵道及軌道ノ營業ニ關スル件ノ改正ナリ

○電氣事業取締規則

明治四十四年三月六日 府令第二四號

改正 明治四十五年四月 大正七年五月 大正八年二月六日 府令第八六號 府令第四號 府令第十七號

第一章 總則

- 第一條 本令ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲グルモノナリ
 - 一 一般ノ需要ニ應ジ電氣ヲ供給スルモノ
 - 二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道、輕便鐵道及軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 三 前二號ノ外電氣ヲ使用又ハ供給スルモノ但シ他ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルモノニシテ其ノ使用上ノ責任ヲ供給者ニ於テ負擔スルモノヲ除ク
- 第二條 本令ハ左ニ掲グルモノニ之ヲ適用セス
 - 一 電信、電話又ハ信號ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 二 一般運送ノ用ニ供スル官設鐵道ノ動力及其ノ車輛内ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 三 電線路ノ施設ナクシテ車輛又ハ船舶ニ電氣ヲ使用スルモノ
 - 四 電壓十「ヴォルト」以下ノ電氣ヲ使用スルモノ
- 第三條 本令ニ於テ電線ト稱スルハ電氣傳送ニ用ウル金屬體ヲ謂フ
- 第四條 本令ニ於テ電路ト稱スルハ發電其ノ他機械、器具、電線

大地等電流ノ通スル一全路ヲ謂フ

- 第五條 本令ニ於テ電氣線路ト稱スルハ屋外ニ施設スル電線及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ
- 第六條 本令ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設シタル機械、器具、電線路及其ノ他ノ工作物ニシテ直接電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ
- 第七條 本令ニ於テ引込線ト稱スルハ使用場所外ノ最終ノ支持物ヨリ使用ノ場所ニ達スル屋外電線ヲ謂フ
- 第八條 本令ニ於テ電車ト稱スルハ電動車及電氣機關車ヲ謂フ
- 第九條 本令ニ於テ低壓ト稱スルハ直流式ニ在リテハ六百「ヴォルト」交流式ニ在リテハ三百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓ヲ謂フ
- 第十條 本令ニ於テ高壓ト稱スルハ低壓ノ制限ヲ超過シ三千五百「ヴォルト」ヲ超過セサル電壓、特別高壓ト稱スルハ高壓ノ制限ヲ超過スル電壓ヲ謂フ
- 交流式ノ電壓ヲ表示スルニハ實効電壓ヲ以テス
- 第二章 許可、認可、申請及届出
- 第十條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ起業目論見書及工事設計書ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ
- 前項ノ申請書ニハ電氣事業者ノ商號又ハ名稱、工事費豫算及事業上ノ收支概算ヲ記載シタル書類ヲ添付スヘシ
- 第十一條 前條ノ起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 事業ノ目的
 - 二 資本金
 - 三 供給區域又ハ鐵道ノ經過地名
 - 四 發電所、變壓所、配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ供給區域又ハ鐵道ニ達スル電線路ノ經過地名
 - 五 電氣鐵道方式

一 事業ノ目的

- 二 資本金
 - 三 供給區域又ハ鐵道ノ經過地名
 - 四 發電所、變壓所、配電所ノ位置並其ノ位置ヨリ供給區域又ハ鐵道ニ達スル電線路ノ經過地名
 - 五 電氣鐵道方式
- 前項第三號ノ供給區域及第四號ノ事項ハ別ニ縮尺及電線路巨長ノ概數ヲ記載シタル圖面ヲ以テ表示シ又第三號ノ鐵道ノ經過地ハ縮尺二萬五千分ノ一以上トシ鐵道ノ位置、近傍ノ地名、他ノ鐵道ト交叉スル所アルトキハ其ノ交叉點ノ前後二町以内ニ在ル鐵道ノ位置、鐵道ノ位置ヨリ約一町以内ニ在ル架空ノ電信線、電話線、電氣信號線、電燈、電力、電氣鐵道用電線ノ位置、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ鐵道ノ位置ヨリ約十町以内ニ在ル地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置ヲ記載シタル圖面ヲ以テ表示スヘシ
- 前條ノ工事設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ第五號ノ事項ハ第一條第二號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ニ限ル
- 一 原動力ノ種類
 - 二 電力、火力、電動力其ノ他ノ區別
 - 三 電氣方式
 - 特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式ノ區別等
 - 三 「ワット」數及最大電壓

多線式ニ在リテハ最大ノ電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓又電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次同線ノ最大電壓

- 四 電線路ノ種類
- 架空線、地中線ノ區別等
- 五 電氣鐵道方式
- 架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式ノ區別等
- 第十二條 電氣事業ノ許可ヲ受ケタル後起業目論見書又ハ工事設計書ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ關係ノ書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ
- 第十三條 電氣事業ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期間内ニ左ノ書類ヲ具シ朝鮮總督ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ
 - 一 工事設計明細書
 - 二 工事費豫算書
 - 三 落成期限書
- 工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第三十六條ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ各部ノ落成期限
- 前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
 - 一 組合事業ニ在リテハ其ノ組合ニ關スル契約書謄本
 - 二 會社ニ在リテハ其ノ登記謄本及定款謄本
 - 三 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ決議書
- 第一項ノ申請書ハ第十條ノ申請書ト同時ニ之ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ工事設計書ハ之ヲ提出スルコトヲ要セス

朝鮮總督ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電氣事業者ノ申請ニ依リ第一項ノ期間ヲ伸張スルコトアルヘシ
第十四條 工事設計明細書ニハ左ノ事項及圖面ヲ記載又ハ具備スヘシ

- 一 原動機
 - 汽罐ノ種類、箇數、常用汽壓、馬力數(又ハ加熱面積加爐面積)、水車ノ種類、箇數、馬力數、流量、落差、調整器ノ種類、汽機、瓦斯發動機、石油發動機、電動機等ノ種類(電動機ハ發電機ノ例ニ依リテ)、馬力數、調整品ノ種類其ノ他附屬機械、器具ノ種類及箇數等
- 二 發電所、變壓所又ハ配電所ニ於ケル機械、器具ノ裝置及接續法並其ノ圖面
- 三 發電機、電動發電機、電流變式機、蓄電池及池及「ブスター」ノ種類、箇數及「ワット」數
- 電流ノ種類(交流式ニ在リテハ周波度數、單相式、二相式、三相式等ノ區別、結線法共)、勵磁法(直流式ニ在リテハ直列卷、分電卷、複卷ノ區別、交流式ニ在リテハ單一勵磁、合成勵磁等ノ區別共)、最大電壓(多線式ニ在リテハ最大電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓、電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線ノ最大電壓)
- 四 變壓器ノ種類
 - 一次及二次回線ノ電壓、單相式、二相式、三相式等ノ區別(結

- 五 電氣方式
 - 特別高壓、高壓、低壓ノ區別、直流式、交流式ノ區別、單相式、二相式、三相式等ノ區別、二線式、三線式ノ區別等
- 六 電線路ノ種類及其ノ構造
 - 架空線、地中線ノ區別、裸線、被覆線ノ區別、電線並被覆絕緣物ノ種類及電線路構造ノ大要
- 七 電線路圖
 - 發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置並其ノ近傍ノ地名等ヲ記入シタル縮尺圖
- 八 保安裝置
 - 開閉器、自動遮斷器、檢漏器ノ種類及避雷ノ裝置、他ノ電線トノ混觸豫防裝置、高壓及低壓電線相互ノ接觸ヨリ生スル危險豫防裝置、危險豫防ノ爲器具、材料ニ設備シタル接地其ノ他ノ裝置
- 第一條第二號ノ電氣事業ニ在リテハ前項各號ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ前項第六號ノ事項ニ關シテハ電車線ノ品質、形狀、太サ、腕金式、吊線式ノ區別等ヲモ記載スヘシ
- 一 電車内機械、器具ノ裝置及接續法並其ノ圖面
- 二 電車内電動機、蓄電池ノ種類、箇數及馬力數又ハ「ワット」數並附屬機械、器具ノ種類
- 電流ノ種類(交流式ニ在リテハ周波度數、單相式、二相式、

- 三 三相式等ノ區別、結線法共)、勵磁法(直流式ニ在リテハ直列卷、分電卷、複卷ノ區別、交流式ニ在リテハ單一勵磁、合成勵磁等ノ區別共)、最大電壓(多線式ニ在リテハ最大電壓ヲ與フル兩線間ノ電壓、電流變式機及電動發電機ニ在リテハ一次及二次回線ノ最大電壓)
- 三 電氣鐵道方式
 - 架空單線式、架空複線式、暗渠單線式、暗渠複線式ノ區別等
- 四 鐵道ノ構造
 - 軌道ノ種類、重量、軌間並鐵道橫斷面圖(單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ尙「ボンド」線及補助線ノ種類、太サ其ノ他軌道ノ接續法又暗渠式及卸式等ニ在リテハ其ノ構造及電線施設法共)
- 五 電車ノ構造、重量及運轉車輛數
- 六 防雜裝置
 - 制御機、制動機、避雜器、排障器ノ種類、信號法及鐵道下他ノ鐵道ト交叉スル場合ニ於ケル衝突豫防法等
- 七 鐵道實測平面及縱斷面圖
 - 平面圖ノ縮尺ハ二萬五千分ノ一以上トシ鐵道ノ位置及巨長、近傍ノ地名、道路ノ幅員、他ノ鐵道ト交叉スル所アルトキハ其ノ位置及前後二町以內ニ在ル部分、電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設アルトキハ鐵道ノ位置ヨリ約一町以內ノ區域ニ在ル部分、單線式其ノ他電路ノ一部トシテ大地ヲ使用スル

- 方式ノ電氣鐵道ニ在リテハ其ノ鐵道ノ位置ヨリ約十町以內ノ區域ニ在ル地中施設ノ金屬線、金屬管其ノ他金屬體ノ位置、發電機又ハ電流變式機ノ一極ヲ接地シタル點ノ位置、縱斷面圖縮尺ハ長サハ平面圖ト同一ニシテ高サハ千八百分ノ一以上トシ、中心線、地面ノ高低、築堤、切取、隧道、橋梁ノ位置、道路又ハ他ノ鐵道ト交叉スル場合ニ在リテハ其ノ位置、鐵道ノ勾配及經過地名
- 第十五條 第一條第三號ノ電氣事業ヲ經營セムトスル者ハ第十一條第一項第一號第三號及第四號ノ事項ヲ記載シタル書類及圖面ノ外第十四條ノ工事設計明細書及落成期限書ヲ具シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ
- 左ニ掲グルモノヲ除クノ外二千「ワット」ヲ經過セサル低壓電氣ヲ供給又ハ使用セムトスル者ハ前項ノ申請ヲ要セス其ノ工事施設ノ後遲滞ナク前項ニ準シ管轄警務部長「京城ニアリテハ朝鮮同」ニ届出ツヘシ其ノ届出ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ
- 一 火藥又ハ石油ノ貯藏場、紡績又ハ綿打工場其ノ他爆發性、燃燒性若ハ發火性ノ物質ヲ製造シ又ハ藏置スル場所ニ電氣ヲ使用スルモノ
- 二 爆發性、燃燒性若ハ發火性ノ瓦斯其ノ他ノ物質ヲ發生スルノ虞アル場所ニ電氣ヲ使用スルモノ
- 第十六條 電氣事業工事設計明細書又ハ落成期限書其ノ他認可ニ係ル事項ヲ變更セムトスルトキハ關係書類及圖面ヲ具シ朝鮮總

督ニ認可ヲ申請スヘシ但シ第十九條及第二十條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

發電所、變壓所又ハ配電所ノ電氣工作物ヲ撤去スルニ依リ工事設計明細書中ノ事項ニ變更ヲ生スルモ電氣方式及他ノ電氣工作物ノ狀態ニ變更ヲ生セサル場合ニハ前項ノ手續ニ依ラス直ニ關係書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督府逓信局長官ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第十七條 電氣事業者第一條第二號ノ電氣事業ニ關スル起業目論見書、工事設計書、工事設計明細書及工事費豫算書ヲ提出スル場合ニハ之ヲ鐵道ニ關スル許可又ハ認可ノ申請書類ト共ニ提出スヘシ

第十八條 第一條第一項ノ電氣事業者ハ料金其ノ他電氣供給ノ條件ヲ定メ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第十九條 電氣事業者第三十六條ニ依リ使用認可證ノ下付ヲ受ケタル後電線路ヲ新設、延長又ハ其ノ位置ヲ變更セムトスルトキハ左ノ書類及圖面ヲ具シ警務部長ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ其ノ落成期限ヲ變更セムトスルトキ亦同シ但シ引込線、共同引込線、二箇以上ノ使用場使用者構内、發電所、變壓所及配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

一 電線路圖
發電所、變壓所、配電所及電線路ノ位置並其ノ近傍ノ地名等

チ記入シタル縮尺圖

二 落成期限書

工事ヲ數部ニ區分シ各部ノ落成毎ニ第三十六條ノ検査ヲ受ケムトスルトキハ其ノ各部ノ落成期限
第二十條 同一支持物又ハ同一暗渠内ニ於テ電線ヲ増設若ハ撤去シ又ハ電線路ヲ撤去シタルトキハ遲滞ナク警務部長ニ届出ツヘシ但シ引込線、共同引込線並使用者構内、發電所、變壓所又ハ配電所構内ノ電線路ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 火災其ノ他ノ原因ニ因リ電氣工作物ヲ滅失損壞シタル爲復舊工事ヲ施サムトスルトキハ電線路ニ關シテハ第十九條ノ規定ヲ準用シ其ノ他ノ電氣工作物ニ關シテハ第十六條第一項ノ規定ヲ準用ス

前項ノ工事ヲ急施スルノ必要アルトキハ其ノ滅失若ハ損壞シタル電氣工作物ノ原狀ヲ變更セサル場合ニ限り前項ノ手續ニ依ラズ逓信局長官ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ警務部長ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ事業ノ全部又ハ一部ノ休止ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ事業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十四條 左ノ場合ニハ電氣事業者遲滞ナク其ノ事項ヲ具シ逓信局長官ニ届出ツヘシ

第二十八條 電氣事業ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ讓受人又ハ被相續人カ本令ニ依リテ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十九條 本令ニ依リ提出スル書類及圖面中技術ニ關スルモノハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ其ノ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ニ署名捺印スヘシ

第三十條 朝鮮總督、逓信局長官又ハ警務部長ハ許可又ハ認可ニ條件ヲ附シ又ハ審査上必要ト認ムル書類及圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第三十一條 本令ニ依リ朝鮮總督又ハ逓信局長官ニ提出スヘキ書類及圖面ハ警務部長ヲ經由スヘシ

第三十二條 警務部長ハ前條ノ書類ニ意見ヲ附シ逓信局長官ニ提出スヘシ但シ第十條第一項ノ電氣事業許可申請書及第十三條第一項ノ工事施行認可申請書ニ限り道長官ヲ經由スヘシ

前項ノ場合ニ於テ其ノ事業カ他ノ地方管内ニ係ルモノナルトキハ道長官ヨリ關係道長官ニ商議ヘシ

第三十三條 警務部長ハ許可、認可若ハ命令シタル事項ヲ其ノ都度逓信局長官ニ通報スヘシ

第三十四章 第三章 工事ノ著手、落成、検査及使用認可證
第三十四條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者工事施行ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ工事ニ著手スヘシ第十六條

一 電氣ノ使用ヲ開始シタルトキハ其ノ年月日

二 電氣事業者其ノ名稱又ハ商號ヲ變更シタルトキハ其ノ名稱又ハ商號

第二十五條 左ノ場合ニハ電氣事業者其ノ日時、場所、原因其ノ他必要ナル事實ヲ具シ警務部長ニ届出ツヘシ

一 電氣事業ヨリ災害其ノ他ノ故障ヲ生シタルトキ

二 送電ヲ中止又ハ之ヲ復舊シタルトキ

第二十六條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者ハ毎年決算期又ハ六月及十二月ニ於テ事業概況報告書ヲ調製シ通信局長官ニ届出ツヘシ

前項ノ報告書ニハ業務上各般ノ報告、報告期末現在ニ於ケル電線路延長及電線延長、需要者數並電燈、電動機及電車ノ箇數ヲ記載スヘシ但シ電線ノ延長ハ電壓ノ類別ニ依リ、電燈ハ白熱燈、弧光燈及「ソツ」ト「數」ニ依リ、電動機及電車ハ其ノ種類及「ソツ」ト「數」ニ依リ區別スヘシ

第二十七條 第一條第一號又ハ第二號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡サムトスルトキハ當事者連署ノ上朝鮮總督ノ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ讓渡ヲ終了シタルトキ又ハ第一條第三號ノ電氣事業者其ノ事業ヲ讓渡シタルトキハ當事者ヨリ遲滞ナク逓信局長官ニ届出ツヘシ
電氣事業ヲ相續シタル者ハ前項ノ規定ニ準シ届出ツヘシ

又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタルトキ亦同シ
 朝鮮總督又ハ警務部長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ電
 氣事業者ノ申請ニ依リ前項期間ノ伸長ヲ認可スルコトアルヘシ
 第三十五條 電氣事業者ノ工事著手シタルトキハ遲滞ナク其ノ認
 可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタル官廳ニ届出ツヘシ其ノ落成シタル
 トキ亦同シ

第三十六條 逓信局長官又ハ警務部長ハ工事落成ノ届出アリタル
 トキハ吏員ヲシテ其ノ電氣工作物ヲ検査セシメ支障ナシト認ム
 ルトキハ電氣事業者ニ使用認可證ヲ下付スヘシ但シ検査ノ必要
 ナシト認ムルトキハ直ニ使用認可證ヲ下付スルコトヲ得
 前項ノ場合ニ於テ検査ノ結果電氣工作物ヲ不安全ナリト認ムル
 トキハ其ノ改修ヲ命スヘシ

第三十七條 前條ノ検査吏員ハ検査ノ結果危險ノ虞ナシト認ムル
 モノニ限り電氣事業者ニ假使用認可證ヲ下付スルコトアルヘシ
 前項假使用認可證ノ效力ハ其ノ下付ノ日ヨリ起算シ六十日以内
 トス但シ其ノ期間内ト雖逓信局長官又ハ警務部長ニ於テ電氣工
 作物ヲ不完全ナリト認ムルトキハ其ノ使用ヲ停止スルコトアル
 ヘシ

第三十八條 第三十五條ニ依リ届出ヲ要スル電氣工作物ハ使用認
 可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スル
 コトヲ得ス但シ第二十一條第二項ノ電氣工作物ニ限り其ノ落成
 ノ日ヨリ六十日間ヲ限り使用認可證又ハ假使用認可證ノ下付ヲ

受ケスシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第四章 主任技術者

第三十九條 電氣事業者ハ工事著手前學識經驗アル主任技術者ヲ
 選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ但シ第一條第三號ノ
 電氣事業ニシテ第十五條第二項ニ該當スルモノハ此ノ限ニ在ラ
 ス

第四十條 電氣事業者主任技術者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ遲
 滯ナク左ノ事項ヲ具シタル履歷書ヲ添ヘ逓信局長官ニ届出ツヘ
 シ

- 一 主任技術者ノ氏名、住所、年齢及國籍
- 二 學 歴
- 三 官廳、公署又ハ會社其ノ他ノ事業ニ從事シタルトキハ其ノ
 勤務場所、職務ノ種類其ノ終始ノ年月日
- 四 卒業又ハ修業證書ノ謄本

第四十一條 逓信局長官ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者
 ノ改任ヲ命スルコトアルヘシ

第四十二條 主任技術者疾病、不在其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ擔當
 ノ職務ヲ執ル能ハサルコト三十日以上三巨ルトキハ電氣事業者
 ハ其ノ代務者ヲ選任シ逓信局長官ニ届出ツヘシ

代務者ノ行爲ニ付テハ主任技術者其ノ責任ニ任ス
 第五章 工事施設、送電及記録
 第一節 通 則

第四十三條 電路ハ大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ危險又ハ障
 害ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ逓信局長官ノ認可ヲ受ケタルト
 キハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條 電路ニハ必要ナル場所ニ避雷裝置及開閉器ヲ設備ス
 ヘシ

第四十五條 電路ニハ漏電ヲ檢スルノ裝置ヲ爲スヘシ但シ逓信局
 長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 電線ハ使用電流ノ爲攝氏二十度以上ノ溫度ヲ増スコ
 トナク且ツ其ノ絶縁物ハ之ヲ爲變化ヲ顯ハササルモノナルコト
 ヲ要ス

第四十七條 各電線ニハ如何ナル場合ニ於テモ電流ノ爲攝氏四十
 度以上ノ溫度ヲ増ササル様完全ナル自働遮斷器ヲ裝置スヘシ
 各高壓電線電氣鐵道用各幹線ニハ發電所及變壓所ニ於テ特ニ
 鋭敏ナル自働遮斷器ヲ裝置スヘシ

第四十八條 架空電線ハ絶縁物ヲ以テ被覆シ且外物ニ觸ルルモ容
 易ニ損傷セサル様外装スヘシ

三百「ヴォルト」以上ノ低壓ニ使用スル架空電線ハ二重以上ノ木
 綿編組線ニシテ其ノ被覆物ハ常ニ耐水質絶縁性ヲ具ヘ且其ノ厚
 サ五厘以上ノモノ又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス
 高壓ニ使用スル架空電線ハ護膜又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁
 物ヲ以テ被覆シ其ノ厚サ三厘五毛以上ニシテ其ノ絶縁力ハ二十
 四時間以上水中ニ浸シ「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ一分時

間充電ノ後攝氏十五度ニ於テ一里ニ付四十萬「ガーム」以上ノモ
 ノナルコトヲ要ス
 左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ前二項ニ適合セサル電線ヲ使
 用スルコトヲ得

- 一 堅牢ナル電線墜落豫防裝置ヲ爲シ斷線スルモ危險ノ虞ナキ
 トキ又ハ相當ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルトキ
- 二 電信線、電話線又ハ電氣信號線トシテ電氣的混觸ヲ豫防スル
 爲架空電線ノ上部ニ堅牢ナル豫防裝置ヲ爲ストキ但シ架空電
 線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近シテ電信線、電話線又ハ電
 氣信號線ノ架設ナキ場所ニ在リテハ其ノ架設ニ至ル迄此ノ裝
 置ヲ爲ササルコトヲ得

人家ヲ離隔シ交通稀少ナルカ又ハ其ノ他ノ理由ニ因リ危險ノ虞
 ナシト認ムル場合ニハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ前各項ノ制限ニ
 依ラサルコトヲ得

本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス

第四十九條 架空電線ハ電車線ヲ除クノ外直徑六厘九毛ノ圓形ノ
 銅線又ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五十條 市街地ニ限リ道路ニ建設スル架空電線路ハ左ノ制限ニ
 依ルヘシ但シ工事又ハ土地ノ狀況ニ依リ已ムヲ得サル場所ニ
 シテ逓信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
 一 道路ノ兩側ニ跨ラス其ノ一側ニノミ架設スルコト
 二 道路ノ一側ニ架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線アルト

キハ他ノ一側ニ架設スルコト、若其ノ一側ニ架空ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線アルトキハ之下同側ニ架設スルコト
本條ノ規定ハ電車線ニ之ヲ適用セス

第五十一條 架空電線ハ地表ヲ距ル十六尺以上トシ造營物ニ沿ヒ架設スルトキハ三尺以上、其ノ上部ヲ架渉スルトキハ高壓電線ハ六尺以上其ノ他ハ三尺以上、離隔セシムヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場所ハ警務部長ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十二條 架空ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキ及引込線共同引込線ニシテ工地上已ムヲ得サルトキニ限リ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第五十三條 他人ニ屬スル電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉シ若ハ之ニ接近シテ架空電線ヲ建設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工地上已ムヲ得サル場合ニシテ逕信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノ又ハ同一ノ電柱ニ架渉スルモノハ此ニ制限ニ依ラサルコトヲ得

第五十四條 架空ノ電信線、電話線、電氣信號線又ハ電燈、電力若ハ電氣鐵道用電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ若ハ接近シテ架空電線ヲ建設セムトスルトキハ其ノ前日迄ニ關係管理者ニ通知シ立會ヲ請求スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理者ハ撤去スルヲ得

第六十二條 屋外ニ設置スル變壓器ハ耐火水ノ蝕内ニ藏メ地表ヲ距ル十四尺以上ニ於テ電柱ニ取附ケヘシ

石造、煉瓦造及土藏造ノ建物ノ外部ニシテ人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ限リ前項ノ規定ニ依リ取附クルコトヲ得

危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ警務部長ノ認可ヲ受ケ前二項以外ノ場所ニ取附クルコトヲ得

第六十三條 電路ハ之ヲ検査シ安全ト認ムルモノニ非サレハ之ニ送電スルコトヲ得ス

第六十四條 電氣事業者ハ送電中ノ架空電線ノ近傍ニ失火アルトキハ直ニ現場ニ技術者又ハ工夫ヲ派遣シ危險豫防ノ手續ヲ施シ其ノ旨出張ノ警察官ニ届出シムヘシ其ノ派遣員ハ警察官ノ承認ヲ受クルニ非サレハ退場スルコトヲ得ス

出火ノ場所ニ派遣ノ技術者又ハ工夫ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ携帯セシムヘシ

第六十五條 電氣事業者ハ送電中失火、暴風其ノ他非常ノ場合ニハ危險ノ虞アリト認ムル區域内ノ架空電線ニ對シ速ニ其ノ送電ヲ遮斷スヘシ

前項ニ依リ送電ヲ中止シタル區域内電線路ノ各要所ニハ晝間ハ標旗、夜間ハ標燈ヲ掲ケヘシ

第六十六條 逕信局長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テ電氣事業者ニ對シ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第六十七條 特別高壓電氣工作物並地中電線路ノ施設制限ニ關シ

場合亦同シ

第五十五條 架空電線ノ分岐ハ其ノ電線ノ支持點ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ逕信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十六條 電柱ニハ番號ヲ記入スヘシ
高線電線ヲ支持スル腕木又ハ碍子ハ地上ヨリ甄別シ得ル程度ニ於テ其ノ全部又ハ一部ヲ赤色ト爲スコトヲ要ス

第五十七條 坑内、隧道、橋梁等ニシテ人畜ニ危害ヲ及ボスノ虞アル場所ニ施設スル電氣工作物ニハ完全ナル危險豫防方法ヲ設ケ高壓電線ニ在リテハ特ニ之ヲ堅牢ナル管若ハ管内ニ藏ムルガ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ設ケヘシ

第五十八條 電線ヲ藏メ若ハ之ヲ鐵裝スル爲用ウル金屬體ハ完全ニ大地ト電氣的接觸ヲ爲スヘシ但シ電燈球取附用器具其ノ他之ニ類スル短少ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 開閉器、自動遮斷器、抵抗器其ノ他導體ニ接スル器具ハ耐火質絶緣性ノモノナルコトヲ要ス

第六十條 變壓器、直列式孤光電燈其ノ他高壓電氣ノ通スル機械、器具ハ容易ニ人ノ觸レサル様取付ヘシ

第六十一條 變壓器ノ一次線輪ト二次線輪トノ間ノ絶緣力ハ使用電壓ノ二倍ノ電壓ヲ以テ試験シ三十分時間以上之ニ耐フルモノナルコトヲ要ス但シ特別高壓電氣ニ使用スルモノハ此ノ限ニ在ラス

テハ本章ニ規定スルモノノ外別ニ定ムル所ニ依ル

第六十八條 本章ノ規定ニ依ル記録ハ五年間之ヲ保存スヘシ

第二節 電燈及電力

第六十九條 高壓電路ノ架空部分及絶緣電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地トノ絶緣力ハ一百「ヴォルト」以上ノ電壓ヲ以テ試験シ電線ノ長サ一里ニ付前者ニ在リテハ二萬五千「ヴォーム」、後者ニ在リテハ使用電壓一百「ヴォルト」毎ニ六十萬「ヴォーム」ナドヘカラス

低壓電路ノ大地トノ絶緣力ハ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ一千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス
土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ逕信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第七十條 架空電線ヲ架空ノ電信線又ハ電氣信號線ト並行シテ建設スルトキ及直流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ六尺以上、架空ノ電力線若ハ交流式電燈線ヲ架空電話線ト並行シテ建設スルトキハ十二尺以上ヲ離隔スヘシ但シ電信線、電話線又ハ電氣信號線管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

第七十一條 共同引込線ノ分岐シタル部分ハ三十間以上ト爲スコトヲ得且道路ヲ横斷セス人ノ容易ニ觸レサル様屋外ニ取附ケ

ヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ警務部長ノ認可ヲ受ケタルトキハ私道ニ限リ横斷スルコトヲ得

第七十二條 屋内ニ施設スル電線ハ左ノ制限ニ依ルノ外絶縁物ヲ以テ被覆シ外物ニ觸ルルモ容易ニ損傷セサル様外装シタルモノナルコトヲ要ス但シ特別ノ場合ニ於テハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ裸線用アルコトヲ得

一 點檢容易ナル場所ニ施設スル電線ハ第四十八條第二項ニ規定スル電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト

二 點檢容易ナラサル場所、點檢シ能ハサル場所、濕氣ノ充チ易キ場所又ハ工事上已ムヲ得ス人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第七十三條ニ規定スル高等絶縁電線若ハ之ト同等以上ノモノナルコト但シ點檢容易ナラサル場所ト雖二百五十「ヴォルト」以下ノ電線ニ限リ特別ノ方法ニ依リ施設規ルトキハ第四十八條第二項ノ電線ヲ用ウルコトヲ得

第七十三條 前條ノ高等絶縁電線ノ保護又ハ之ニ相當スル良好ナル絶縁物ヲ以テ被覆シ其ノ絶縁力ハ二十四時間以上水中ニ浸シ一百「ヴォルト」以上ノ電線ヲ以テ一分時間充電ノ後攝氏十五度ニ於テ一里ニ付一百「メガオーム」以上ナルコトヲ要ス

第七十四條 屋内ニ施設スル可撓組線以外ノ電線ハ直径五厘ノ圓形ノ積、可撓組線ノ電線ハ直径三厘八毛ノ圓形ノ積ヨリ小ナラサル切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有シ其ノ

第七十九條 電氣事業者電線路ニ於テ障害アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ復舊ニ至ル迄送電ヲ中止スヘシ

第八十條 修繕其ノ他ノ原因ニ因リ一時間以上送電ヲ中止セルトキハ關係需用者ニ通知シ急遽ノ場合ヲ除クノ外之ヲ豫告スヘシ

第八十一條 屋内ニ送電スル電壓ハ直流式ニ在リテハ五百「ヴォルト」、交流式ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」ヲ超過スヘカラス但シ此ノ制限ヲ超過シテ送電セムトスルトキハ工事方法ヲ具シ逓信局長官ニ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ハ發電所、變壓所及配電所内ニ之ヲ適用セス

第三節 電氣鐵道

第八十二條 架空電車線ニハ直径二分五厘ノ圓形ノ硬銅線若ハ之ト同等以上ノ強力ヲ有スル電線ヲ用ウルヘシ但シ危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十三條 歸線單線式電氣鐵道ノ軌條又ハ軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外大地ヨリ絶縁スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ボスノ虞ナシト認ムル場合ニハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第八十四條 單線式電氣鐵道ヲ施設スル場合ニ於テ地中ニ金屬體ノ施設アルトキハ左ノ各號ニ依ルヘシ但シ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 歸線ノ絶縁セサル部分ハ地中施設ノ金屬體ヨク四尺以上離

燃線ノ數ハ七本以上スルコトヲ要ス但シ「パイプ」、ベンダト「ブラケット」其ノ他之ニ類ノモノノ内ニ藏ムル電線及逓信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十五條 屋内ニ施設スル電線ハ耐火耐水質ノ管若ハ管内ニ藏メタル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ導子ヲ使用シ人ノ容易ニ觸レサル様取附クヘシ

點檢容易ナル乾燥ノ場所ニ在リテハ二百五十「ヴォルト」以下ノ電壓ニ使用スル電線ニ限リ臺附木製「クリート」ヲ用ウルコトヲ得

點檢シ能ハサル場所ニ施設スル電線ニシテ金屬體ノ鍍裝又ハ被覆ナキモノハ金屬管内ニ納ムヘシ

第七十六條 電線ノ天井、壁及床等ヲ貫通スル部分又ハ屋内ニ於テ電信線、電話線、電氣信號線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ニ接近スルカ若ハ相互ニ交叉スル部分ハ之ヲ導管内ニ藏メ又ハ特別ノ裝置ヲ爲スヘシ

第七十七條 屋内ニ施設スル電線相互間ノ絶縁力及電線ト大地トノ絶縁力ハ孰レモ機械、器具及附屬物ヲ合セ漏洩電流ヲシテ最大供給電流ノ五千分ノ一ヲ超過セシムヘカラス

前項ノ絶縁力ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ

第七十八條 第一條第一號ノ電氣事業者ハ故ナク電氣供給時間ヲ短縮シ又ハ供給スヘキ一定電壓ヲシテ百分ノ四以上變動ヲ起サシムヘカラス但シ技術上已ムヲ得サル場合ハ此ノ限ニ在ラス

隔スヘシ但シ工事上已ムヲ得サル場合ニ於テ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ其ノ部分ト金屬體トノ間ニ不導體ノ隔離物ヲ設ケ電

流ヲシテ地中四尺以上流通セシムルノ設備ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

二 歸線ト其ノ近傍ニ在ル金屬體トノ間ニ電流ノ通スル場合ニ於テ其ノ方向歸線ヨリ金屬體ニ向ツテ流ルルトキハ兩者間ノ電壓ノ差四、五「ヴォルト」、金屬體ヨリ歸線ニ向ツテ流ルトキハ兩者間ノ電壓ノ差一、五「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

三 歸線ハ發電機ノ消極ニ接続スヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ逓信局長官ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

四 軌條ハ電氣ノ完全ナル接続ヲ爲スヘシ

五 軌條ノ外一平方寸ノ百分ノ四以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル補助線ヲ敷設スヘシ

六 軌條ノ中間若ハ外側一尺以内ニ敷設シタル補助線ハ長サ一百尺以下毎ニ一平方寸ノ百分ノ三以上ノ切斷面積ヲ有スル銅線又ハ之ト同等以上ノ導電力ヲ有スル他ノ方法ヲ以テ軌條ト接続スヘシ

七 歸線ノ絶縁セサル部分中ニ生スル電位ノ差ハ七「ヴォルト」ヲ超過セシムヘカラス

第八十五條 前條ノ場合ニ於テハ歸線ノ絶縁セサル部分ニ起ルヘキ電位ノ差及第八十六條ニ規定スル兩地板ト發電機ノ接地シタ

ル一極地下ノ接続ニ依リテ流ルル電流ヲ常ニ自働的ニ記録スル
ノ裝置ヲ爲シ其ノ最大電位ノ差及最大電流ヲ毎日記録スヘシ
第八十六條 第八十四條ノ場合ニ於テハ發電機ノ一極ヲ接地シタ
ル點ノ近傍ニ二個ノ地板ヲ埋設シ且四「ヴォルト」以下ノ電壓ヲ
用キテ兩地板間ニ二「アマムペ」以上ノ電流ヲ發セシムル機之ヲ
施設シ少クモ毎月一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ
前項ノ接地點ハ金屬體ヨリ六尺以上ヲ隔ツル所ニ施設シ埋設ス
ヘキ地板ノ距離ハ十間以上ト爲スコトヲ要ス
前二項ニ適合スル地板ノ埋設地ヲ得難キ場合ニハ逓信局長官ノ
認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
第八十七條 電車線及之ニ接続スル電路中絶縁シタル部分ノ絶縁
力ハ其ノ漏洩電流鐵道一里ニ付一「アンペア」ノ三十分ノ一ヲ經
過セサル様維持スヘシ若其ノ漏洩電流鐵道一里ニ付一「アンペ
ア」ヲ超過シ二十四時間ヲ過クルモ之ヲ除去スルコト能ハサル
トキハ直ニ電車ノ運轉ヲ中止スヘシ
高壓電路ノ架空部分及絶縁電路ノ地中ニ施設シタル部分ノ大地
トノ絶縁力ニ付テハ第六十九條第一項ノ規定ヲ準用ス
土地ノ狀況ニ依リ危險又ハ障害ノ虞ナシト認ムル場合ニハ逓信
局長官ノ認可ヲ受ケ前二項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
第八十八條 前條第一項ノ漏洩電流ハ毎日一回使用最大電壓ヲ用
キ、前條第二項ノ絶縁力ハ毎月一回之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録
スヘシ

第八十九條 歸線ト金屬體トノ電氣的接続ヲ爲スノ必要アル場合
ニハ金屬體所有者ノ承諾ヲ得タル後逓信局長官ニ認可ヲ申請ス
ヘシ其ノ接続ハ最モ良好ニシテ且容易ニ之ヲ點檢シ得ル様施設
シ三月毎ニ一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記録スヘシ
第九十條 電車線ハ十町以内ノ區劃ニ分テ非常其ノ他道路ニ故障
ノ起リタル場合ニ於テ容易ニ送電ヲ遮斷シ得ル様施設スヘシ但
シ土地ノ狀況ニ依リ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ此ノ制限ニ依ラザ
ルコトヲ得
第九十一條 架空ノ電車線ニハ其ノ上部二尺以上ノ距離ニ於テ完
全ニ接地シタル強力ナル金屬線ヲ架設シ若ハ他ノ適當ナル方法
ヲ設ケ電信線、電話線又ハ電氣信號線トノ電氣的混觸ヨリ生ス
ル危險ヲ豫防スヘシ但シ電車線ノ上部ニ於テ之ト交叉若ハ接近
シテ電信線、電話線又ハ電氣信號線ノ架設ヲキ場所ニ在リテハ
其ノ架設ニ至ル迄此ノ裝置ヲ爲ササルコトヲ得
前項ノ金屬線ハ二條以上ニシテ其ノ相互間ノ距離ハ二尺五寸以
下、其ノ電車線ノ外部ニ張出スル距離ハ一尺以上ト爲スヘシ尙
單線式電氣鐵道ニ在リテハ其ノ金屬線ト大地トノ抵抗ハ電車線
ト金屬線ト混觸ヲ生スルトキ直ニ電車線ニ送電スル電路ノ自働
遮斷器ヲシテ動作セシムルモノナルコトヲ要ス
危險ノ虞ナシト認ムル場合ニハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ前二項
ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
第九十二條 電車線ニ使用スル電氣ハ直流式低壓ナルコトヲ要ス

但シ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ高壓又ハ交流式ノ電氣ヲ使用スル
コトヲ得
第九十三條 電車内ニ施設スル電線ニ付テハ第七十二條乃至第七
十七條ノ規定ヲ準用ス
第九十四條 電車ニハ特別ノ場合ヲ除クノ外其ノ前部及後部ニ制
御機ヲ設クヘシ
第九十五條 電車ハ使用前及使用開始後少クモ一年毎ニ一回電動
機其ノ他ノ各部ヲ檢査シ同時ニ電氣上ノ試驗ヲ爲シ其ノ成績ヲ
記録スヘシ一年内ト雖重要ナル修繕ヲ施シタルトキ亦同シ
第九十六條 毎日運轉スル電車數及其ノ使用スル最大ノ電流及電
壓ハ之ヲ記録スヘシ
第六章 監査、試験、改修及停止並許可、
認可ノ失效及取消
第九十七條 逓信局長官ハ吏員ヲシテ電氣工作物若ハ事業經營ノ
實況ヲ監査セシメ又ハ電氣事業者ニ命シ現ニ使用シ若ハ使用セ
ムトスル機械、器具及物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試験ヲ爲ス
コトアルヘシ
前項ノ監査ニ係ル試験費用又ハ見本運搬ニ要スル費用並試験ニ
因リ生スル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス
第九十八條 逓信局長官ハ電氣事業者ノ施設ニ係ル工作物ニシテ
他ニ損害ヲ及ボシ又ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ其ノ改修、
撤去又ハ使用ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ

第九十九條 左ノ場合ニハ電氣事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
一 指定期間内ニ第十三條工事施行認可ノ申請ヲ爲ササルトキ
二 指定期間内ニ第十三條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ著手セサル
トキ
第一百條 左ノ場合ニハ朝鮮總督ハ許可又ハ認可ヲ取消スコトアル
ヘシ
一 六月以上送電ヲ中止シタルトキ
二 指定期間内ニ第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事
ニ著手セサルトキ
三 第十三條、第十六條又ハ第十九條ノ認可ヲ受ケタル工事ヲ
落成期限内ニ落成セシメサルトキ
第一百一條 主任技術者ノ曠缺スルコト四月以上ニ亘ルトキハ朝鮮
總督ハ其ノ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作
物ノ使用ヲ假止スルコトアルヘシ
第一百二條 前二條ノ外電氣事業者本令ノ條項ニ違背シ又ハ本令ニ
依リテ發スル命令ヲ遵守セサルトキハ朝鮮總督ハ電氣事業ノ許
可若ハ認可ヲ取消シ又ハ其ノ電氣工作物ノ使用ヲ停止スルコト
アルヘシ
第一百三條 電氣事業者使用認可證ノ下付ヲ受ケタル日ヨリ六月以
内ニ其ノ電氣工作物ヲ使用セサルトキ又ハ六月以上其ノ使用ヲ
中止スルトキ若ハ使用ヲ廢止シタルトキハ其ノ使用認可證ヲ下
付シタル官廳ニ於テ其ノ電氣工作物ノ撤去ヲ命スルコトアルヘ

シ電氣事業者電氣事業ヲ廢止シ又ハ電氣事業ノ許可若ハ認可ヲ取消サレタル場合亦同シ

第七章 罰 則

第四百條 第十條又ハ第十二條ノ許可ヲ得ス又ハ第十三條、第十五條、第十六條、第十九條若ハ第二十一條ノ認可ヲ受ケスシテ其ノ工事ニ著手シタル者、第二十七條ノ許可ヲ受ケスシテ電氣事業ヲ讓渡若ハ讓受シタル者、第三十條ノ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタル者並第十八條、第二十二條、第二十三條、第三十八條、第七十八條若ハ第九十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五百五條 左ニ掲ケル者ハ科料ニ處ス

- 一 第十五條、第十六條、第二十條、第二十一條、第二十四條乃至第二十七條、第三十五條、第四十條又ハ第四十二條ノ届出ヲ爲ササル者
- 二 第三十條ノ書類又ハ圖面ノ提出ヲ爲ササル者
- 三 第八十九條ノ認可ヲ受ケスシテ同條規定ノ施設ヲ爲シタル者
- 四 第五十四條、第五十六條、第六十四條、第六十五條、第六十八條、第七十一條、第七十九條乃至第八十一條又ハ第八十七條ノ規定ニ違反シタル者
- 五 第六十九條、第七十七條、第八十五條、第八十六條、第八十八條、第八十九條、第九十五條又ハ第九十六條ノ記録ヲ爲ササル者

ササル者

第八章 官廳施設電氣事業

第六條 官廳ニ於テ電氣事業ヲ施設セムトスルトキハ工事施行前第十五條ニ準シ書類及圖面ヲ朝鮮總督ニ提出スヘシ其ノ書類及圖面中ノ事項ヲ變更スル場合亦同シ

第七條 前條ノ電氣事業ニ關スル電氣工作物落成シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ報告シ其ノ使用ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 第六條ノ電氣事業ニ關シテハ第二十四條、第二十五條、第四十三條乃至第六十五條、第六十七條乃至第七十七條、第八十一條乃至第九十六條ノ規定ヲ準用ス

附 則

第九條 本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第十條 本令施行ノ際既ニ施設シ又ハ現ニ使用スル電氣工作物ハ本令ニ依リ其ノ施設使用ヲ許可又ハ認可セラレタルモノト看做ス
前項ノ電氣工作物中本令ノ規定ニ適合セサルモノアルトキハ電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ三年内ニ本令ノ規定ニ適合セシメ朝鮮總督ニ届出ツヘシ但ノ三年ノ期間内ト雖第六十六條及第九十八條ニ依ル命令ノ效力ヲ妨ケス
第十一條 前條ノ工作物ヲ有スル電氣事業者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ其ノ電氣工作物ニ付第十四條第一項又ハ第二項ニ該

當スル事項、改修ヲ要スル事項、改修ノ方法及期限ヲ詳記シ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

朝鮮總督ハ前項ノ改修方法ヲ指定シ又ハ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第一百十二條 本令施行前電氣事業ノ許可又ハ認可ヲ受ケタル者ニシテ未タ其ノ工事ニ著手セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ第十四條第一項又ハ第二項ニ該當スル事項ヲ詳記シ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ其ノ工事ニ著手シ未タ落成セタルモノ亦同シ

〇瓦斯事業取締規則

大正九年六月二十六日 府令第九〇號

第一條 本令ニ於テ瓦斯又ハ動力用事業ト稱スルハ一般ノ需用ニ應ジ導管ニ依リ燈用熱用ニ供スル瓦斯ヲ供給スル事業ヲ謂フ

- 第二條 瓦斯事業ヲ經營セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ具シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ
- 一 事業者ノ商號又ハ名稱及本店ヲ設置スヘキ地
- 二 事業資金ノ總額
- 三 瓦斯ノ種類、瓦斯製造方式及瓦斯供給方式
- 四 供給區域
- 五 瓦斯製造所ノ位置
- 六 工事費概算及事業上ノ收支概算

前項第四號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル後同條第一項第二號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ニ認可ヲ申請スヘシ

前條第一項第一號又ハ第六號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

前條ノ許可ヲ受ケタル會社發行人ハ會社成立シタルトキハ直ニ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第四條 第二條ノ許可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類及圖面ヲ具シ朝鮮總督ニ工事施行ノ認可ヲ申請スヘシ

- 一 瓦斯製造所ノ周圍二町以内ノ平面圖 建設物道路等ノ狀況ヲ記載スヘシ
- 二 瓦斯ノ製造及精製ニ要スル主要設備 瓦斯溜及コイルター
- 三 瓦斯製造所建物ノ構造
- 四 瓦斯ノ製造及精製ニ要スル機械器具ノ構造及裝置
- 五 壓力制整機ノ構造及裝置
- 六 瓦斯溜及コイルターノ溜ノ構造
- 七 導管ノ種類、厚サ、口徑及其ノ敷設方法
- 八 瓦斯遮斷器及獲水器ノ構造
- 九 導管ノ幹管及枝管管理設圖 瓦斯遮斷器及獲水器ノ位置ヲ表示シ他ノ瓦斯管、地中電線、水道管、下水道其ノ他ノ地中工作物トノ關係及其ノ相互間ノ距離ヲ記入シタル縮尺圖
- 十 瓦斯ノ最高壓力及一晝夜間ニ於ケル壓力變更ノ程度

十一 工事費豫算

十二 竣工期限

前項第三號乃至第八號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ
第一項ノ認可申請ハ第二條ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ
得

朝鮮總督ニ於テ正當ト理由アリト認ムルトキハ瓦斯事業者ノ申
請ニ依リ第一項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ

第五條 工事施行ノ認可ヲ受ケタル後前條第一項第二號乃至第八
號、第十號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總
督ニ認可ヲ申請スヘシ

前條第一項第九號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ニ認
可ヲ申請スヘシ但シ需用者構内又ハ瓦斯製造所構内ニ限ル變更
ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一項第十一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ直ニ之ヲ朝鮮總
督ニ届出ツヘシ

第六條 導管ノ幹管又ハ枝管ヲ撤去シタルトキハ直ニ之ヲ地方長
官ニ届出ツヘシ但シ需用者構内又ハ瓦斯製造所構内ニ限ル撤去
ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 水火災其ノ他ノ原因ニ因リ瓦斯工作物ヲ滅失又ハ損壞シ
タル場合ニ於テ復舊又ハ修理ノ工事ヲ爲サムトスルトキハ直ニ
之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第八條 瓦斯事業者第四條ノ認可ヲ受ケタルトキハ指定ノ期間内

ニ工事ニ着手スヘシ

朝鮮總督ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ瓦斯事業者ノ申
請ニ依リ前項ノ期間ヲ伸長スルコトアルヘシ

第九條 瓦斯事業者第四條又ハ第五條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ着
手シタルトキハ直ニ認可ヲ受ケタル官廳ニ届出ツヘシ其ノ竣工
シタルトキ亦同シ

第七條ニ規定スル工事竣工シタルトキハ直ニ地方長官ニ届出ツ
ヘシ

第十條 前條ニ依リ届出ヲ要スル瓦斯工作物ハ朝鮮總督府逓信局
長又ハ地方長官ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ
得ズ但シ第七條ニ規定スル工事竣工ノ場合ニ限リ竣工ノ日ヨリ
六十日ヲ限リ認可ヲ受ケスシテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十一條 左ノ場合ニハ瓦斯事業者ハ直ニ其ノ事項ヲ具シ朝鮮總
督府逓信局長ニ届出ツヘシ

一、營業所又ハ事務所ヲ設置シ又ハ變更シタルトキ

二、事業ヲ開始シタルトキ

第十二條 瓦斯事業者ハ料金其ノ他瓦斯供給ノ條件ヲ定メ朝鮮總
督ニ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ニ對シ料金ノ
制限其ノ他瓦斯供給ノ條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトアル
ヘシ

第十三條 瓦斯事業者ハ需用者ニ對シ正當ノ理由ナクシテ瓦斯ノ

供給ヲ拒絕スルコト得ス

第十四條 瓦斯事業者ハ每事業決算期ニ於テ瓦斯事業報告書ヲ調
製シ朝鮮總督府逓信局長ニ届出ツヘシ但シ決算期ノ定メナキモ
ノハ一年毎ニ届出ツヘシ

第十五條 瓦斯事業ニ因リ災害其ノ他故障ヲ生シタルトキ又ハ之
カ爲瓦斯ノ供給ヲ中止シタルトキハ其ノ日時、場所、原因其ノ
他必要ナル事項ヲ具シ直ニ地方長官ニ届出ツヘシ瓦斯ノ供給ヲ
復舊シタルトキ亦同シ

第十六條 朝鮮總督ハ當該官吏ヲシテ瓦斯工作物又ハ事業經營ノ
實況ヲ監査セシムルコトアルヘシ

第十七條 朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ヲシ
テ其ノ費用ヲ以テ瓦斯工作物又ハ瓦斯成分、壓力、光力若ハ熱
力ニ關シ必要ナル試験ヲ行ハシムルコトアルヘシ

第十八條 朝鮮總督ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業者ニ對
シ瓦斯工作物ノ改修、撤去若ハ使用ノ假止ヲ命シ又瓦斯ノ成
分、壓力、光力若ハ熱力ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトアル
ヘシ

第十九條 地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ瓦斯事業ノ實況
ヲ監査シ且危險急迫ノ場合ニ在リテハ瓦斯事業者ニ對シ保安上
必要ナル措置ヲ命スルコトアルヘシ

第二十條 瓦斯事業者瓦斯事業ヲ讓渡サムトスルトキハ當事者連
署ノ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ讓渡ヲ爲シタルトキハ當事者ヨリ直ニ朝鮮總督府逓信局
長ニ届出ツヘシ瓦斯事業ヲ相續シタルトキ亦同シ

第二十一條 瓦斯事業ヲ讓受又ハ相續シタル者ハ讓渡人又ハ被相
續人カ本令ニ依リテ有スル權利義務ヲ承繼ス

第二十二條 瓦斯事業者經營スル會社ノ合併ニ付テハ前二條ノ規
定ヲ準用ス

第二十三條 瓦斯事業者ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ事
業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二十四條 瓦斯事業者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ事
業ノ全部又ハ一部ノ休止ヲ爲スコトヲ得ス

第二十五條 瓦斯事業者ハ學識經驗アル主任技術者ヲ選任シ技術
ニ關スル事項ヲ擔任セシムヘシ

第二十六條 瓦斯事業者主任技術者ヲ選任又ハ改任シタルトキハ
直ニ履歴書ヲ添ヘ朝鮮總督府逓信局長ニ届出ツヘシ

朝鮮總督府逓信局長ハ不適任其ノ他ノ事由ニ因リ主任技術者ノ
改任ヲ命スルコトアルヘシ

第二十七條 左ノ場合ニハ瓦斯事業ノ許可ハ其ノ效力ヲ失フ
一 指定ノ期間内ニ第四條ノ認可ノ申請ヲ爲ササルトキ

二 指定ノ期間内ニ第四條ノ認可ヲ受ケタル工事ニ着手セサルト
キ

第二十八條 左ノ場合ニハ朝鮮總督ハ瓦斯事業ノ許可ノ全部又ハ
一部ヲ取消スコトアルヘシ

一 不實ノ申告ヲ爲シテ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキ
 二 六月以上瓦斯ノ供給ヲ休止シタルトキ
 三 竣功期限内ニ第四條又ハ第五條ノ認可ヲ受ケタル工事竣功セザルトキ

第二十九條 前條ノ外瓦斯事業者本令又ハ本令ニ依リテ發スル命令ニ違反シ其ノ他公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ瓦斯事業ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第三十條 本令ニ依リテ許可、認可又ハ届出ニ關スル書類及圖面中技術ニ關スルモノニハ主任技術者之ニ署名捺印スヘシ主任技術者ノ選任前ニ在リテハ擔當技術者之ヲ署名捺印スヘシ

第三十一條 朝鮮總督、朝鮮總督府選信局長又ハ地方長官ハ許可若ハ認可ニ條件ヲ附シ又ハ必要ト認ムル書類若ハ圖面ヲ提出シ命スルコトアルヘシ

第三十二條 本令ニ依リ朝鮮總督又ハ朝鮮總督府選信局長ニ書類又ハ圖面ヲ提出スヘキ場合ハ同時ニ其ノ副本ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第三十三條 地方長官ハ許可、認可若ハ命令シタル事項又ハ瓦斯事業者ヨリ届出タル事項ヲ其ノ都度朝鮮總督府選信局長ニ報告スヘシ

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 本令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケテ爲スヘキ事項ヲ許可若ハ

認可ヲ受ケスシテ爲シ又ハ許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

二 不實ノ申告ヲ爲シテ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキ
 三 本令ノ規定ニ依リ監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキ
 四 第十三條ニ違反シタルトキ
 第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 本令規定ニ依リ監督ヲ拒ミ又ハ之ヲ妨ケタルトキ
 二 本令ノ規定ニ依リ届出ヲ怠リ又ハ不實ノ届出ヲ爲シタルトキ

附 則

本令ハ大正九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ瓦斯事業ヲ經營スル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス其ノ現ニ使用スル瓦斯工作物ハ本令ニ依リ使用ヲ認可セラレタルモノト看做ス

前項ノ瓦斯事業者ハ本令施行ノ日ヨリ三月内ニ第二條第一項第一號乃至第五號及第四條第一項第一號乃至第十號ノ事項ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

○朝鮮電信線電話建設令
 大正七年七月三日
 朝鮮總督

電信線電話線ノ建設ニ關シテハ本令ニ規定スルモノヲ除クノ外電信線電話線建設條例ニ依リ但シ同條例中選信省トアルハ朝鮮總督

府、市町村長トアルハ府尹郡守島司トス

電信線電話線建設條例第八條第一項ノ評定ニ不服アル者ハ其ノ評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一月内ニ地方長官ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

○電信電話維持委託規則

大正八年三月三十日 府令第四四號

第一條 電信電話ノ施設者ハ本令ニ依リ電信電話ノ維持ヲ朝鮮總督府選信局(以下單ニ選)ニ委託スルコトヲ得

第二條 電信電話ノ維持ヲ委託セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ差出シ朝鮮總督府選信局長官(以下單ニ選信)ノ承認ヲ受クヘシ

一 電信電話ノ線路ノ回線方式、回線數、延長、線路ノ種類及經過地名

二 電信電話ノ機械、器具又ハ電池ノ種類、箇數及設置場所

第三條 維持委託者ハ左ノ區別ニ依リ維持料ヲ納ムヘシ

一 電信電話ノ線路

一回線ノ線路 單線部分年額 一圓五十錢
 條延長一町式 複線部分年額 一圓三十錢
 迄每ニ 複線式 同 一圓三十錢

單線式ノ複線部分ニ於ケル一町未滿ノ端數ハ之ヲ單線部分ノ線條延長ニ併算シ同一邸宅内又ハ構内ヲ出テサル回線ハ二回線以上ト雖之ヲ一回線ト看做シ計算ス

二、電信機 屋内ノ線條及附屬物品ヲ含ム 一箇每ニ 年額 二十四圓

三、電話交換機 屋内ノ線條及附屬物品 一箇 每ニ 接續回線五回線迄ハ年額 二十四圓接續回線五回線ヲ超過スルトキハ超過回線一回線毎ニ二圓ヲ附加ス

四、電話機 屋内ノ線條及附屬物品 每ニ 普通年額八圓 甲號年額十圓 乙號年額十二圓

五、電池 一箇每ニ 十箇迄ハ年額一圓五十錢十箇超過スルトキハ其ノ超過スル分ハ年額一圓二十錢

六、電 鈴 一箇每ニ 年額 一圓二十錢

七、受話器 一箇每ニ 筒形又ハ時計形年額 一圓二十錢 形年額 三圓五十錢

第四條 維持料ハ年額ヲ四分シ左ノ四期ノ別ニ從ヒ每期分ヲ其ノ期ノ初日ヨリ十日迄ニ選信局長官ノ指定スル郵便局ニ之ヲ納ムヘシ但シ次期以降ノ分ヲ前納スルコトヲ得

第一期 四月一日ヨリ六月三十日迄
 第二期 七月一日ヨリ九月三十日迄
 第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日迄
 第四期 一月一日ヨリ三月三十一日迄

前項料金ハ官廳ニ限リ後納ト爲スコトヲ得

第五條 前條各期ノ中途ニ於テ新ニ維持委託シタルトキハ其ノ

期ノ維持料ノ事實發生ノ日ヨリ起算シ其ノ期ノ末日ニ至ル迄ノ日數ニ應シ一期分料金額ヲ日割ヲ以テ計算シ事實發生ノ日ヨリ十五日内ニ之ヲ納ムヘシ維持料ノ増加スヘキ事實發生シタル場合ニ於テ其ノ維持料ノ増加額ニ付亦同シ

第六條 第四條各期ノ中途ニ於テ維持料ヲ減少スヘキ事實ノ發生シ又ハ委託ヲ廢止シタル場合ト雖モ其ノ期ノ維持料ハ之ヲ減免セス

第七條 維持料ノ減少ヲ生スヘキ事實ノ發生シタル場合ニ於テ前納シタル料金アルトキハ次期以降ノ分ニ限リ納付人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第八條 電信電話ノ線路ノ土地使用料ハ維持委託者ノ負擔トス

第九條 維持上必要ニ因リ線路又ハ機械ノ移轉ヲ要スルトキハ維持ノ委託ヲ受ケタル線路ヲ延長又ハ短縮スルコトアルヘシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル工事、補充及修繕ハ逕信局長官ノ指示ニ從ヒ維持委託者之ヲ施行スヘシ

一 維持上ノ必要ニ因フサル線路又ハ機械ノ移轉、變更等ニ要スル工事

二 屋内ノ線條、機械、器具其ノ他附屬物品ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於ケル補充又ハ修繕但シ使用ニ依リ自然毀損シタルモノノ修繕ヲ除ク

三 非常災害ニ因リ電信電話ノ線路ノ著シキ損害ノ復舊工事維持委託者ハ物品、勞力其ノ他ノ費用ヲ負擔シテ前項ノ工事補充又ハ修繕ヲ逕信局長官ニ委託スルコトヲ得

前項ノ委託ヲ受ケタル場合ニ於テ逕信局長官必要ト認ムルトキハ官品ヲ使用シ其ノ費用ヲ納メシムルコトアルヘシ

第十一條 維持委託ヲ廢止セムトスルトキハ十五日以前ニ維持料納付ノ郵便局ヲ經テ逕信局長官ニ申出ツヘシ

第十二條 官廳用又ハ軍用ノ電信電話ニシテ特種ノ事由アリト認ムルモノニ限リ逕信局長官ハ前各條ノ規定ニ拘ラス維持ノ委託ヲ受ケルコトヲ得

第十三條 逕信局長官廳用又ハ軍用ノ電信電話機、及電氣機械、器具ノ修繕ノ委託ニ應スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ委託者其ノ工費ヲ納ムヘシ

第十四條 維持委託ヨリ生スル事項ニ付テハ政府ハ損害賠償ノ責任ヲ任セス

附 則
本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
官廳用、軍用及私設電信電話並特設電話維持規程ハ之ヲ廢止ス
本令施行前爲シタル電信電話ノ維持委託ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

○私設電信電話規則

明治十四年十二月九日
府令第一三九號
改正 明治十五年四月一日
府令第八六號 府令第一二四號

第一條 電信法第二條第二號ニ依ル私設ノ電信又ハ電話ハ左ニ列記スル事業ノ専用ニ供スルモノニ限ル

一 鐵道、輕便鐵道又ハ軌道ノ事業

二 運河、水利、水防、火防、水道、水難救護及氣象觀測ノ事業

三 高壓及特別高壓ノ電氣ノ使用スル電氣事業

四 前各號ノ外特ニ私設ノ電信又ハ電話ノ施設ヲ必要トスル事業

第二條 電信法第二條第五號ニ依ル私設ノ電信又ハ電話中一營業ノ専用ニ供スルモノハ營業所相互間又ハ營業所ト之ヲ管理スル者ノ住宅ニ間ニ施設スルモノニ限ル

第三條 私設ノ電信又ハ電話ヲ施設セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

一 施設ヲ必要トスル事由

二 電信又ハ電話ノ別及其ノ回線

三 機械設置ノ場所 道府郡而洞、統戶番地等及線路經過地名

四 落成期限

前項第二號及第三號ノ事項ハ別ニ圖面ヲ以テ之ヲ表示スヘシ

第四條 前條第一項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

第五條 私設ノ電信又ハ電話ノ工事落成シタルトキハ七月以内ニ左ノ事項ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

一 工事落成年月日

二 工事設計圖、種ノ種ノ及箇數、線路ノ巨長、架空線、地下線、並保安裝、水底線ノ別、回線ノ方式、線路ノ種類大サ、延長ノ方法

前項第二號ノ事項ヲ變更シタルトキハ更ニ前項ニ例ニ依リ届出ツヘシ

第六條 私設ノ電信又ハ電話ヲ讓渡サムトスルトキハ繼續施設ヲ必要トスル事由ヲ記載シ當事者ヨリ朝鮮總督ニ許可ヲ申請スヘシ

私設ノ電信又ハ電話ノ讓渡ヲ終了シタルトキハ七月以内ニ當事者ヨリ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第七條 公衆通信ノ用ニ供スル私設ノ電信又ハ電話ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用ヲ廢止シ又ハ中止スルコトヲ得ス

前項以外ノ私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ其ノ旨ヲ朝鮮總督ニ届出ツヘシ

第八條 電信法第二條第四號ニ依ル私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ開始、廢止又ハ中止セムトスルトキハ其ノ施設者ヨリ十五日以前ニ逕信局長官ニ届出ツヘシ

第九條 私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ廢止シタルトキハ特ニ期間

ノ指定ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外三十日以内ニ線路及機器ヲ撤去スヘシ其ノ許可ノ效力ヲ失ヒ又ハ之ヲ取消サレタルトキ亦同シ

私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ中止シ一年以上ニ及ヒタルトキハ之ヲ廢止シタルモノト看做ス

第十條 市街地ノ道路ニ架設スル私設ノ電信又ハ電話ノ電線ハ左ノ制限ニ依ルヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ朝鮮總督府逓信局長官ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 道路ノ兩側ニ跨ラス其ノ一側ニ架設スルコト

二 道路ノ一側ニ架空ノ電信線、電話線其ノ他電氣信號線アルトキハ其ノ同側ニ若其ノ一側ニ架空ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線アルトキハ他ノ一側ニ架設スルコト

第十一條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ他ノ電信線、電話線又ハ電氣信號線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ノ承諾ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外二尺以上離隔スヘシ

第十二條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ低壓若ハ高壓ノ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキハ三尺以上離隔スヘシ但シ工地上已ムヲ得サル場合ニ於テハ二尺迄ニ短縮スルコトヲ得

私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ特別高壓ノ電線ト交叉シテ架設スルトキハ其ノ下部ニ於テ三尺以上離隔シ又接近シテ架設スルトキハ建設スヘキ電柱ヲ其ノ地表上高ノ一倍半以上離隔スヘシ

特別ノ事由ニ依リ私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ低壓又ハ高壓電線ノ電柱ニ添架スルトキハ二尺以上、特別高壓電線ノ電柱ニ添架スルトキハ四尺以上各其ノ最低電線ヨリ下部ニ離隔スヘシ前各項ニ依リ難キ事由アルモノハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ其ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第十三條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ電燈、電力又ハ電氣鐵道用架空電線ト交叉若ハ接近シテ架設スルトキ又ハ其ノ電柱ニ添架スルトキハ左ノ裝置ヲ施スヘシ其ノ既ニ架設シタル後ニ於テ交叉、接近若ハ添架ノ場合ヲ生シタルトキ亦同シ

一 低壓又ハ高壓電線ニ在リテハ電信又ハ電話線ノ機械ニ接続スヘキ屋内引込口ニ於テ五「アムペア」以下ニテ溶解スル安全器、三百「ヴォルト」ニテ放電スル避雷器及二百五十「ミリアマペア」以下ニテ動作スル熱線輪ヲ設備スルコト

二 特別高壓電線ニ在リテハ逓信局長官ノ認可ヲ受ケ適當ノ保安裝置ヲ施スコト

第十四條 屋内ニ布設スル私設ノ電信又ハ電話ノ電線ハ電燈、電力又ハ電氣鐵道用電線ト完全ニ離隔シ且電氣的混觸ヲ豫防スヘシ

第十五條 私設ノ電信又ハ電話ノ電線ヲ他ノ電線ト其ノ上部ニ於テ交叉シ又ハ三尺以内ノ距離ニ接近シテ架設スルトキハ工事者手前ニ其ノ電線ノ所有者又ハ管理者ニ通知スヘシ其ノ既ニ架設シタルモノヲ修理シ若ハ撤去スルトキ亦同シ

第十六條 私設ノ電信又ハ電話ノ電柱ニハ施設者名及電柱ノ番號ヲ表記スヘシ

第十七條 電信法第二條第四號ニ依ル施設ノ電信又ハ電話ノ連接電信官署内ニ於ケル工事並維持ハ朝鮮總督府逓信局之ヲ隸行ス前項ニ依ル私設ノ電信又ハ電話ノ施設者ハ逓信局ノ指示スル所ニ從ヒ其ノ設備ニ要スル物件及勞力ヲ供給シ且官廳用、車用及私設電信電話並特設電話維持規程ニ依リ其ノ維持ニ要スル料金を納付スヘシ

第十八條 朝鮮總督ハ私設ノ電信又ハ電話ノ施設カ他ニ障害ヲ及ボシ若ハ危險ノ虞アリト認ムルトキハ改修又ハ特別ノ施設ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條 逓信局長官ハ隨時吏員ヲシテ私設ノ電信又ハ電話ノ裝置方法又ハ通信ノ狀況等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第二十條 私設ノ電信又ハ電話ノ施設者本令ノ規定又ハ本令ニ依リ發スル命令ニ違反シタルトキハ私設ノ電信又ハ電話ノ使用ヲ停止シ又ハ其ノ許可ヲ取消スルコトアルヘシ

第二十一條 本令ニ依リ朝鮮總督ニ提出スル書類ハ總テ逓信局長官ヲ經由スヘシ但シ道路ニ電柱ヲ建設スル場合ニ於テハ所轄警察署長、警察分署長及警察署ノ事務ヲ取扱フナ經由スヘシ警察署長ハ警察部長、道長官ヲ經テ之ヲ逓信局長官ニ送附スヘシ

第二十二條 第四條、第六條第一項若ハ第七條第一項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 第五條、第六條第二項第三項若ハ第七條第二項ノ届出ヲ爲ササル者、第十五條ノ通知ヲ爲ササル者又ハ正當ノ事由ナクシテ第十九條ノ検査ヲ拒ミタル者ハ科料ニ處ス

第二十四條 電信法第二條第一號ノ私設ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第三條乃至第七條、第九條、第十條、第十六條及第二十一條ノ規定ヲ適用セス

第二十五條 電信又ハ電話ニ依ラサル信號ノ爲施設スル電線ニ關シテハ第十條乃至第十六條、第十八條乃至第二十條及第二十三條ノ規定ヲ準用ス

正午時ノ通報ヲ受ケル爲電信官署トノ間ニ施設スル電線ニ關シテハ前項ノ外第三條乃至第九條、第十七條、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ準用ス

附 則
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○私設電信電話規則改正ニ關スル件

明治四十五年六月二十一日
逓信部 第二一九號

改 務 總 監

各道長官宛

今般私設電信電話規則第二十一條改正セラレ同規則ニ依リ總督ニ提出スヘキ書類ノ貴廳經由ヲ要スル場合ヲ規定相成候ニ就テハ該規定ニ依ル書類ノ提出ヲ受ケタルトキハ道路使用ノ點ニ對シ支障

ノ有無調査ノ上意見ヲ付セラレ度爲念此段及通牒候也

○官廳用電信電話規則

明治四十四年十一月九日 府令第一四〇號

- 第一條 官廳方事務執行ノ爲電信又ハ電話ヲ施設スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ依ル
- 一 構内ニ施設スルモノ
- 二 警察事務及刑事訴訟事務ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 三 私設電信電話規則第一條ニ掲クル事業ノ専用ニ供スル爲施設スルモノ
- 四 電報送受ノ目的ヲ以テ電信官署トノ間ニ施設スルモノ
- 第二條 前條ノ電信又ハ電話ニシテ鐵道所屬ノモノ及公衆通信ノ用ニ供スル電信電話ナキ地ニ施設シタルモノ並當該官廳ノ事務執行ニ差支ナキモノハ之ヲ公衆通信ノ用ニ供スルコトアルヘシ
- 第三條 第一條ノ電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信電話規則第三條乃至第七條、第九條乃至第十六條、第十八條、第十九條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス但シ一構内ニ施設スル電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信電話規則第三條乃至第七條、第九條、第十條、第十六條及第二十一條ノ規定、鐵道事業ノ専用ニ供スル爲鐵道所屬地内ニ施設スル電信又ハ電話ニ關シテハ私設電信電話規則第三條、第四條、第六條、第九條及第十條ノ規定ヲ準用セ
- 鐵道事業ノ専用ニ供スル電信又ハ電話ニシテ鐵道所屬地内ニ施設スルモノ

設スルモノ私設電信電話規則第五條ノ届出チ爲ス場合ニハ同規則第三條第一項第二號及第三號ノ事項ヲ記載シタル書類及圖面ヲ添付スヘシ

- 第一條 第四號ノ電信又ハ電話ニ關シテハ第一項ノ外私設電信電話規則第八條及第十七條ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 官廳ニ於テ電信又ハ電話ニ依ラサル信號ノ爲施設スル電線ニ關シテハ私設電信電話規則第十條乃至第十六條、第十八條及第十九條ノ規定ヲ準用ス
- 正午時ノ通報ヲ受クル爲電信官署トノ間ニ施設スル電線ニ關シテハ前項ノ外私設電信電話規則第三條乃至第九條、第十七條及第二十一條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○巨樹名木ノ保護ニ關スル件

大正五年六月二十日 官廳發第九五號

政務總 監

各道長官宛

巨樹名木又ハ史蹟ニ關係アル樹木ハ學術、風致、歴史其ノ他諸種ノ關係上保存ヲ要スルコト勿論ニシテ一度失フトキハ復タ之ヲ得難ク洵ニ禁養樹ノ好標本タリ熟ルニ近時往往家屋ノ建造其ノ他ノ機會ニ際シ截伐セララルノミトラス愚民迷信ノ打破ニ籍口シ徒ラニ之カ毀損若ハ截伐ヲ爲ス者アルヲ聞クハ甚タ遺憾トスル所ニ有

之自今此等ノ樹木ハ力メテ之カ保存ヲ圖リ其ノ保護ニ關シテ警察官憲ト協力シ天然紀念物保存ノ實ヲ擧グル様留意可相成及通牒候也

○朝鮮總督府報告例

大正五年十一月二十日 府令第一二〇號

改正 大正二年十二月 大正三年九月 大正四年十一月 大正五年十二月 大正六年十二月 大正七年十二月 大正八年十二月 大正九年十二月 大正十年十二月 大正十一年十二月 大正十二年十二月

- 第一條 朝鮮總督府所屬官署ノ長ハ別冊ニ定ムル所ニ依リ朝鮮總督ニ報告ヲ爲スヘシ
- 第二條 報告ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外左ノ期限内ニ提出スヘシ
- 一 即時 即時
- 二 日報 即日
- 三 月報 翌月十五日
- 四 季報 四月、七月、十月翌年一月ノ末日
- 五 半年報 十月及翌年四月ノ末日
- 六 年報 曆年調ハ翌年二月末日、年度調ハ翌年度五月末日
- 第三條 報告ニシテ重大且急ヲ要スルモノハ電信、電話其ノ他急速ノ方法ヲ以テ其ノ概略ヲ報シタル後詳細ノ報告ヲ爲スヘシ
- 裁判所、同檢事局ノ長及典獄ヨリ提出スヘキ統計報告ハ總テ監督上官ヲ經由スルニ及ハス
- 第四條 報告ニ掲記スヘキ道、府、郡、島ハ別表ノ順序ニ依ルヘシ

シ

第五條 統計表ニシテ二頁ニ巨ルトキハ用紙裏面ノ一行目ニ項目ノ欄ヲ設ケヘシ

第六條 統計表中數位ハ金額ニ在リテハ單位其ノ他ニ在リテハ單位以下三位迄ヲ掲ケ單位ニ「₁₀」ヲ附シ其ノ右傍ニ圓、斤、噸等單位ノ種類ヲ記入シ千位、百萬位等三位毎ニ「₁₀₀₀」ヲ附スヘシ但シ特別ノ定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七條 統計表中計數未詳ノ欄ニ「？」、計數ナキ欄ニ「—」、計數ノ單位ニ違セサル欄ニ「○」、比較減ノ場合ニ「△」ヲ記入スヘシ

第八條 統計表中ノ數ニシテ前回ニ比シ著シキ増減アリタルトキハ其ノ理由ヲ備考欄ニ詳記スヘシ

第九條 報告期ニ至リ調査未済等ノ爲報告ノ延期ヲ要スルモノハ其ノ都度其ノ理由及豫定期日ヲ稟申スヘシ

第十條 報告事項中報告スヘキ事實ナク又ハ調査シ難キ事故アルトキハ報告期ニ於テ其ノ旨ヲ報告スヘシ

第十一條 本令ニ定ムルモノノ外所屬官署ノ長ニ於テ特ニ重大ナルト認ムル事項ハ適宜之ヲ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別冊略)

(別表)

京畿道

京城府 仁川府 高陽郡 廣州郡 楊州郡
 漣川郡 抱川郡 加平郡 楊平郡 驪州郡
 利川郡 龍仁郡 安城郡 振威郡 水原郡
 始興郡 富川郡 金浦郡 江華郡 坡州郡
 長湍郡 開城郡

忠清北道

清州郡 報恩郡 沃川郡 永同郡 鎮川郡
 槐山郡 陰城郡 忠州郡 堤川郡 丹陽郡

忠清南道

公州郡 燕岐郡 大田郡 論山郡 扶餘郡
 舒川郡 保寧郡 青陽郡 洪城郡 禮山郡
 瑞山郡 唐津郡 牙山郡 天安郡

全羅北道

群山府 全州郡 鎮安郡 錦山郡 茂朱郡
 長水郡 任實郡 南原郡 淳昌郡 井邑郡
 高敞郡 扶安郡 金堤郡 沃溝郡 益山郡

全羅南道

瓮津郡 長淵郡 松禾郡 殷栗郡 安岳郡
 信川郡 載寧郡 黃州郡 鳳山郡 瑞興郡
 遂安郡 谷山郡

平安南道

平壤府 鎮南浦府 大同郡 順川郡 孟山郡
 陽德郡 成川郡 江東郡 中和郡 龍岡郡
 江西郡 平原郡 安州郡 价川郡 德川郡
 寧遠郡

平安北道

新義州府 義州郡 龜城郡 泰川郡 雲山郡
 熙川郡 寧邊郡 博川郡 定州郡 宣川郡
 鐵山郡 龍川郡 朔州郡 昌城郡 碧潼郡
 楚山郡 渭原郡 江界郡 慈城郡 厚昌郡

江原道

春川郡 麟蹄郡 楊口郡 淮陽郡 通川郡
 高城郡 襄陽郡 江陵郡 三陟郡 蔚珍郡
 旌善郡 平昌郡 寧越郡 原州郡 橫城郡
 洪川郡 華川郡 金化郡 鐵原郡 平康郡
 伊川郡

水浦府 光州郡 潭陽郡 谷城郡 求禮郡
 光陽郡 麗水郡 順天郡 高興郡 寶城郡
 和順郡 長興郡 康津郡 海南郡 靈岩郡
 務安郡 羅州郡 咸平郡 靈光郡 長城郡
 莞島郡 珍島郡 濟州島

慶尙北道

大邱府 達城郡 軍威郡 義城郡 安東郡
 青松郡 英陽郡 盈德郡 迎日郡 慶州郡
 永川郡 慶山郡 清道郡 高靈郡 星州郡
 漆谷郡 金泉郡 善山郡 尙州郡 聞慶郡
 醴泉郡 榮州郡 奉化郡 鬱陵島

慶尙南道

釜山府 馬山府 宜州郡 宜寧郡 咸安郡
 昌寧郡 密陽郡 梁山郡 蔚山郡 東萊郡
 金海郡 昌原郡 統營郡 固城郡 泗川郡
 南海郡 河東郡 山淸郡 咸陽郡 居昌郡
 陝川郡

黃海道

海州郡 延白郡 金川郡 平山郡 新溪郡

咸鏡南道

元山府 咸興郡 定平郡 永興郡 高原郡
 文川郡 德源郡 安邊郡 洪原郡 北青郡
 利原郡 端川郡 新興郡 長津郡 豐山郡
 三水郡 甲山郡

咸鏡北道

清津府 鏡城郡 明川郡 吉州郡 城津郡
 富寧郡 茂山郡 會寧郡 鍾城郡 穩城郡
 慶源郡 慶興郡

朝鮮總督府統計事務取扱方

大正七年九月 訓令第四百十七號

朝鮮總督府及所屬官署

朝鮮總督府統計事務取扱方左ノ通改正ス

朝鮮總督府統計事務取扱方

第一條 朝鮮總督府官房總務局統計課ニ統計臺帳ヲ備フ

第二條 統計臺帳ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 統計課長ハ統計事務ニ關シ統計主任ト直接交渉ヲ爲スコトヲ得

第三條 統計課長ハ統計事務ニ關シ統計主任ト直接交渉ヲ爲スコトヲ得

第四條 朝鮮總督府各部署ヨリ統計事項ニ關シ外部ト往復ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ統計課長ニ合議スヘシ

第五條 朝鮮總督府所屬官署ニ統計主任ヲ置キ統計ノ検査及整理ヲ擔任セシム

第六條 統計主任ハ所屬官署ノ長ニ於テ奏任官又ハ判任官ノ中ニ就キ之ヲ命シ其ノ官氏名ヲ統計課長ニ通知スヘシ之ヲ免シタルトキ亦同シ

第七條 主務課、係ニ於テ作成シタル統計ハ之ヲ統計主任ニ回付スヘシ

統計主任ハ前項ノ統計ヲ検査シ誤謬アリト認メタルトキハ再調ヲ請求スルコトヲ得

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○統計主任ニ關スル件

大正七年九月 官通第四百十九號

政務總監

各所屬官署長宛

今般訓令第四十七號ヲ以テ統計事務取扱方改正相成候ニ付テハ統計主任及其ノ事務取扱ニ關シ左記ノ通承知可相成及通牒候也

一 統計主任ノ任命異動ハ從來ノ規程ニ依リ通知アリタル者ハ此ノ際殊ニ通知ヲ省略シ得ルモ通知ナキモノニ付テハ速ニ通

知スヘキハ勿論今後ニ於ケル異動ノ場合ハ必通知ノ勵行ヲ期スルコト

一 從來統計主任ノ職務ハ主トシテ統計材料ノ蒐集ニ在リタルモ改正規程ニ於テハ統計主任ハ專統計ノ検査及整理ヲ擔任シ統計ノ正確及統一ヲ期スルニ在ルヲ以テ自今主務課、係ニ於テ作成シタル統計ハ必統計主任ニ回付スルコトトシ統計主任ハ統計ノ文字ノ正畫、脫漏、違算、單位及位符其ノ他比較對照上ニ於ケル増減理由等ノ精密ナル検査及報告期限ノ勵行、甲乙統計表ノ一致ヲ要スル數字ノ符合、區區ニ涉ル統計表ノ整理、統計表新設改廢ノ場合ノ統一、統計年報類ノ編纂等專統計ノ整理統一ヲ掌ラシメ同規程改正ノ趣旨ニ副フルコトニ充分注意ヲ拂フコト

○消防組規則

大正四年六月二十三日 改正 大正六年九月 總督府令第六十五號 府令第六十六號

第一條 警務部長ハ火災ノ警戒防禦ノ爲地域ヲ定メ消防組ヲ設置スルコトヲ得

警務部長消防組ヲ設置セムトスルトキハ組織ニ關スル事項ヲ具シ道長官ノ承認ヲ受クヘシ其ノ廢合ヲ爲サムトスルトキ亦同シ

第二條 消防組ノ組員一人小頭及消防手若干人ヲ以テ之ヲ組織ス但シ必要アルトキハ副組頭ヲ置クコトヲ得

第三條 組頭、副組頭及小頭ハ警務部ニ之ヲ命免ス

消防手ハ警察署長、憲兵分遣所ノ長ヲ含ム以下同シ

第四條 組頭ハ警察署長ノ命ヲ承ケ消防組ノ事務ヲ管理シ組員ノ指揮取締ニ任ス

副組頭ハ組頭ヲ補佐シ小頭ハ組頭、副組頭ノ命ヲ承ケ消防手ヲ指揮ス

組頭事故アルトキハ副組頭又ハ警察署長ノ指定シタル小頭之ニ代ルモノトス

第五條 警察署長ハ消防組ヲ指揮監督ス

消防組員ハ警察官又ハ憲兵ノ指揮ニ從ヒ進退スヘシ但シ火災ニ際シ警察官又ハ憲兵臨場スル迄組頭之ヲ指揮スルコトヲ得

第六條 警察署長ハ消防組ヲシテ其ノ地域外ノ火災ニ應援セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ消防組ハ其ノ火災地ヲ管轄スル警察署長ノ指揮ニ從フヘシ

第七條 警察署長必要ト認ムルトキハ消防組ニ對シ水災其ノ他ノ災害ノ警戒防禦ノ爲出動ヲ命スルコトヲ得

第八條 消防組ハ火災警戒又ハ前條ノ規定ニ依ル場合ニ非サレハ集合若ハ運動ヲ爲スコトヲ得ス但シ儀式、訓練等ノ爲警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 消防組ノ費用ハ府又ハ面ノ負擔トス

第十條 消防組ノ定員、徽章、服裝、給與、賞與及建物、器具器械等ニ關シ必要ナル事項ハ道長官ノ承認ヲ受ケ警務部長之ヲ定ム

附 則

本令ハ大正四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル消防組ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス

○消防組規則施行ニ關スル件

大正四年七月十日 警務部長

消防組規則施行ニ關シテハ左ノ通定ムヘシ

第一條 消防組ノ名稱ハ地名ヲ冠シ組内ヲ數部ニ分ツトキハ之ニ番號ヲ附スヘシ

第二條 消防組員ハ其ノ消防組地域内ニ居住スル滿十八歳以上ノ男子ニシテ身體強壯素行善良ナル者ヨリ之ヲ選フヘシ

第三條 消防組ノ出動ハ命令又ハ信號ヲ以テシ其ノ信號方法ハ土地ノ狀況ニ依リ便宜之ヲ定ムヘシ

第四條 出動シタル消防組ハ警察官又ハ憲兵ノ命ヲ待ツニ非サレハ解散セシムヘカラス但シ警察官又ハ憲兵臨場セザルトキハ組頭、副組頭、小頭又ハ上班ノ消防手ヲシテ其ノ解散ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ニ依リ解散ヲ爲サムトスルトキハ必ス點檢ヲ行ハシムヘシ

第五條 警察署長、憲兵分遣所長ヲ含ム以下同シ

第六條 消防組及消防組員ハ警察署長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ職務ニ關シ贈遺ヲ受ケシムヘカラス

第七條 消防組員ハ組毎ニ一定ノ服裝ヲ爲サシムヘシ但シ地方ノ事情ニ依リテハ便宜ノ服裝ヲ爲スコトヲ得

第八條 消防組員ノ服務及懲戒ニ關スル規程ハ警務部長之ヲ定ム但シ懲戒ノ方法ハ解職及譴責ノ二種トスヘシ

○消防組規則施行ニ關スル件

大正四年七月二十八日
保安部第三四二號

客月二十二日總督府令第六十五號ヲ以テ消防組規則公布セラレ次テ總監部訓令發布相成候處右實施ニ關シテハ左記事項留意相成度依命通牒候也

記

- 一 消防組ヲ設置スルニ當リテハ面ノ經濟狀態ヲ顧慮シ其ノ設備實地ニ適合スル様注意ノコト
- 二 消防組ニハ組員名簿ヲ備ヘテ其ノ出入ヲ明ニシ又一定ノ會計帳簿ヲ備ヘテ其ノ收支ヲ明確ナラシムルコト
- 三 現ニ存スル消防組ハ規則附則第二項ニ依リ同規則ニ依リ設置セシモノト看做サルルニ付新ニ道長官ノ承認ヲ受クルノ要ナキモ費用收支ノ方法等ハ之カ調査書ヲ作り道長官ニ通報スルコト
- 四 消防組ヲ設置スルニハ面ノ區域ニ依ルチ本旨トスルモ土地ノ狀況其ノ他ノ事由ニ依リ必要已ムヲ得サル場合ハ面内ノ一部ヲ限リテ設置シ又ハ一面以上ニ跨ルコトアルモ差支ナシ
- 五 消防組内ニ部ヲ設クル場合ハ可成其ノ數ヲ多カラシメサル

○朝鮮道地方費令

大正九年七月二十九日
制令第五號

- 六 組内ノ部ノ名稱ハ何何消防組第何部ト稱セシメ部ノ長ハ小頭ヲ以テ之ニ充ツルコト
- 七 消防組織ハ内地人又ハ鮮人ノミチ以テシ若クハ内鮮人混合ヲ以テスルモ差支ナク其ノ地方ノ便宜ニ從フヘキコト
- 八 副組頭ハ内鮮人混合組織ノ場合又ハ組頭ニシテ自己ノ業務上多ク自ラ消防事務ヲ處理スルコト能ハサルカ如キ場合ニ非サレハ之ヲ置カサル旨ナルニ付可成此ノ方針ニ依ルコト
- 九 既設消防組ノ組員ヲ引續キ採用セムトスルニハ新ニ辭令ヲ交付スルヲ要セス其ノ旨ヲ通達スルヲ以テ足ル
- 十 消防組員ノ服裝ヲ定ムル必要アルトキハ土地ノ狀況ニ應シ便宜之ヲ定ムヘシ但シ華美ニ流レ又ハ官吏ノ制服ニ紛ハシカラサル様注意ノコト
- 十一 特定ノ場合ヲ除クノ外消防組員ノ集合及運動ハ之ヲ禁セラレタルモ訓練修養ノ爲ニシテ別ニ弊害ナシト認ムルトキハ演習懇話會又ハ運動會ヲ行フ場合ニ限り所轄警察署長ニ於テ之ヲ認容スルモ差支ナシ
- 十二 出動信號ニ用ユル器具ハ必シモ警鐘タルヲ要セス土地ノ狀況ニ應シ警木其ノ他ノモノヲ用ユルモ可ナリ

以上

朝鮮道地方費令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

第一條 各道ノ地方費ハ道ノ地方稅其ノ他ノ道地方費ニ屬スル收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

第二條 法律勅令又ハ制令ニ規定アルモノノ外道地方費ヲ以テ支辨シ得ル費目左ノ如シ

- 一 土木費
- 二 勤業費
- 三 教育費
- 四 衛生費
- 五 救濟費
- 六 補助費
- 七 道評議會費
- 八 道地方費取扱費

第三條 地方稅トシテ賦課シ得ルモノノ左ノ如シ

- 一 國稅附加稅
- 二 特別稅

第四條 道地方費ニ屬スル營造物ノ使用ニ付テハ使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第五條 道地方費ヲ以テ支辨スル事業ノ爲特別ノ必要アルトキハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付テハ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

夫役又ハ現品ヲ賦課スルコトヲ得

第六條 道地方費ニ屬スル徵收金ニ付テハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵及還付ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第七條 地方稅、使用料、手数料及夫役現品並其ノ賦課徵收ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第八條 道地方費ハ永久ノ利益ト爲ルヘキ事業、舊債償還又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限り起債ヲ爲スコトヲ得

第九條 道地方費ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ之ヲ償還スヘシ

第十條 道地方費ニ關シ道知事ノ諮問ニ應セシムル爲道評議會ヲ置ク

道評議會ハ道知事及道評議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

道評議會員ノ定員ハ朝鮮總督之ヲ定ム

道評議會ハ道知事及道評議會員ヲ以テ之ヲ組織ス

道評議會ハ道知事ヲ以テ議長トス

第十一條 道知事ハ左ノ事件ヲ道評議會ニ諮問スヘシ但シ急施ヲ要シ道評議會ニ諮問スル暇ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス
一 歳入出豫算ヲ定ムル事但シ豫算ノ追加更正ニシテ地方稅、使用料又ハ手數料ニ増減變更ナキモノヲ除ク
二 地方稅、使用料、手數料又ハ夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
三 起債ニ關スル事
四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

第十二條 道評議會ハ道ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ道知事ニ提出スルコトヲ得

第十三條 道評議會員ハ道知事之ヲ命ス
道評議會員ハ名譽職トス

第十四條 道評議會員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケテ之ヲ解任スルコトヲ得

第十五條 前五條ニ規定スルモノノ外道評議會及道評議會員ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第十六條 道知事ハ毎會計年度道地方費ノ歳入出豫算ヲ調製スヘシ

道地方費ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第十七條 道地方費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ道評議會ノ諮問ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第十八條 道地方費ニ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第十九條 道地方費ノ歳入金及支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ歳入金及支拂金ノ例ニ依ル

第二十條 道地方費ノ財務ニ關スル事項並吏員ノ賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附 則

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

隆熙三年法律第十二號地方費法及大正八年制令第三號ハ之ヲ廢止ス

朝鮮道地方費令施行規則

大正九年七月二十九日 府令第五百五號

第一章 道評議會

第一條 道評議會員ノ定員左ノ如シ

京 畿 道	三十七人
忠 清 北 道	十八人
忠 清 南 道	二十四人
全 羅 北 道	二十四人

投票ハ無記名トシ選舉スヘキ候補者ノ員數ニ相當スル被選舉人ノ氏名ヲ記載スヘシ

投票ヲ終リタルトキハ面長ハ直ニ投票ヲ郡守島司ニ送致スヘシ

第六條 府尹、郡守又ハ島司ハ得票數最多キ者ヲ候補者ト定メテ道知事ニ報告スヘシ

候補者ヲ定ムルニ當リ得票數同シキトキハ年長者ヲ採リ年齡同シキトキハ府尹郡守又ハ島司抽籤シテ之ヲ定ムヘシ

第七條 道評議會員候補者ハ一年以來道内ニ住所ヲ有スル帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子ノ中ニ就キ之ヲ選舉スヘシ

左ニ掲ケル者及禁治産者、準禁治産者及六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者、家資分散若ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタルトキヨリ復權ノ決定スルニ至ル迄ノ者ハ道評議會員候補者ニ選舉スルコトヲ得ス禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル者其ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受ケルコトナキニ至ル迄亦同シ

一 其ノ道ノ官吏及行給吏員

二 其ノ道内府郡島ノ官吏及右給吏員

三 檢事及警察官吏

四 神職、僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校及普通學校ノ教員

六 現役中又ハ戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ陸海軍軍人

第八條 道評議會員ニシテ前條ニ規定スル資格ヲ關クニ至リタル

第二條 道評議會員ノ定員ノ三分ノ二ハ之ヲ府郡島ニ配當ス定員

ナ三分シ難キトキハ其ノ端數ニ相當スル員數亦同シ

前項ニ依リ府郡島ニ配當シタル道評議會員ハ府郡島毎ニ府面協議會員ノ選舉シタル候補者中ヨリ之ヲ命ス

第三條 前條ニ依リ選舉スルモノノ外道評議會員ハ學識名望アル者ニシテ第七條ニ規定スル資格ヲ有スルモノノ中ニ就キ之ヲ命ス

第四條 道評議會員候補者ノ選舉ハ各府郡島ニ於テ道知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ府郡島、選舉期日及選舉スヘキ候補者ノ員數ヲ記載シ選舉ノ日ヨリ少クトモ二十日前ニ之ヲ發スヘシ

第五條 道評議會員候補者ノ選舉ハ府尹面長ニ於テ府面協議會員ヲシテ投票ニ依リ之ヲ行ハシムヘシ

全 羅 南 道	三十四人
慶 尙 北 道	三十七人
慶 尙 南 道	三十三人
黃 海 道	二十七人
平 安 南 道	二十四人
平 安 北 道	三十人
江 原 道	三十一人
咸 鏡 南 道	二十五人
咸 鏡 北 道	十八人

トキハ其ノ職ヲ失フ其ノ資格ノ有無ハ道知事之ヲ決定ス

第九條 道評議會ハ道知事之ヲ招集ス

第十條 道評議會ハ道評議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレ

第十六條 道内ニ住所ヲ有セス又ハ三月以上滞在スルコトナシト

第十一條 道評議會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキ

第十七條 納稅者ノ道外ニ於テ所有シ使用シ占有スル土地家屋物

ハ議長ヲ開クコトヲ得ス

第十八條 國又ハ公共團體ニ於テ公用ニ供スル土地家屋物件及營

第十二條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ

造物ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ

開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

使用セシムル者及使用收益者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

議長ハ必要アリト認ムルトキハ道評議員ニ對シ發言ヲ禁止

國ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

シ、之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

神社寺院祠宇佛堂ノ用ニ供スル建物及其ノ境内地並教會所說教

第十三條 議長ハ會議錄ヲ調製シ會議ノ顛末及出席道評議員ノ

所ノ用ニ供スル建物及其ノ構内地ニ對シテハ地方稅ヲ賦課スル

氏名ヲ記載スヘシ

コトヲ得ス但シ有料ニテ之ヲ使用セシムル者及住宅ヲ以テ教會

會議錄ハ議長及出席道評議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要

所說教所ノ用ニ充ツル者ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

ス

墓地並外國政府ノ所有ニ屬スル領事館及其ノ敷地ニ對シテハ地

第十四條 道評議員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコト

方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

ヲ得

第十九條 永代借地及其ノ上ニ在ル建物ニ對シテハ其ノ借地料ヨ

費用辨償額及其ノ支給方法ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道知事之ヲ

リ國稅ヲ控除シタル金額方地方稅額ニ等シキトキ又ハ之ヲ超過

定ム

スルトキハ地方稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第二章 地方稅及夫役現品

第十五條 地方稅ハ道内ニ住所ヲ有スル者ニ對シ之ヲ賦課ス

第二十條 道知事ハ每會計年度地方稅其ノ他一切ノ收入ヲ歲入

三月以上道内ニ滞在スル者ニ對シテハ其ノ滞在ノ初ニ廻リ地方

トシ一切ノ經費ヲ歲入トシ歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前朝鮮

借地料ヨリ國稅ヲ控除シタル金額方地方稅額ヨリ少ナキトキハ

總督ノ認可ヲ受クヘシ

其ノ差額ヲ地方稅トシテ賦課スルコトヲ得

特別會計ニ屬スル歲入出ハ別ニ其ノ豫算ヲ調製スヘシ

第二十條 夫役現品ハ道内一部ノ府面又ハ一部ノ地方稅ノ納稅義

第二十七條 豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

務者ニ之ヲ賦課ス

第二十八條 豫算ノ追加又ハ更正ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

夫役現品ハ之ヲ金額ニ算出シテ賦課スヘシ

豫算ハ年度經過後ニ於テ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得ス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

第二十九條 道知事ハ豫算ノ認可ヲ受ケタル後直ニ其ノ要領ヲ告

夫役現品ハ金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

示スヘシ

第二十一條 地方稅ノ課目、課率及賦課ノ方法ハ朝鮮總督ノ認可

第三十條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ依ル

ヲ受ケ道知事之ヲ定ム

一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期ノ末日ノ屬スル年度

第二十二條 地方稅及夫役現品賦課ノ細目ニ係ル事項ハ關係府面

二 隨時ノ收入ニシテ告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ

ヲシテ之ヲ定メシムルコトヲ得

屬スル年度

第二十三條 道知事ハ特別ノ事情アル者ニ對シ地方稅ヲ減免シ又

ハ納稅ノ延期ヲ許スコトヲ得

三 隨時ノ收入ニシテ告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル

第二十四條 府面ハ道知事ノ指定シタル地方稅ヲ除クノ外其ノ府

日ノ屬スル年度但シ補助金、寄附金及起債收入ハ年度經過後

面内ノ地方稅ヲ徵收シ之ヲ道地方費ニ納入スルノ義務ヲ負フ

ト雖出納閉鎖期迄ハ之ヲ豫定シタル年度ノ歲入ト爲スコトヲ

前項地方稅徵收ノ費用ハ府面ノ負擔トシ道地方費ニ納入シタル

得

稅金ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ其ノ府面ニ交付ス

第三十一條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ依シ

地方稅ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一、第四條ノ三乃

一 費用辨償、給料其ノ他ノ諸給與及庸人料ノ類ハ其ノ支給ス

至第四條ノ八及第六條乃至第八條ノ規定ヲ準用ス

ヘキ事實ノ發生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定メア

第二十五條 道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ地方稅トシテ賦課ス

ルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度

ヘキ金額ノ一部ヲ府面ニ分賦スルコトヲ得

二 通信運搬費、土木建築費物件ノ購入代價其ノ他契約ニ依ル

支拂金ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
三 前二號ニ掲ケルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度但シ補助金及缺損補填ハ其ノ決定アリタル日ノ屬スル年度ノ歳出ト爲スコトヲ得

第三十二條 各年度ノ經費ハ其年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ翌年度ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第三十三條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ流用スルコトヲ得

第三十四條 道地方費ノ歳入ハ道知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員之ヲ徵收ス
道知事ハ府面ヲシテ地方稅以外ノ收入ヲ徵收セシムルコトヲ得

其ノ徵收ニ關シテハ第二十四條第二項ノ規定ヲ準用ス
第三十五條 支出ヲ爲サムトスルトキハ道金庫ニ對シ支拂命令ヲ發行スヘシ

支拂命令ハ道知事又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏員之ヲ發行ス
第三十六條 支拂命令ハ債主又ハ其ノ代理人ノ爲ニスルニ非サル

ハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第三十七條 入夫賃及道金庫所在地外ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

第三十八條 左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得
一 旅費
二 訴訟費用

第三十九條 前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ能ハサルモノニ限リ前金拂ヲ爲スコトヲ得

第四十條 歳入ノ誤納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ
歳出ノ誤拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂、概算拂又ハ繰替拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第四十一條 道地方費ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ之ヲ閉鎖ス
道知事ハ出納閉鎖後三月以内ニ決算ヲ調製シ之ヲ朝鮮總督ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ附スヘシ

第四十二條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第四十條ノ拂戻金及戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ
第四十三條 繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次

繰越使用スルコトヲ得

第四十四條 道地方費ニ出納吏ヲ置キ官吏員ノ中ニ就キ道知事之ヲ命ス
出納吏ハ出納事務ヲ掌ル

第四十五條 道地方費ニ屬スル現金ノ出納及保管ノ爲道金庫ヲ置ク

金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ道知事之ヲ定ム

第四十六條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ノ保管スル現金ハ道地方費ノ歳入歳出ニ屬スルモノニ限リ支出ニ妨ナキ限度ニ於テ道知事ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ハ道知事ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ納ムヘシ

第四十七條 道知事ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金及帳簿ヲ検査スヘシ

第四十八條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外財務ニ關シ必要ナル規定ハ道知事之ヲ定ム

第四章 監 督

第四十九條 左ニ掲ケル事件ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケヘシ

- 一 夫役現品ヲ賦課スル事
- 二 使用料、手数料ヲ新設シ増額又ハ變更スル事
- 三 起債ヲ爲シ並起債ノ方法、利率及償還方法ヲ定メ又ハ之ヲ

變更スル事

四 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

五 特別會計ヲ設ケル事

六 不動産ノ處分ニ關スル事

七 有給吏員ノ退職料、退職給與金、死亡給與金、遺族扶助料及其ノ支給方法ヲ定ムル事

八 歳入歳出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

附 則

本令ハ朝鮮道地方費令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス大正五年府令第八十三號及地方費諸收入徵收規則ハ之ヲ廢止ス
地方費賦課金、使用料及手数料賦課徵收ニ關スル從前ノ規定ハ地方費諸收入徵收規則ヲ除クノ外當分ノ内本令ニ依リ定メル地方稅、使用料、手数料ニ關スル規定トシテ仍其ノ効力ヲ有ス
大正九年度歳入歳出ノ經理ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

○朝鮮道地方費令等施行ノ件

大正九年八月二十三日 府令第百一十二號

朝鮮道地方費令、朝鮮學校費令大正九年制令第十二號及大正九年制令第十三號ハ大正九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參 照)

大正九年制令第十二號ハ府制中改正ノ件
大正九年制令第十三號ハ面制中改正ノ件

○輕便鐵道及軌道ノ建設、運輸其ノ他業務ニ關スル件府令廢止ノ件

明治四十五年朝鮮總督府令第百十九號ハ之ヲ廢止ス
大正九年十一月十日
府令第百七十七號

附 則

本令ハ大正九年制令第九號施行ノ目ヨリ之ヲ施行ス
公衆ノ用ニ供スル爲公共道路上ニ敷設スル軌道ノ建設、運輸其ノ他ノ業務ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

明治四十五年六月朝鮮總督府令第百十九號ハ輕便鐵道及軌道ノ建設、運輸其ノ他業務ニ關スル件ナリ

○土地測量標規則

大正四年一月 改正 大正六年二月
府令第一號 府令第一四號

第一條 本規則ニ於テ測量標ト稱スルハ土地調査令ニ依リ臨時土地調査局ニ於テ施行スル測量ノ爲設置スル標石、規標、標杭及旗標ヲ謂フ

測量標ノ種類及樣式ハ別記圖面ニ依ル

第二條 標石ハ永久ニ之ヲ保存シ規標、標杭及標旗ハ測量實施期間中之ヲ保存スルモノトス

第三條 臨時土地調査局ニ於テ標石又ハ規標ヲ設置シタルトキハ其ノ種類、番號、名稱及位置ヲ所轄警務部長(京城府ニ在リテハ警務總長以下

同)ニ通知スヘシ之ヲ移轉シ又ハ撤去シタルトキ亦同シ

第四條 警務部長ハ警察署長(警察分署長、警察署ノ事務ヲ取扱以下)ヲシテ其ノ管轄區域内ニ於ケル測量標ヲ監視セシムヘシ

第五條 警察署長ハ標石又ハ規標ノ亡失毀損其ノ他異狀アルコトヲ知リタルトキハ事由ヲ具シ直ニ臨時土地調査局ニ報告スヘシ

第六條 標石又ハ規標ハ諸測量ノ基準トシテ之ヲ使用スルコトヲ得

標石又ハ規標ヲ使用セムトスルトキハ其ノ事由、期間及測量標ノ種類並番號ヲ詳記シ所轄警務部長ヲ經テ臨時土地調査局長ニ申請スヘシ

標石ヲ使用スル場合ニ於テハ其ノ周圍二尺内ノ土地ニ標杭、規標又ハ標旗ヲ建設スルコトヲ得ス

第七條 測量標ノ周圍ニ於テ毀損又ハ其ノ效用ヲ害スヘキ虞アル事業ヲ爲サムトスルトキハ事由ヲ具シ所轄警務部長ヲ經テ臨時土地調査局長ニ申請スヘシ

第八條 官廳ニ於テ標石若ハ規標ヲ使用セムトスルトキハ前二條ノ規定ニ準シ臨時土地調査局ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 標石ヲ移轉除却若ハ毀壞シ又ハ其ノ效用ヲ害シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 規標、標杭又ハ標旗ヲ移轉、除却若ハ毀壞シ又ハ其ノ效用ヲ害シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十一條

測量標ニ瓦礫其ノ他雜物ヲ擲ケ獸類ヲ繫キ繩索ノ類ヲ懸ケ又ハ貼紙、戲書其ノ他惡戯ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第十二條 土地ノ測量ヲ完了シタルトキハ臨時土地調査局長ハ標石ノ種類、番號、名稱及位置ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ其ノ管理ヲ所轄道長官ニ引繼クヘシ

前項ノ引繼アリタル標石ニ付テハ第二條乃至第九條及第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ第五條ノ報告、第六條第二項及第七條ノ申請ハ之ヲ道長官ニ爲スコトヲ要ス第八條ノ承認ニ付亦同シ

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(圖面略)

○土地測量標ニ關スル件

大正九年十一月二十六日
官廳條例第百二號

各道知事宛

政 務 總 監

土地測量標規則ニ依ル土地測量標ノ成果ヲ請求シ又ハ土地測量標ノ移轉若ハ撤去ヲ申請スル者アルトキハ左記ニ依リ處理可相成此段及通牒候也

記

一 三角點又ハ水準點ノ成果(三角點ニ付テハ經緯度、眞方位角、平面縱橫線值、平面方位角及高程、水準點ニ付テハ高程)ヲ請求スル者アルトキハ點ノ所在、等級、番號又ハ名稱ヲ記シ本府

土木部長ニ請求セシムルコト

二 測量標石點ノ移轉撤去ヲ申請スル者アルトキハ三角點又ハ水準點ニ付テハ本府土木部長ノ承認ヲ受ケタル上ニテ、圖根標石點ニ付テハ貴官限リ適宜處理セラル、コト

